

V 教員の研究・調査活動

【凡例】

●基礎情報

- ①氏名 (family name, first name) ②所属・職名・役職・併任 ③生年 (任意) ④学歴・職歴 ⑤最終学位
⑥専門分野 ⑦主な研究テーマ ⑧所属学会 ⑨研究目的・研究状況・メールアドレス (任意)

●主要業績 (研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの)

- ・著書 (単著・共著・編著・監修)
- ・論文
- ・調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など
- ・展示図録・資料図録・映像・DB
- ・学会・外部研究会発表
- ・総研大リーフレット
- ・その他

●2019年度の研究教育活動 (成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む)

一 研究業績 (公開, 発表, 刊行済みのもの)

- 1 著書 (単著・共著・編著・監修)
- 2 論文 (査読あり, なしを明記)
- 3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
- 5 学会・外部研究会発表
- 6 総研大リーフレット
- 7 その他 (歴史系総合誌『歴博』, 友の会ニュース, 『本郷』など)

二 主な研究教育活動 (共同研究, 調査, 展示, 教育等)

- 1 主な共同研究等参加状況 (歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究)
 - ① 歴博 (基幹・基盤・開発型, 国内交流事業)
 - ② 他の機関
 - ③ 機構 (基幹研究プロジェクト)
- 2 外部資金による研究 (科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自身体による研究)
- 3 国際交流事業 (国際交流協定にもとづく事業, 国際シンポジウム・集会など)
- 4 主な展示・資料活動 (展示・資料・DBなど)
- 5 教育 (総研大シンポ, 大学院セミナー担当, 大学非常勤講師, 学位審査の主査・副査・委員, 博物館活動, 教育プログラムなど)

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員 (学会, 学術会議, 文化庁・学振・自治体審議委員など)
- 2 講演・カルチャーセンターなど (友の会も含む)
- 3 マスコミ (テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌など)
- 4 社会連携 (国内)
 - ① 刊行物 (自治体など地方公共団体刊行のもの: 市史, 発掘調査報告書など)
 - ② 共同研究 (自治体からの委託研究や産業界との共同研究)
 - ③ 講演会・シンポジウム (自治体など地方公共団体主催のもの)
 - ④ デジタル・コンテンツ開発 (自治体の経費で開発したもの)
- 5 国際連携 (日本国内で行われたものも含む)
 - ① JICA
 - ② 国際交流基金
 - ③ その他

四 活動報告

- 1 受賞歴
- 2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの（第四期の会、30年史編集委員会など）
- 3 研究・調査プロジェクト報告
- 4 その他（研究の目的、意義など）*任意

久留島 浩 KURUSHIMA Hiroshi 館長 (2014.4～)

併任：総研大日本歴史研究専攻教授 (2004～)，生年：1954

【学歴】東京大学文学部第二類（国史学）国史学科（1977年卒業），東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程修士課程（1980年修了），東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程博士課程（1983年単位取得退学）

【職歴】東京大学文学部助手（1983），千葉大学教育学部講師（1985），千葉大学教育学部助教授（1987），国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授（1998），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（1999），国立歴史民俗博物館歴史研究部教授（2003），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2003），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2004），国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2004～），歴史資料センター長併任（2006～2007），博物館資源センター長併任（2007～2009），副館長（館外担当）併任（2010～2012）

【学位】文学博士（東京大学・2002年取得）【専門分野】日本近世史【主な研究テーマ】日本近世後期の地域社会の歴史的な性格についての研究，近世社会における儀式・儀礼・祭礼の研究，歴史系博物館の教育プログラムに関する研究【所属学会】歴史学研究会，史学会，日本史研究会，地方史研究会【メールアドレス】kurushima@rekihaku.ac.jp

●主要業績

1. 【編著】久留島浩編『シリーズ近世の身分的周縁5 支配をささえる人々』272頁，吉川弘文館，2000年9月
2. 【単著】久留島浩著『近世幕領の行政と組合村』416頁，東京大学出版会，2002年8月
3. 【編著】久留島浩編『描かれた行列 武士・異国・祭礼』392頁，東京大学出版会，2015年10月
4. 【企画展示】平成24年度国立歴史民俗博物館企画展『行列にみる近世—武士と異国と祭礼と—』2012年10月～12月
5. 【学会・外部研究会報告】国際シンポジウム 久留島浩「国立歴史民俗博物館における博物館教育の試み」（歴博国際シンポジウム『歴史展示を考える—民族・戦争・教育』354頁 ※同名の報告書刊行：UM BOOKS, 2004年12月）

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「歴史系博物館の可能性—地域の歴史と向き合う・真摯に歴史と向き合う」岩城卓二・高木博志編『博物館と文化財の危機』，株式会社人文書院，pp.37-72，2020年2月18日

7 その他

「歴史系博物館の可能性—国立歴史民俗博物館での経験から—」『市大日本史』22，大阪市立大学日本史学会，pp.1-24，2019年5月18日

「豊かな長崎の歴史と文化を未来世代に伝えるために」『長崎の岬—日本と世界はここで交わった—シンポジウム「長崎県庁跡地を考える」報告書』，株式会社長崎文献社，pp.80-103，2019年10月10日

研究例会報告「歴史から何が学べるか？江戸時代との対話」『地球システム・倫理学会会報』第14号，株式会社行人社，pp.60-69，2019年10月25日

2019年度大会部会報告コメント：「尾崎真理「近世中後期における幕府の代官配置原則」について」，2019年度大阪歴史学会大会・総会，関西大学，2019年6月30日

「報告コメント 尾崎真理「近世中後期における幕府の代官配置原則」について」，『ヒストリア』278，大阪歴史学会，pp.76-92，2020年2月20日

二 主な研究教育活動

2 外部資金による研究

科学研究費基盤C「近代北海道におけるアイヌ民族と地域社会—有珠郡・幌別郡を中心に—」（研究代表者：千葉大学 檜皮瑞樹）研究分担者，2018～2022年度

科学研究費基盤B「熊本藩関係貴重資料群」の総合的解析による日本近世の意思決定構造の実証的研究」（研究代表者：熊本大学 今村直樹）研究分担者，2019～2022年度

科学研究費基盤B「日韓の歴史教科書及び博物館歴史展示における日本による植民地関係記述の比較研究」

(研究代表：上越教育大学 梅野正信) 研究分担者, 2019～2022年度

3 国際交流事業

久留島浩・天野真志「自然災害で被災した資料の救済と活用—『資料ネット』の活動と『歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業』について—」, ベトナム国家大学ハノイ校 人文社会科学大学・人間文化研究機構 学術交流協定締結記念シンポジウム「グローバル時代における人文学の日越協力」, ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学, 2019年11月12日

5 教育

総研大, 基礎演習 I・II

「歴博を100倍楽しむ方法—「歴史」と対話する楽しさ—」千葉大学文学部史学科・教育学部社会科ガイダンス, 国立歴史民俗博物館, 2019年5月11日

三 社会活動等

1 館外における各種委員

千葉県史編集委員, 港区新郷土資料館開設準備委員会委員, 日本銀行金融研究所貨幣博物館諮問委員, 江戸東京博物館運営委員会委員, 日本郵便郵便切手アドバイザーグループ委員, 同「日本の城シリーズ切手」の監修者, 八千代市立郷土博物館協議会委員, 水木十五堂賞選考委員会委員, 味の素食の文化センター評議員, 千葉県立佐倉高等学校SSH運営指導協議会委員, 日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会委員, ICOM京都大会2019組織委員会監事, 千葉県生涯学習審議会委員, 長野県立歴史館協議会委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「「歴史と向き合う」ということ」宮城歴史科学研究会 第22回「歴史学入門講座」, 東北学院大学, 2019年5月18日

「豊かな長崎の歴史と文化を未来世代に伝えるために—長崎の歴史遺産を自分たちのものに—」シンポジウム「長崎県庁跡地を考える 長崎の岬—日本と世界はここで交わった」, メルカ築町(長崎), 2019年6月2日

「歴博の活動について」(財)歴史民俗博物館振興会 理事会, 東京ガーデンパレス, 2019年6月10日

「歴博の活動について」(財)歴史民俗博物館振興会 評議員会, 霞会館, 2019年6月24日

「歴博を100倍楽しむ方法—「歴史」と対話する楽しさ—近世展示(17～19世紀)を中心に」JR東日本 大人の休日倶楽部, 旧佐倉順天堂～佐倉城址公園～国立歴史民俗博物館, 2019年6月27日

「国立歴史民俗博物館所蔵『江戸図屏風』を楽しむ」第17回お江の会 特別講演会, ギンザシックス オープンハウスサロン, 2019年8月4日

「近世城下町における祭礼行列の特色—「行列の時代」である近世社会との関わりで—」, 大洲八幡神社祭礼調査報告会(シンポジウム), 国立大洲青少年交流の家(愛媛県), 2019年11月17日

展示に係る有識者ヒアリング「国立歴史民俗博物館(歴博)について」, 第25回 国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討会議, 合同庁舎8号館, 2019年11月18日

「歴博を100倍楽しむ方法」埼玉歴史教育研究会, 国立歴史民俗博物館第二研修室, 2019年12月7日

「これからの博物館で必要なこと・歴博を楽しむ」佐倉市民カレッジ, 国立歴史民俗博物館ガイダンスルーム, 2019年12月12日

「幕末・維新期の民衆運動」国立歴史民俗博物館友の会主催 館長特別講演会, 国立歴史民俗博物館 講堂, 2019年12月15日

3 マスコミ

連載コラム 日本遺産へ行こう! 北総四都市江戸紀行(千葉県)解説, JR東日本会員誌「大人の休日倶楽部」(2019年5月号) 133, 東日本旅客鉄道株式会社, pp.66-67, 2019年4月25日

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

「千葉の豊かな歴史と文化を将来世代に 歴博で今取り組んでいること これまでに私が千葉県民として取り組んできたこと」第1回次世代へ光り輝く「教育立県ちば」を実現する有識者会議, ホテルポートプラザちば2階ロイヤル, 2019年5月9日

「豊かな長崎の歴史と文化を未来世代に伝えるために」長崎県議会総務委員会, 長崎県議会, 2019年7月4日

「豊かな長崎の歴史と文化を未来世代に伝えるために」長崎県議会文教委員会, 長崎県議会, 2019年9月25日

5 国際連携

② 国際交流基金

「江戸時代探求」―「行列」から見た江戸時代」国際交流基金 ブダペスト日本文化センター主催 講義企画、
ブダペスト市アラニティーズ文化センター，2020年2月13日，ハンガリー

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

在職中に収集した近世・近代史料を中心に劣化の進んだマイクロフィルムのデジタルデータ化を行った。
今回は、福島文化センター 出羽 幕領佐藤家文書，山梨県立図書館 太田家文書，国立史料館 佐藤家文書を中
心に再度の撮影が困難な史料群も含まれるためデジタル化による保存を優先した。

【研究部】（50音順）

青木 隆浩 AOKI Takahiro 准教授（2008.10～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2010～）

【学歴】法政大学文学部地理学科（1993年卒業），明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士前期課程（1996年修了），
東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士後期課程（2000年修了）

【職歴】国立歴史民俗博物館民俗研究部助手（2002），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館
研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），大学共同
利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本
歴史研究専攻准教授併任（2010）

【学位】学術博士（東京大学）（2000年取得）【専門分野】地理学，民俗学，産業史【主な研究テーマ】酒造業，化
粧品・トイレタリー産業，商家経営，社会規範【所属学会】日本民俗学会，社会経済史学会，経営史学会，日本地
理学会，東京地学協会，人文地理学会，歴史地理学会，環境科学会，酒史学会【研究目的・研究状況】主要な関心
は，近現代の清酒製造業を事例として，中小零細企業の多い伝統的な産業が長く経営を維持してきた要因を，商家
の組織や，技術継承の方法，組合や品評会，戦時統制などの政策の影響といった複合的な要因から明らかにするこ
とである。また，近代の禁酒運動や未成年者喫煙禁止法をおもな対象として，社会規範の形成過程を追いかけてい
る。他にも，近年は観光化を目的とした景観保護が，地域の生活や文化にどのような影響を与えているか，近代以
降に人々の衛生観や美容観がどのように変化したかといった研究テーマに取り組んでいる。

●主要業績

1. 【著書】青木隆浩『近代酒造業の地域的展開』258+9頁，吉川弘文館，2003年12月
2. 【概説書】国立歴史民俗博物館+青木隆浩編『人と植物の文化史』180頁，古今書院，2017年3月
3. 【研究報告特集号】青木隆浩編著『地域開発における文化の保存と利用』国立歴史民俗博物館研究報告第193集，
303頁，2015年2月
4. 【展示図録】青木隆浩編著『身体をめぐる商品史』国立歴史民俗博物館平成28年度企画展示図録，125頁，2016
年12月
5. 【映像】青木隆浩監督「平成の酒造り」製造編88分，継承・革新編88分，毎日映画社編集協力，2010年3月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

7 その他

「伝統の朝顔20年の歩み」国立歴史民俗博物館友の会ニュースNo.204，pp.1-2，2019年8月
「石鹸・化粧品の近現代史」国立歴史民俗博物館友の会ニュースNo.206，pp.1-2，2019年12月
「第4展示室 石鹸・化粧品の近現代史」総合誌「歴博」218号，国立歴史民俗博物館，p.23，2020年1月

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「近代日本における産業・労働の展開とジェンダー」（研究代表者：横山百合子），2019～2021年度

基盤研究「歴博研究映像の制作・保存・活用—苧麻文化の映像記録化を中心に」（研究代表者：春日聡），2019～2021年度

2 外部資金による研究

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）「1930～1960年代における化粧文化の実態」（研究代表者：青木隆浩），2017～2019年度

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）「醸造業による農村工業化と和食文化の形成に関する地域比較研究」（研究代表者：井奥成彦），2017～2020年度

4 主な展示・資料活動

特集展示「石鹼・化粧品品の近現代史」（展示代表者：青木隆浩），2019年12月3日～2020年8月30日

総合展示第5・6展示室リニューアル展示プロジェクト委員

5 教育

慶應義塾大学文学部非常勤講師（地理学Ⅰ・Ⅱ）

関東学院大学人間共生学部非常勤講師（食の生活文化史）

三 社会活動等

1 館外における各種委員

歴史地理学会評議員

歴史地理学会編集委員

3 マスコミ

「第一次日焼けブームの到来」『Kanebo歴史コラム』第4回「日本の化粧文化の醸成」特別寄稿，https://www.kanebo-cosmetics.co.jp/company/history-column/episode_02.html，株式会社カネボウ化粧品，2019年4月

青山 宏夫 AOYAMA Hiro'ō 教授（2008～）

併任：総合研究大学院大学教授（2008～）

【学歴】京都大学文学部（1980年3月卒業），京都大学大学院文学研究科修士課程（1983年3月修了），京都大学大学院文学研究科博士後期課程（1983年9月中途退学）

【職歴】東京都立大学理学部助手（1983.10～1988.3），新潟大学人文学部講師（1988.4～1990.3），新潟大学人文学部助教授（1990.4～1998.3），国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授（1998.4～2004.3），総合研究大学院大学文化科学研究科助教授併任（1999.4～2007.3），人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004.4～2007.3），人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007.4～2008.3），総合研究大学院大学文化科学研究科准教授併任（2007.4～2008.3），人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2008.4～），総合研究大学院大学文化科学研究科教授併任（2008.4～），人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究推進センター長（2009.4～2011.3），人間文化研究機構国立歴史民俗博物館副館長・研究総主幹（2011.4～2013.3），人間文化研究機構国立歴史民俗博物館副館長（2014.4～2017.3）

【学位】京都大学博士（文学）【専門分野】歴史地理学【主な研究テーマ】中世日本における景観の歴史地理学的研究，地理的知識の形成と変遷に関する地図史的研究【所属学会】人文地理学会，日本地理学会，歴史地理学会，史学研究会

●主要業績

1. 【単著】『前近代地図の空間と知』校倉書房，口絵4p+426頁，2007年3月
2. 【単著】『日本海とその周辺諸地域の地理的知識の形成と日本海の呼称に関する研究』新潟大学，142頁，1997年3月
3. 【編著】『オランダ・ドイツに所在するシーボルト関係地図資料—ライデン・ミュンヘン・ブランデンシュタイン城を中心に—』国立歴史民俗博物館，97頁，2016年3月
4. 【単著】「シーボルトが手に入れた日本図と日本の地理情報」『地図』56巻1号，日本地図学会，pp.24-39，2018年3月（査読有）
5. 【編著】歴博企画展示図録『風景の記録—写真資料を考える—』国立歴史民俗博物館，155頁，2011年11月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

「地圖空間與地理思想」王志宇・李建緯（主編）・蔡馨慧（編輯）『文獻・文物的詮釋與歷史記憶 Interpreting Documents : Artefacts and Historical Memory』逢甲大學歷史與文物研究所, pp.1-24, 2019年4月

2 論文

「東北地方のカリヤドという地名—中世の道と渡河—」『史林』102巻5号, 史学研究会, pp.69-93, 2019年9月30日（査読有）

7 その他

「筑後川の治水と利水」『歴博』215号, 国立歴史民俗博物館, pp.16-17, 2019年7月20日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化形成」2019年度
開発型共同研究「歴史災害研究のオープンサイエンス化に向けた研究」2018年度～2019年度

③ 機構

基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」2016年度～2019年度

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究（A）「伊能図の成立に関する学際的研究—忠敬没後200年目の地図史的検証—」（研究分担者）2018年度～2021年度

4 主な展示・資料活動

国立歴史民俗博物館総合展示第2室「東国と西国」「民衆の生活と文化」「大航海時代の中の日本」展示担当者
国立歴史民俗博物館総合展示第3室「近世日本へのアプローチ」「絵図・地図にみる近世」展示担当者

5 教育

高崎経済大学地域政策学部非常勤講師「博物館資料論」
総合研究大学院大学文化科学研究科「画像資料論」

三 社会活動等

1 館外における各種委員

歴史地理学会評議員, 史学研究会評議員, 人文地理学会代議員

2 講演・カルチャーセンターなど

「伊能日本図からシーボルト日本図へ—ドイツとオランダの新出資料から—」長崎歴史文化博物館, 伊能図科
研・れきぶん長崎学連携講座, 2019年5月12日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

福島県・静岡県・長野県・愛知県等で現地調査を実施するとともに, 各地の博物館・資料館・図書館等において地名・伝承・歴史景観等に関する資料を収集した。なお, 昨年度の本プロジェクトおよび今年度の成果の一部は, 『史林』102巻5号（2020年9月30日発行）に論文（査読有）として掲載された。

荒木 和憲 ARAKI Kazunori 准教授（2015.7～）

生年：1978年

【学歴】九州大学文学部史学科日本史学専攻（2001年卒業）, 九州大学大学院人文科学府歴史空間論専攻日本史学専修修士課程（2003年修了）, 九州大学大学院人文科学府歴史空間論専攻日本史学専修博士後期課程（2006年修了）

【職歴】独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館学芸部研究員（2008）, 文化庁文化財部美術学芸課文部科学技

官（2009），独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館学芸部研究員（2012），同主任研究員（2013），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2015.7～）

【学位】博士（文学，九州大学）（2006年取得）【専門分野】日本中世史・東アジア交流史【主な研究テーマ】中世日本と東アジアとの交流史，日朝交流史【所属学会】史学会，九州史学研究会【研究目的・研究状況】https://www.rekihaku.ac.jp/research/researcher/araki_kazunori/

●主要業績

1. 【著書】荒木和憲『中世対馬宗氏領国と朝鮮』（山川出版社，329頁，2007年）
2. 【著書】荒木和憲『対馬宗氏の中世史』（吉川弘文館，289頁，2017年）
3. 【論文】荒木和憲「中世日朝通交貿易の基本構造をめぐって」（『朝鮮史研究会論文集』51，pp.79-109，2013年）
4. 【論文】荒木和憲「中世前期の対馬と貿易陶磁」（『貿易陶磁研究』37，pp.3-26，2017年）
5. 【論文】荒木和憲「己酉約条の締結・施行過程と対馬の「藩営」貿易」（韓日文化交流基金編『壬辰倭乱から朝鮮通信使の道へ』韓国・景仁文化社，pp.107-142，2019年3月）

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 1 著書
小島道裕・田中大喜・荒木和憲編，国立歴史民俗博物館監修『古文書の様式と国際比較』，432頁，勉誠出版，2020年2月28日
- 2 論文
「『壬辰戦争』の講和交渉」公益財団法人渥美国際交流財団，『SGRAレポート』86，pp.54-74，2019年9月20日
「中世日本の往復外交文書」上掲『古文書の様式と国際比較』，pp.302-327，2020年2月28日
「日朝講和交渉過程と偵探使」韓国・全州大学校韓国古典学研究所，『共存の人文』3，pp.141-182，2020年2月28日（日本語版は「日朝講和交渉過程における偵探使の位置づけ」と題し，韓日文化交流基金編『近世韓日関係の実像と虚像』韓国・景仁文化社，2020年3月31日に収録）
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
「中世日本東アジア交流史に関する史料集成」データベース（試験公開中<https://khirin-ld.rekihaku.ac.jp/>，科研費研究成果）
- 5 学会・外部研究会発表
「日朝講和交渉における探賊使の役割」2019年韓日国際学術大会「近世韓日関係の実像と虚像—略奪と共存，戦争と平和—」ソウル市ケンジントンホテル，2019年10月18日
- 7 その他
「西福寺の元版大般若経と対馬宗氏」九州国立博物館，『版経東漸』，pp.61-63，2019年10月29日
「『西国の覇者』の二つの視線」国立歴史民俗博物館，歴史系総合誌『歴博』217，p.1，2019年11月20日
「大内義隆の虚像と実像」国立歴史民俗博物館，歴史系総合誌『歴博』217，pp.16-17，2019年11月20日
「船舶と航海の視点から国際交流を考える」歴博友の会ニュース 205，2019年10月5日

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
 - ① 歴博
基盤研究「高精度同位体比分析法を用いた古代青銅原料の産地と採鉱に関する研究」（研究代表者：齋藤努，2018～20年度，共同研究員）
総合資料学奨励研究「田中穰氏旧蔵本『活套』の紙質及び紙背文書に関する研究」（研究代表者：東京大学史料編纂所 須田牧子，2019年度，研究副代表者）
共同利用型共同研究「『豊後若林家文書』の伝来検討と関連水軍史料との比較」（研究代表者：名古屋学院大学 鹿毛敏夫，2019年度，館内担当）
 - ② 他の機関
東京大学史料編纂所一般共同研究「史料編纂所所蔵明清中国公文書関係史料の比較研究」（研究代表者：東京大学 渡辺美季，2019年度，共同研究員）

③ 機構

機関拠点型基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」
(研究代表者：西谷大, 2016～2021年度, 共同研究員)

ネットワーク型基幹研究プロジェクト「ハーグ国立文書館所蔵平戸オランダ商館文書の調査研究・活用」(研
究代表者：国際日本文化研究センター クレインス・フレデリック, 2016～2021年度, 共同研究員)

2 外部資金による研究

基盤研究 (B) 「中世日本の東アジア交流史に関する史料の集成的研究と研究資源化」(研究代表者, 2016～
2020年度)

基盤研究 (B) 「東アジア三国 (日中韓) 関係史料の研究資源共有化と実践的交流の研究」(研究代表者：東京
大学史料編纂所 榎原雅治, 2016～2019年度, 研究分担者)

基盤研究 (A) 「高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究」(研
究代表者：齋藤努, 2017～2020年度, 研究分担者)

基盤研究 (A) 「琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家」(研究代表者：村木二郎, 2018～
2021年度, 研究分担者)

4 主な展示・資料活動

企画展示「海がつなぐ日本と韓国」展示プロジェクト委員

企画展示「中世・琉球の海」展示プロジェクト副代表

企画展示「中世武士団」(仮) 展示プロジェクト副代表

館蔵中世古文書データベース (更新中)

5 教育

立教大学文学部兼任講師

三 社会活動等

1 館外における各種委員

九州史学研究会 編集委員 (2012年度～)

福岡市史編集委員会中世専門部会 専門委員 (2008年度～)

韓国・江原史学会 編集委員 (2017年度～)

日本貿易陶磁研究会 世話人 (2017年度～)

2 講演・カルチャーセンターなど

「大友氏領国と茶の湯文化」大友氏館跡発掘20周年シンポジウム「戦国大名大友氏の館と権力」, ホルトホール
大分, 2019年5月12日

「益田と対馬をつなぐ海上交通路」歴博フォーラム「中世益田の世界」, 島根県芸術文化センター・グラントワ,
2019年11月2日

「進貢船の意匠と航海信仰」『琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料』出版記念シンポジウム, 沖縄県立博物館・
美術館, 2019年12月7日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

今年度は, 2018年度で終了した共同研究の分担課題に関する補足的な調査・研究を行い, その成果として, 共
編著1編 (『古文書の様式と国際比較』), 論文3編 (『国立歴史民俗博物館研究報告』特集号に投稿中), 講演
1回 (歴博フォーラム) を得た。このほか, 対馬宗家歴代肖像画の総合調査のための予備調査を実施した。

上野 祥史 UENO Yoshifumi 准教授 (2009.10～)

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授 (2010～)

【学歴】京都大学文学部史学科考古学専攻 (1996年卒業), 京都大学大学院文学研究科考古学専修修士課程 (1999年
修了), 京都大学大学院文学研究科考古学専修博士後期課程 (2000年中退)

【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手 (2000), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館
研究部助手 (2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教 (2007), 大学共同利

用機関法人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2009）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2010）

【学位】文学修士（京都大学）（1999年取得）【専門分野】東アジア考古学【主な研究テーマ】漢三国六朝期の古代東アジア世界の展開Archaeological Study of Ancient East Asia【所属学会】史学研究会、考古学研究会、日本中国考古学会【研究目的・研究状況】漢三国六朝期、つまり弥生時代から古墳時代にかけての時期を対象に、東アジア世界各地の相互交渉を研究の目的の一つとしている。鏡や装身具などの金工具を検討し、価値・観念・製作技術という視点から、中国大陸と日本列島の社会動態を描き出すことに取り組んでいる。

●主要業績

1. 【論文】「画象鏡の系列と製作年代」『考古学雑誌』第86巻第2号、日本考古学会、pp.1-39、2001年
2. 【論文】「3世紀の神獣鏡生産—画文帯神獣鏡と銘文帯神獣鏡—」『中国考古学』第7号、日本中国考古学会、pp.189-216、2007年
3. 【共編著】『マロ塚古墳出土品を中心にした古墳時代中期武器武具の研究』国立歴史民俗博物館研究報告第173集、総624頁、2012年
4. 【編著】『祇園大塚山古墳と5世紀という時代』六一書房、総136頁、2013年
5. 【共編著】『古代東アジアにおける倭世界の実態』国立歴史民俗博物館研究報告第211集、総512頁、2018年

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

上野祥史編『国立歴史民俗博物館研究叢書7 東アジアと倭の眼でみた古墳時代』200頁、朝倉書店、2020年3月

2 論文

「後漢・三国鏡の生産動向」實盛良彦編「銅鏡から読み解く2～4世紀の東アジア 三角縁神獣鏡と関連鏡群の諸問題」アジア遊学237、勉誠出版、pp.30-44、2019年8月30日

「朝鮮半島南部の鏡と倭韓の交渉」『国立歴史民俗博物館研究報告』217集、pp.291-317、2019年9月20日（査読有）

「南北朝時代に保有した鏡」白石太一郎先生傘寿記念論文編集委員会『古墳と国家形成期の諸問題』、山川出版社、pp.389-394、2019年10月20日

「古代中国の皇帝陵—モニュメントとしての前漢皇帝陵—」国立歴史民俗博物館編・松木武彦ほか編『日本の古墳はなぜ巨大なのか—古代モニュメントの比較考古学—』、吉川弘文館、pp.152-173、2020年3月10日（査読有）

「古墳時代を評価する複数の眼—東アジア・王権・地域社会—」『東アジアと倭の眼でみた古墳時代』朝倉書店、pp.1-15、2020年3月（査読有）

「古墳時代中期の鏡と入西石塚」『入西石塚古墳出土遺物整理報告書』坂戸市教育委員会、pp.41-54、2020年3月25日

「下北方5号地下式横穴墓の鏡と保有の意義—古墳時代中期中葉の鏡の分与・分配—」『下北方5号地下式横穴墓』宮崎市文化財調査報告書第128集、宮崎市教育委員会、pp.241-256、2020年3月

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基盤研究「近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属生産と社会」副代表（2019～2021年度）

基盤研究「古墳時代・三国時代の日朝関係における交渉経路と寄港地に関する日韓共同研究」副代表（2019～2021年度）

2 外部資金による研究

基盤研究（B）「林業遺産の保存と持続的な活用による林業教育・地域づくりの可能性」研究分担者（2016～2019年度）

基盤研究（B）「器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持」研究分担者（2019～2022年度）

新学術領域研究（研究領域提案型）「心・身体・社会をつなぐアート／技術」研究分担者（2019～2023年度）

4 主な展示・資料活動

総合展示第1室「IV倭の登場」「V倭の前方後円墳と東アジア」展示プロジェクト委員
企画展示「加耶—古代東アジアを生きた、ある王国の歴史—」展示副代表

5 教育

上智大学非常勤講師「東洋考古学Ⅱ」

女子美術大学非常勤講師「文化遺産学A・B」「比較文化論」「芸術文化ゼミⅢ」

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本考古学会監査・日本中国考古学会幹事・木更津市史編集部会員

3 マスコミ

「盤龍鏡 発見続き熱視線」（北陸歴史よもやま話），読売新聞，2019年8月

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

中国における秦漢時代から三国兩晋南北朝時代の出土資料を集成し，器物の生産・流通および葬送観念を通じて物質文化論的視点から中国古代・中世社会の構造を検討すること，中国文物を通じた朝鮮半島・日本列島との交流について検討すること目的としている。当該年度の研究成果は、『日本の古墳はなぜ巨大なのか』（吉川弘文館），『東アジアと倭の眼でみた古墳時代』（朝倉書店）等をはじめ，古墳時代関係各種論考において公開し，企画展示の分担課題の推進に活用した。

内田 順子 UCHIDA Junko 准教授（2007.8～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2009～）

【学歴】東京芸術大学音楽学部楽理科（1990年卒業），東京芸術大学大学院音楽研究科音楽学専攻（1993年修了，総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻博士後期課程（1997年修了）

【職歴】国際日本文化研究センター中核的研究機関研究員（1997），日本学術振興会特別研究員（1997），国立歴史民俗博物館民俗研究部助手（1999），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館民俗研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2009）

【学位】学術博士（総合研究大学院大学）（1997年取得）【専門分野】音楽学，民俗学【主な研究テーマ】音楽の伝承過程についての研究／資料批判に基づいた映像研究【所属学会】東洋音楽学会，日本音楽学会，沖縄文化協会，日本民俗学会【研究目的・研究状況】ある社会において神聖なものの位地に置かれている音楽の伝承過程や伝承方法を明らかにするため，宮古島をフィールドとして調査研究を継続している。また，歴史的な映像を資料批判的研究に基づいて再解釈することをとおして，映像の歴史資料として可能性と限界を考察する研究を実施している。

●主要業績

1. 【著書】

内田順子（編）・国立歴史民俗博物館（監修）『映し出されたアイヌ文化—英国人医師マンローの伝えた映像』160頁，吉川弘文館，2020年

『宮古島狩侯の神歌—その継承と創成—』思文閣出版，2000年

2. 【論文】

「与えられたことば—宮古島狩侯における神歌の継承—」，斎藤英喜編『呪術の知とテクネー—世界と主体の変容—』，森話社，pp.107-136，2003年

3. 【調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など】

『国立歴史民俗博物館研究報告』第168集（「マンローコレクション研究—写真・映画・文書を中心に—」），299頁，2011年

4. 【展示図録・資料図録・映像・DB】

民俗研究映像「AINU Past and Present—マンローのフィルムから見えてくるもの」（ビデオ，102分，監督：

内田順子・鈴木由紀, 制作: 内田順子・岡田一男), 2007年

5. 【その他】

「平成17年度 国立歴史民俗博物館 民俗研究映像『AINU Past and Present—マンローのフィルムから見えてくるもの—』: 映画フィルムの資料批判的研究に関連する研究ノート」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』150, 国立歴史民俗博物館, pp.179-192, 2009年

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

内田順子 (編)・国立歴史民俗博物館 (監修) 『映し出されたアイヌ文化-英国人医師マンローの伝えた映像』160頁, 吉川弘文館, 2020年

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

(映像編集) N.G.マンロー「一般に「アイヌのクマ祭り」と呼ばれるカムイ・イヨマンテ, すなわち神送り」, 同英語版“The KAMUI IOMANDE or DIVINE DESPATCH commonly called The AINU BEAR FESTIVAL”国立歴史民俗博物館, 2020年3月31日, 協力: 株式会社東京シネマ新社

アイヌ語カルタのデジタルコンテンツ「Link Card 声でそろえるアイヌ語」開発, 企画開発: 株式会社ピコトン, 協力: 株式会社東京光音

5 学会・外部研究会発表

UCHIDA Junko, NISHITANI Masaru, SHIMADATE Riko “Nigo-ana: The Past, Present and Future of the People Intertwined with Water and Rice” 地方博物館国際委員会 (第25回ICOM京都大会2019), 稲盛記念会館 (京都), 2019年9月4日 (査読有)

7 その他

UCHIDA Junko, NISHITANI Masaru, SHIMADATE Riko (共著) “Nigo-ana: The Past, Present and Future of the People Intertwined with Water and Rice” 56頁, Programme & Abstracts for 2019 ICR Annual Conference in Kyoto & Osaka, pp.38-39, 2019年8月30日 (査読有)

「開催趣旨」歴博国際シンポジウム「博物館と多文化社会」, 国立歴史民俗博物館, p.2, 2019年10月26日

「平取アイヌ文化保存会によるアイヌ古式舞踊とマンローフィルムの紹介」歴博国際シンポジウム「博物館と多文化社会」, 国立歴史民俗博物館, p.7, 2019年10月27日

「神さまの道行」歴史系総合誌「歴博」214, 国立歴史民俗博物館, p.6, 2019年5月20日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

③ 機構

機構基幹研究プロジェクト (広領域連携型基幹研究プロジェクト: 日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築)「地域における歴史文化研究拠点の構築」(2016~2021年度) 共同研究員

2 外部資金による研究

科研基盤研究C「民謡現地調査録音資料のアーカイブ化と公開活用の方法」(2017~2019年度) 研究分担者

科研基盤研究B「文化の主体的継承のための民俗誌の構築-マルチメディアの活用と協働作業を通じて」(2018~2022年度) 研究分担者

科研基盤研究A「『研究に真に使える』歴史資料情報基盤の構築—データ持続性研究と人文情報学の実践—」(2018~2020年度) 研究分担者

3 国際交流事業

国際交流事業「先住民に関する歴史表象と博物館展示についての比較研究」(2014~2019年度)

4 主な展示・資料活動

総合展示第4室「『民俗』へのまなざし」展示プロジェクト委員

総合展示第5室「近代」展示プロジェクト委員

2020年度企画展示「性差の日本史」展示プロジェクト委員

5 教育

國學院大学非常勤講師「映像文化論」

三 社会活動等

2 講演・カルチャーセンターなど

『『世界無形文化遺産 来訪神 仮面・仮装の神々』の現在—南西諸島を中心に—』（第33回歴博映画の会）、国立歴史民俗博物館、2019年7月6日

「趣旨説明」（歴博研究映像「二五穴」上映会）君津市シニアクラブ連合会清和支部研修会、君津市清和公民館、2020年1月17日

「映像の意図」（歴博研究映像「二五穴」上映会）、君津市上総地域交流センター、2020年2月9日

「映像の意図」（歴博研究映像「二五穴」上映会）、君津市立中央図書館、2020年2月9日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

平取町立アイヌ文化博物館において、モバイル型展示ユニットを活用したアイヌ文化に関する展示事業について打合せをおこなった。また、伝統的知識の展示につなげるため、映像・音響資料に関する書籍のほか、映像・音響資料の収集に係る機器を購入し、研究成果の博物館コンテンツ化に役立てた。

大久保 純一 OKUBO Jun'ichi 教授（2008.4～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2008～）、生年：1959

【学歴】東京大学文学部第二類（史学）美術史学専修課程（1982年卒業）、東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程（1984年修了）

【職歴】名古屋大学文学部助手（1985）、東京国立博物館研究員（1987）、跡見学園女子大学文学部助教授（1995）、国立歴史民俗博物館情報資料研究部助教授（2000）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2001）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2008）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2008）、博物館資源センター長併任（2009～2010、2016～2018）、副館長併任（2012～2013）、町田市立国際版画美術館館長（非常勤、2019～）

【学位】博士（文学）（東京大学）（2006年取得）【専門分野】日本近世絵画史【主な研究テーマ】浮世絵、江戸後期の風景表現【所属学会】美術史学会、国際浮世絵学会【研究目的・研究状況】浮世絵を江戸時代絵画史、出版文化史および江戸の都市史の中に位置づけて考察すること。

●主要業績

1. 【著書】大久保純一『広重と浮世絵風景画』317頁、東京大学出版会、2007年4月
2. 【著書】大久保純一『浮世絵出版論 大量生産・消費される〈美術〉』226頁、吉川弘文館、2013年4月
3. 【概説書】大久保純一『千変万化に描く 北斎の富嶽三十六景』127頁、小学館、2005年9月
4. 【概説書】大久保純一『カラー版 浮世絵』（岩波新書）、196頁、岩波書店、2008年11月
5. 【概説書】大久保純一『カラー版 北斎』（岩波新書）、194頁、岩波書店、2012年5月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「広重が描いた京橋界限」『目の眼』520号、pp.50-53、2020年1月号

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

展示図録特集展示『もののけの夏—江戸文化に見る幽霊・妖怪—』、国立歴史民俗博物館、2019年7月30日

5 学会・外部研究会発表

企画展関連講演「歌麿美人画の特質と影響」町田市立国際版画美術館、2019年11月9日

国際浮世絵学会113回研究会「清長・歌麿の背景描写について」町田市立国際版画美術館、2019年10月14日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

③ 機構

「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用—日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築—」, 2016年度～

2 外部資金による研究

科研基盤研究 (C)「幕末世相取材錦絵の美術史的研究」(2017年度～2019年度) (代表)

3 国際交流事業

イギリス・ウエルズ国立博物館における, 日本の歴史展示構築のための調査研究 (代表)

4 主な展示・資料活動

特集展示「もののけの夏—江戸文化に見る幽霊・妖怪—」展示代表, 2019年7月30日～9月8日

第3展示室特集展示「描かれた寺社境内」展示代表, 2019年12月24日～2020年2月2日

三 社会活動等

1 館外における各種委員

佐倉市美術館運営委員, 太田記念美術館浮世絵研究助成選考委員, 国際浮世絵学会常任理事, 平木浮世絵財団評議員

2 講演・カルチャーセンターなど

企画展関連講演「広重の名所絵のつくられ方」静岡市美術館, 2019年6月30日

歴博講演会「浮世絵の中の妖怪—表現と機能—」国立歴史民俗博物館, 2019年8月10日

3 マスコミ

NHK総合, さし旅「富士山マニアとめぐるフジヤマLOVEツアー」出演, 2019年8月16日

NHK教育, 日曜美術館「浮世絵で見る忠臣蔵」出演, 2019年12月8日

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

講演「浮世絵の中の幽霊・妖怪—歴博「もののけの夏」展の紹介をかねて」成田市文化芸術センタースカイタウンホール, 2019年8月4日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

大阪・中之島香雪美術館をはじめとする近世絵画の美術展を調査するとともに, 錦絵や書籍など関係資料を収集し, おもに江戸後期の絵画表現に関する情報を蓄積した。

小倉 慈司 OGURA Shigeji 准教授 (2010.4～)

併任: 総研大日本歴史研究専攻准教授 (2010～)

【学歴】東京大学文学部国史学専修課程 (1990年卒業), 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻修士課程 (1992年修了), 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻博士課程 (1995年単位修得退学)

【職歴】放送大学非常勤講師 (1995), 日本学術振興会特別研究員 (P D) (1996), 宮内庁書陵部編修課研究員 (1996), 同主任研究官 (2003), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2010), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2010)

【学位】博士 (文学) (東京大学) (1999年取得) 【専門分野】日本古代史, 史料学 【主な研究テーマ】古代神祇制度の研究, 禁裏・公家文庫の研究, 延喜式の研究, 渡辺村史研究 【所属学会】木簡学会, 日本歴史学会, 日本史研究会, 大阪歴史学会, 出雲古代史研究会, 正倉院文書研究会, 古代学協会, 東方学会, 史学会

●主要業績

1. 【論文】「古代在地祭祀の再検討」(『ヒストリア』第144号, pp.113-139, 査読有, 1994年9月)
2. 【論文】「高松宮家伝来禁裏本」の形成過程」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第178集, pp.353-404, 査読有, 2013年3月)
3. 【概説書】小倉慈司・山口輝臣『天皇の歴史9 天皇と宗教』395頁, 講談社学術文庫, 2018年8月

4. 【展示図録】小倉慈司編著『文字がつなぐ—古代の日本列島と朝鮮半島—』国立歴史民俗博物館平成26年度企画展示図録, 247頁, 2014年10月
5. 【科研】基盤研究(B)「史料学的検討を重視した『延喜式』の基礎的研究」16H03485, 2016年4月～2020年3月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

『事典 日本の年号』451頁, 7章, 吉川弘文館, 2019年7月10日

2 論文

「古代の元号」『歴史と地理』725, 山川出版社, pp.1-14, 2019年6月

「皮革生産賤視観の発生」『日本史研究』691, 日本史研究会, 2020年3月(査読有)

「『延喜式』巻一七の写本系統と本文校訂」『国立歴史民俗博物館研究報告』218, 国立歴史民俗博物館, pp.103-125, 2019年12月27日(査読有)

「『延喜式』巻五校訂(稿)」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』218, 国立歴史民俗博物館, pp.41-68, 2019年12月27日(査読有)

3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など

「東山御文庫本『栲囊抄』解題・影印」田島公編『禁裏・公家文庫研究』7, 思文閣出版, pp.133-182, 2020年3月

吉岡眞之・田島公・小倉慈司編「高松宮家蔵書目録一覧」, 田島公編『禁裏・公家文庫研究』7, pp.346-242, 思文閣出版, 2020年3月

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

延喜式関係論文目録DB データ増補

春記 データ修正

5 学会・外部研究会発表

「皮革生産賤視観の発生」日本史研究会古代史部会例会, 機関紙会館, 2019年7月30日

「皮革生産賤視観の発生」日本史研究会古代史部会例会(大会個別報告代替報告), 機関紙会館, 2019年10月22日

「延喜神名式と式内社」皇学館大学史学会, 皇学館大学, 2019年11月21日

「全体コメント」シンポジウム『料紙研究×自然科学*古文書研究の新展開』東京大学本郷キャンパス, 2019年11月23日

7 その他

「正倉院文書の世界」吉川弘文館, 『わくわく!探検 れきはく日本の歴史1』pp.68-73, 2019年4月1日

「『勘例』に見える九世紀以前の史料」田島公編『陽明文庫 近衛家伝来の至宝』吉川弘文館, pp.32-33, 2019年4月30日

「2018年の歴史学界—回顧と展望—日本(古代)9」『史学雑誌』128-5, 史学会, pp.64-68, 2019年5月

「『令和』難陳」『本郷』113, 吉川弘文館, pp.24-26, 2019年9月

「包まれた食べ物の歴史—古代日本を中心として」『vesta』117, 味の素食の文化センター, pp.8-11, 2020年2月1日

「空海」「宇多天皇」「紀貫之」「紫式部」「大江匡房」日本歴史学会編『人とことば』, 吉川弘文館, 2020年3月10日

「『延喜式』は官人の業務マニュアル」, 歴史系総合誌『歴博』219, 国立歴史民俗博物館, p.1, 2020年3月20日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」分担者(2016～2021年度)

「『聆壽閣集古帖』の総合資料学的研究」分担者(2017～2019年度)

② 他の機関

国際日本文化研究センター共同研究「差別から見た日本宗教史再考—社寺と王権に見られる聖と賤の論理」共同研究員(2016～2019年度)

東京大学史料編纂所一般共同研究「前近代の和紙の構成物分析にもとづく古文書の起源地追跡」共同研究者
(2018～2019年度)

③ 機構

基幹研究プロジェクト「異分野融合による「総合書物学」の構築」ユニット「古代の百科全書『延喜式』の
多分野協働研究」代表 (2016～2021年度)

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究 (B)「史科学的検討を重視した『延喜式』の基礎的研究」研究代表者, 2016～2019年度
科学研究費基盤研究 (S)「天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展一知の体系の構造伝
来の解明」研究分担者, 2017～2021年度予定

科学研究費基盤研究 (A)「前近代人物情報論の構築にむけた花押・筆跡の網羅的収集と汎用的利用に関する
研究」研究分担者, 2017～2019年度

科学研究費基盤研究 (C)「出雲国造北島家文書の総合的研究」研究分担者, 2018～2020年度予定

科学研究費基盤研究 (A)「人権と差別をめぐる比較宗教史」研究分担者, 2019～2021年度予定

科学研究費基盤研究 (A)「国際古文書料紙学」の確立」研究分担者, 2019～2022年度予定

3 国際交流事業

「古代の天皇と神祇祭祀」天皇制と日本一歴史, 政治, 社会, 文化との関わりをめぐる一」学術シンポジウ
ム, 北京外国語大学, 2019年9月28日

4 主な展示・資料活動

総合展示第1室リニューアル委員, 第1室特集展示「庫外正倉院文書と盤龍鏡」展

5 教育

法政大学大学院史学専攻非常勤講師 (日本史学研究 I)

東京大学文学部非常勤講師 (日本史学特殊講義)

早稲田大学大学院非常勤講師 (日本史学特論)

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本歴史学会評議員・理事, 同学会誌『日本歴史』編集代表, 正倉院文書研究会委員, 『史学雑誌』編集委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「歴史のなかの年号」第415回歴博講演会, 国立歴史民俗博物館, 2019年5月11日

「天皇と改元—古代から現代まで—」岩瀬文庫講座, 西尾市岩瀬文庫, 2019年6月9日

「江戸時代における古代典籍の伝来—政事要略を中心に—」蓬左文庫典籍研究会講演会, 愛知大学, 2019年6
月30日

「天皇と改元—古代から現代まで—」朝日カルチャーセンター新宿, 2019年9月26日

3 マスコミ

「元号について」日本外国特派員協会, 東京丸の内二重橋ビル, 2019年4月1日

「小林宣彦著『律令国家の祭祀と災異』」『神社新報』3446, 神社新報社, p.5, 2019年5月13日

四 活動報告

2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

第四期将来計画会議議長, 総合誌『歴博』編集委員会副委員長, 人間文化機構人間文化研究評価システム検討
委員会作業部会委員

3 研究・調査プロジェクト報告

前近代の文字資料 (古記録, 典籍, 出土文字資料, 書誌学等) の調査および研究, また摂津国渡辺村の歴史に
ついての調査研究をおこなった。その成果は日本史研究会での報告・論文, シンポジウム報告等に反映された。

川村 清志 KAWAMURA Kiyoshi 准教授 (2012.4～)

併任: 総合研究大学院大学日本歴史研究専攻准教授 (2014.4～) 生年: 1968

【学歴】大阪大学文学部 (1992年3月卒業) 京都大学人間・環境学研究院大学院 (修士) (1996年3月修了) 京大

学人間・環境学研究科大学院（博士）（1999年3月単位取得退学）

【職歴】神戸学院大学人文学部地域研究センターP.D.（2002）、札幌大学文化学部日本語・日本文化学科助（准）教授（2005）、同教授（2009）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2012）、総合研究大学院大学日本歴史研究専攻准教授併任（2014）

【学位】学術博士（京都大学人間・環境学研究科）（2003年取得）【専門分野】文化人類学, 民俗学【主な研究テーマ】口頭伝承の近代的展開, 祭礼芸能の実践と習得過程の探求, メディアによる民俗文化の再表象過程, 現代日本のサブカルチャーと伝統文化など【所属学会】日本文化人類学会, 日本民俗学会, 日本口承文芸学会, 京都民俗学会

●主要業績

1. 【単著】『クリスチャン女性の生活史—「琴」が歩んだ日本の近・現代』青弓社, 292頁, 2011年1月
2. 【論文】「近代における民謡の成立—富山県五箇山地方「こきりこ」を中心に」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第165集, pp.175-204, 2011年3月）（査読有）
3. 【論文】「祭りの習得と実践：子どもによる準備過程を中心に」（『比較文化論叢：札幌大学文化学部紀要』25, pp.7-54, 2010年12月）
4. 【論文】「芸能への参入と習得—兵庫県明石市大蔵谷獅子舞の事例から」（後藤静夫編『日本伝統音楽研究センター研究報告5「近代日本における音楽・芸能の再検討」』pp.187-199, 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター, 2010年3月）
5. 【論文】「移動する身体と故郷の物語の行方—移動によって見いだされた故郷と移動のなかで変容する故郷」（『歴博研究報告「共同研究」人の移動とその動態に関する民俗学的研究』199集, pp.143-170, 2015年12月）

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 1 著書
共編著：高岡弘幸・島村恭則・川村清志・松村薫子『民俗学読本-フィールドへのいざない』248頁, 晃洋書房, 2019年11月10日
「祭りをやりながら考えたこと—フィールドバックする現場と理論」pp.95-109, 「博物館へ行こう」pp.185-187, 「民俗調査」p.59, 「キーワード：記号論, 技能・技術, 儀礼」pp.211-212
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
共編著：大久保純一・川村清志・山田慎也「お岩から貞子へ—よみがえる怨霊の表現」国立歴史民俗博物館, 企画展示図録『もののけの夏』pp.65-68, 2019年7月30日
映像「伝統の古典菊」国立歴史民俗博物館, 2019年10月1日
論文型映像：「吉田秋祭り—愛媛県宇和島市吉田」国立歴史民俗博物館, 2019年7月28日
映像「ハワイ移民へのまなごし—ハワイ大学による社会調査地図より」国立歴史民俗博物館, 2019年10月29日
映像「受け継がれるモノと記憶—ハワイ島コナ日系人の暮らし1」国立歴史民俗博物館, 2019年10月29日
映像「コーヒー農園の記憶を生きる—ハワイ島コナ日系人の暮らし2」国立歴史民俗博物館, 2019年10月29日
映像「コンプとミヨク」韓国国立民俗博物館, 韓国ソウル市, 2019年11月2日
論文型映像「世界無形文化遺産 来訪神 仮面・仮装の神々の現在—北の神々を中心に」国立歴史民俗博物館, 2020年2月1日
- 5 学会・外部研究会発表
「地域文化を活用する - 地域振興, 地域活性に果たす役割」台湾宜蘭, 2019年10月29・30日
- 7 その他
「映像が再現する祭りの技能—カラムシで作るミツナワを目指して」歴史系総合誌「歴博」215, 国立歴史民俗博物館, p.17, 2019年7月20日
「地域文化の保存に果たす博物館学芸員の役割」他, 日高真吾, 黄貞燕：編『地域文化を保存する—実践者の視点から』, 国立民族学博物館, pp.70-80, 2019年10月25日
「青森県史民俗編 民俗文化の映像記録の試みについて」『青森県民俗』14, 青森県民俗の会, pp.65-77, 2019年5月31日
「ほろ酔いの村—超過密社会の不平等と平等」, 『京都民俗』37, 京都民俗学会, pp.65-70, 2019年11月30日
「聖地巡礼のラビリンス—現代日本における旅・キャラクター・物語」『アニメ『聖地』巡礼—サブカルチャー

遺産の現在」, 国立民族学博物館, pp.4-5, 2019年11月15日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

③ 機構

「地域における歴史文化研究拠点の構築」(研究代表者:小池淳一), 研究副代表(2016年度~2021年度)

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究(B)「文化の主體的継承のための民俗誌の構築—マルチメディアの活用と協働作業を通じて」研究代表(2018年度~2022年度)

科学研究費基盤研究(B)「日本語敬語形成モデルの構築—生成・運用・伝播に注目して—」(研究代表者, 中井靖一 富山大学教授), 研究分担者(2019年度~2021年度)

4 主な展示・資料活動

『ニッポンおみやげ博物誌』(2018年度開催) 展示プロジェクト代表

三 社会活動等

2 講演・カルチャーセンターなど

「民俗誌映画が語る地域の文化力—『明日に向かって曳け! 石川県輪島市皆月山王祭の現在』から」京都府京都市, 2019年5月30日

「『世界無形遺産』か「終焉」か—現代における祭りの意義を問い直す—」佐賀県唐津市, 2019年7月13日

「病気と治療の文化—物語られる体と心—」石川県金沢市, 2019年11月13日

「聖地巡礼のラビリンス—現代日本における旅・キャラクター・物語」東京都(日経ホール), 2019年11月15日

「海藻利用の比較民俗分類学—日本と韓国における海藻利用を巡って—」石川県輪島市, 2019年11月17日

「地域の人々が担うべき「文化」とは何か—協働調査と文化共創の可能性—」石川県金沢市, 2020年1月11日

「モニュメントの意味とその課題—災害の記憶と継承のために」宮城県気仙沼市, 2020年2月14日

「災害の記憶と文化の継承—東日本大震災と民俗文化財—」愛媛県歴史文化博物館, 愛媛県西予市, 2020年2月23日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

本年度の主要な成果は, 以下の通りである。

論考 「お岩から貞子へ—よみがえる怨霊の表現」『図録 もののけの夏—江戸文化の中の幽霊・妖怪—』

コラム 「映像が再現する祭りの技能—カラムシで作るミツナワを目指して」『歴博215』

民俗研究映像 「吉田秋祭り—愛媛県宇和島市吉田」当館4室特殊展示「よみがえる地域文化—岐路に立つ共同体(コミュニティ)のいま—」(2019年7月23日~11月4日)にて公開

展示映像

「ハワイ移民へのまなざし—ハワイ大学による社会調査地図より」

「受け継がれるモノと記憶—ハワイ島コナ日系人の暮らし1」

「コーヒー農園の記憶を生きる—ハワイ島コナ日系人の暮らし2」

「コーヒー農園の記憶を生きる—ハワイ島コナ日系人の暮らし3」

国立歴史民俗博物館企画展示「ハワイ:日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」(2019年10月29日~12月26日)にて公開

講演「民俗誌映画が語る地域の文化力—『明日に向かって曳け! 石川県輪島市皆月山王祭の現在』から」2019年5月30日 京都府京都市, 京都芸工大学

講演「世界無形遺産」か「終焉」か—現代における祭りの意義を問い直す— 2019年7月13日佐賀県唐津市

講演「聖地巡礼のラビリンス—現代日本における旅・キャラクター・物語」2019年11月15日, 東京都, みんぱく公開講演会(日経ホール)

講演「地域の人々が担うべき「文化」とは何か—協働調査と文化共創の可能性—」2020年1月11日, 石川県金沢市, 金沢星稜大学:人文学部講演会

小池 淳一 KOIKE Jun'ichi 教授 (2011～)

併任：総研大日本歴史研究専攻教授 (2011～)，生年：1963

【学歴】東京学芸大学教育学部 (1987年卒業) 筑波大学大学院博士課程歴史人類学研究科 (一貫制) (1992年単位取得退学)

【職歴】弘前大学人文学部講師 (1992)，弘前大学人文学部助教授 (1994)，愛知県立大学文学部助教授 (2001)，国立歴史民俗博物館民俗研究部助教授 (2003)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2006)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2007)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2011)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2011)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長 (2014-15)

【学位】博士 (文学) (総合研究大学院大学) 【専門分野】民俗学 (民俗信仰，口承文芸，民俗学史)，伝承史 【主な研究テーマ】民俗における文字文化の研究，陰陽道の展開過程の研究，地域史における民俗の研究など 【所属学会】日本民俗学会，日本宗教学会 (理事)，日本昔話学会，日本口承文芸学会，日本文化人類学会，地方史研究協議会，日本史研究会，日本民具学会，儀礼文化学会，青森県民俗の会，福島県民俗学会ほか

●主要業績

1. 【著書】『季節のなかの神々—歳時民俗考—』220頁，春秋社，2015年10月
2. 【著書】『陰陽道の歴史民俗学的研究』442頁，角川学芸出版，2011年2月
3. 【論文】「読書と民俗」(若尾政希編『シリーズ〈本の文化史〉3・書籍文化とその基底』，平凡社，pp.265-289，2015年10月)
4. 【論文】「結節点としての万年筆—筆記具の民俗学へむけて—」『民具マンスリー』51 (4)，pp.1-11，2018年7月10日
5. 【展示図録】歴博企画展示図録『万年筆の生活誌—筆記の近代—』，国立歴史民俗博物館，2016年3月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

監修『へえ！もっと知りたくなる日本の四季と行事 春・夏』WAVE出版，2019年12月

監修『へえ！もっと知りたくなる日本の四季と行事 秋・冬』WAVE出版，2020年3月

共著『地域文化の可能性』，人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」，2020年3月

2 論文

「清めの雨追加」『西郊民俗』250，西郊民俗談話会，pp.26-29，2020年3月17日

「方言と民俗文化史—産婆の呼称とその背景」青井隼人・木部暢子編『国立国語研究所共同研究報告書 日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成 むつ方言調査報告書』国立国語研究所，2020年3月20日

「郷土研究から民俗博物館へ—中道等の軌跡とその思想—」山田巖子・弘前大学地域未来創生センター編『「民俗」思想の浸透と具体化—渋沢敬三影響下の地方民間博物館—』，弘前大学，pp.51-64，2020年3月31日

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

「山国の新年の儀礼と魚」2019年度企画展展示図録『昆布とミヨク—潮香るくらしの日韓比較文化誌—』，国立歴史民俗博物館，pp.96-97，2020年3月17日

「龍宮からの使者—亀と鯉—」2019年度歴博企画展展示図録『昆布とミヨク—潮香るくらしの日韓比較文化誌—』国立歴史民俗博物館，p.188-189，2020年3月17日

7 その他

「「神々の去来」をめぐる諸問題—特輯号にむけて—」『西郊民俗』250，西郊民俗談話会，pp.27-28，2019年6月16日

「地域文化を問い直す—気仙沼と只見から—」歴史系総合誌「歴博」215，国立歴史民俗博物館，pp.2-5，2019年7月20日

「第4展示室（民俗）特集展示「よみがえる地域文化—岐路に立つ共同体のいま—」一般財団法人歴史博物館振興会、国立歴史民俗博物館友の会ニュース 203, p.3, 2019年6月5日

「呼びかけ」（長野晃子先生追悼）「世間話研究」27, 世間話研究会, pp.112-113, 2019年8月31日

「手離れの悪い人—重信幸彦さんとの三十年から—」重信幸彦先生還暦記念日本民俗学講習会, 重信幸彦先生還暦記念日本民俗学講習会世話人, pp.78-84, 2020年3月

「ある歴史家の自画像—塚本学との対話—」『国立歴史民俗博物館研究報告』219, 国立歴史民俗博物館, pp.21-68, 2020年3月

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」（2016～2021年度）代表

基盤研究「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道の史料基盤形成」（2018～2020年度）副代表

③ 機構

人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」（2016～2021年度）共同代表

5 教育

成城大学大学院文学研究科非常勤講師（日本民俗学研究）

東邦大学薬学部非常勤講師（民俗学）

三 社会活動等

1 館外における各種委員

八千代市文化財審議会委員

3 マスコミ

「万年筆 書き味深めた歴史—輸入品から国産へ 人の数だけこだわり—」日本経済新聞, 日本経済新聞社, 2020年1月16日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

文字文化と民俗との相関に関する基礎的調査研究；東北地方各地をはじめとする地域社会において、文字文化を背景とした民俗事象に関する調査および分析をおこなった。また当該研究内容を含む展示を第4展示室特集展示「よみがえる地域文化—岐路に立つ共同体（コミュニティ）のいま—」として企画、開催することができた。

（関連する成果）

「「神々の去来をめぐる諸問題—特輯号にむけて—」（『西郊民俗』247号, 西郊民俗談話会, pp.27-28）, 「地域文化を問い直す—気仙沼と只見から—」（総合誌『歴博』215号, 国立歴史民俗博物館, pp.2-5）, 「万年筆 書き味深めた歴史—輸入品から国産へ 人の数だけこだわり—」（『日本経済新聞』2020年1月16日, 文化（40）欄（インタビューのまとめ））, 「清めの雨追加」（『西郊民俗』250号, 西郊民俗談話会, pp.26-29）など。

小島 道裕 KOJIMA Michihiro 教授（2008～）

併任：総研大日本文化歴史専攻教授（2008～）, 生年：1956

【学歴】京都大学文学部（国史学）（1980年卒業）京都大学大学院文学研究科博士課程（国史学）（1985年単位取得退学）

【職歴】京都大学研修員（1985）, 京都大学文学部助手（1986）国立歴史民俗博物館歴史研究部助手（1989）, 助教授（1994）, 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（1999）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007）, 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2008）, 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2008）, 博物館資源センター長（2011～2013）, 総研大日本歴史研究専攻・専攻長（2008～2010）, 総研大文化科学研究科・研究科長（2015～2017）

【学位】文学博士（京都大学）（2006年取得）【専門分野】日本中世史，博物館教育【主な研究テーマ】日本中近世の都市と社会，洛中洛外図屏風，古文書様式，歴史展示と教育プログラム【所属学会】日本史研究会，史学研究会，古文書学会，比較都市史研究会，家具道具室内史学会【研究目的・研究状況】日本の中世から近世について，具体的な歴史資料の分析によって，社会のさまざまな側面を明らかにする。洛中洛外図屏風や古文書などを，共同研究や展示で扱いつつ，研究を進めると共に，成果を発信している。http://www.rekihaku.ac.jp/kenkyuu/kenkyuusya_kojima/index.html

●主要業績

1. 【単著】『洛中洛外図屏風—つくられた<京都>を読み解く—』231頁，吉川弘文館，2016年4月
2. 【単著】『戦国・織豊期の都市と地域』362頁，青史出版，2005年11月
3. 【単著】『イギリスの博物館で—博物館教育の現場から—（歴博ブックレット16）』87頁，歴史民俗博物館振興会，2000年10月
4. 【単著】『城と城下—近江戦国誌—』246頁，新人物往来社，1997年5月（再刊：吉川弘文館，2018年10月）
5. 【展示図録】国立歴史民俗博物館企画展示図録『日本の中世文書—機能と形と国際比較—』314頁，2018年11月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

小島道裕・田中大喜・荒木和憲編，国立歴史民俗博物館監修『古文書の様式と国際比較』426頁，20章，勉誠出版，2020年2月28日

2 論文

「中世の「札」—その形と意味—」山川出版社，『歴史と地理』727，pp.23-30，2019年9月20日

「戦国大名の印判状について—北条氏の「虎の印判」は東アジア標準か—」『古文書の様式と国際比較』勉誠出版，pp.121-146，2020年2月28日

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

橋本雄太・小島道裕：共編「日本の中世文書WEB」国立歴史民俗博物館，2020年1月8日

7 その他

「遺跡を訪ねて—一乗谷朝倉氏遺跡」『学会会報』938，学会，pp.89-95，2019年9月1日

「遺跡を訪ねて—観音寺城と安土城」『学会会報』939，学会，pp.102-109，2019年11月1日

「見て楽しむ中世の古文書—印のある文書」『kotoba』36，集英社，pp.166-169，2019年6月6日

「見て楽しむ中世の古文書—契約の文書」『kotoba』37，集英社，pp.178-181，2019年9月6日

「見て楽しむ中世の古文書—約束を神仏に誓う」『kotoba』38，集英社，pp.178-181，2019年12月6日

「見て楽しむ中世の古文書—木に書かれた文書」『kotoba』39，集英社，pp.190-193，2020年3月6日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

② 他の機関

国際日本文化研究センター共同研究「『かのように』という原理上で変遷してきた文通—『文書』概念や，その様式，記号，表象，意図性の認識を論ず」，2018年度～

4 主な展示・資料活動

総合展示第2室「東国と西国」「印刷文化」「大名と一揆」「民衆の生活と文化」「大航海時代の中の日本」展示プロジェクト委員（第2展示室代表）

5 教育

ポスター「駒札考—日本人はなぜ尖頭五角形の板が好きなのか—」総研大文化フォーラム2019，国文学研究資料館，2019年11月30日

三 社会活動等

1 館外における各種委員

東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会委員

福井県一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）整備基本計画アドバイザー

佐倉市市民文化資産運用委員会委員（委員長）
 千葉県立郷土博物館協議会委員
 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者評価委員会

3 マスコミ

「町のうどん屋、長〜い歴史」日本経済新聞，日本経済新聞社，2019年9月4日
 「最初の洛中洛外図屏風を注文した朝倉貞景」読売新聞 北陸版，読売新聞社，2019年10月12日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

- ・京都国際会館において行われたICOM（国際博物館会議）大会に参加し，全体会と所属するCECA（教育と文化活動委員会）への参加およびブース展示の見学によって，多くの新たな知見を得ることができた。
- ・韓国国立ハンゲル博物館において行われた国際シンポジウム「言語と文字の博物館：課題と今後」に橋本雄太助教と共に参加し，多くの新たな知見を得ると共に，韓国および各国の研究者と意見交換を行なうことができた。
- ・館蔵古文書の調査と翻刻を補助業務への謝金によって進め，「館蔵中世文書データベース」の増強を行なった。
- ・共同研究の成果として刊行する研究報告特集号のために，韓国語論文2編について，日本語への翻訳を行った。
- ・橋本助教と共に開発した「日本の中世文書WEB」のサイトを試験公開した。テキストと音声（読み方）を同時に提供する初の試みとして，大きな反響があった。

4 その他

2018年秋に開催した企画展示「日本の中世文書—機能と形と国際比較—」，および展示期間中に開催した歴博フォーラム・国際シンポジウムを元に，『古文書の様式と国際比較』（勉誠出版，2020年2月）を刊行した。国際的な共通性も意識して，「『官』の文書」（官僚機構による文書）と「書状」（個人の文書）という二つの系統で整理することにより，日本の古文書学を客観的な観点から再構築すると共に，東アジアにおける文書様式の共通性に着目した古文書学を構築していく上で，意味のある提言と具体化を行なうことができた。橋本助教と共に，この展示で公開した古文書の読み方を示すタッチパネルコンテンツ（読み上げ音声付き）を元に，「日本の中世文書WEB」を制作し，ネットコンテンツとして2020年1月に公開した。大学の日本史専攻以外では学習機会の乏しかった中世文書について，オンライン学習の場を設けたほか，テキストと音声の関係を示すアーカイブとしても注目されている。コンテンツには，その後も文書を追加し，充実化を図っている。2020年度は，秋の企画展示「性差（ジェンダー）の日本史」に展示プロジェクトとして参加しており，これまでも扱ってきた古文書や絵画資料などについて，ジェンダーの視点から見直し，展示として示すことを予定している。

小瀬戸 恵美 Koseto-Horyu, Emi 准教授（2010.1〜）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2013〜）

【学歴】東京大学理学部化学科（1995年卒業），東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻博士後期課程（2000年中途退学）【職歴】アメリカ合衆国ゲティ保存研究所グラジュエイトインターン（1999）

国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（2000），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2010），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授（2013〜）

【学位】文化財修士（東京藝術大学）（1998年取得）【専門分野】保存科学，文化財保存学【主な研究テーマ】博物館施設における資料劣化原因・過程に関する研究，展示評価の手法と検討【所属学会】文化財保存修復学会，日本文化財科学会，国際博物館会議（International Committee of Museum, ICOM），International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works（IIC）【研究目的・研究状況】文化財を対象に自然科学的手法による分析・調査を行い，他分野との協業によって文化財構成物質の流通や人の文化的交流について考察を目的としている。また，研究成果を展示に反映させたときに，閲覧者に与える影響について，非接触・非言語による評価手法を検討している。

●主要業績

1. 【論文】「常呂川河口遺跡墓壙出土ガラスの自然科学的分析」(『常呂川河口遺跡』 8, pp.297-303, 2008年3月)
2. 【論文】「2. 連携研究機関における生物被害対策の現状と課題 国立歴史民俗博物館の生物生息調査」(『有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成』 pp.125-132, 2008年2月)
3. 【論文】「ラマンイメージング装置による伊勢市版歌川派錦絵および版木の色材分析」(共著/坂本章, 落合周吉, 東山尚光, 増谷浩二, 木村淳一)(『国立歴史民俗博物館研究報告』 第153集, pp.1-19, 2009年3月)(査読付き)
4. 【論文】「Raman studies of Japanese art objects by a portable Raman spectrometer using liquid crystal tunable filters」(共著 Akira Sakamoto, Shukichi Ochiai, Hisamitsu Higashiyama, Koji Masutani, Jun-ichi Kimura, Mitsuo Tasumi)(『Journal of Raman Spectroscopy』, Vol.43, pp.787-792, 2012年6月, published online on October 27)
5. 【論文】「A Pilot Study on the Museum Visitors' Interest by using Eye Tracking System」The Eighth Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2018) proceeding, pp.129-131, 2018年9月9日(査読有)

●2019年度の研究教育活動

二 主な研究教育活動

2 外部資金による研究

令和元年度博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業連携活動

「展示効果の高度化とその検証」代表・西谷大

4 主な展示・資料活動

アイヌ文化を学ぶソフト開発(アイヌ語カルタの遊び方のアイデアを出し合う) 歴博研修室, 2019年12月7日

アイヌ文化を学ぶソフト開発(かたちになったアイデアについて話し合う) 歴博研修室, 2020年2月8日

四 活動報告

2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

人間文化研究機構男女参画委員

3 研究・調査プロジェクト報告

博物館資料を基とした教育的コンテンツがその被験者にどのような影響を与えているかを評価することを目的として、今年度は特に展示観覧を目的とする閲覧者に対し、視線検出システムを用いてデータ収集をおこなった。その結果、計58日の測定期間より3641の視線検出と206139の視線検出ポイントのデータを得た。現在、このデータを解析中であり、調査対象の教育的コンテンツの性質を合わせて、総合的に評価する予定である。

後藤 真 GOTO Makoto 准教授(2015.9～)

生年: 1976

【学歴】岡山大学文学部歴史文化学科(2000年卒業), 大阪市立大学大学院文学研究科哲学歴史学専攻前期博士課程(2002年修了), 大阪市立大学大学院文学研究科哲学歴史学専攻後期博士課程(2007年修了)

【職歴】日本学術振興会特別研究員(PD)(2007.4～2008.3), 花園大学文学部文化遺産学科 専任講師(2009.4～2014.9), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構本部特任助教(2014.9～2015.8), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任(2019.4～)

【学位】博士(文学)(大阪市立大学)(2007年取得)【専門分野】人文情報学・総合資料学・日本古代史【主な研究テーマ】歴史資料の情報化による高度活用【所属学会】日本史研究会・正倉院文書研究会・木簡学会・情報処理学会・Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), Japanese Association for Digital Humanities,

●主要業績

1. 【著書】『歴史情報学の教科書』後藤真・橋本雄太(共編著), 文学通信, 208頁, 2019年3月
2. 【著書】『情報歴史学入門』後藤真, 田中正流, 師茂樹, 金壽堂出版, 184頁, 2009年3月
3. 【著書】(分担執筆)『歴史研究と〈総合資料学〉』後藤真「日本における人文情報学の全体像と総合資料学」208頁, 2018年2月
4. 【論文】「アーカイブズからデジタル・アーカイブへー「デジタルアーカイブ」とアーカイブズの邂逅ー」後藤

真（『アーカイブのつくりかた』NPO知的資源イニシアティブ編，勉誠出版，2012年11月）

5. 【学会・外部研究会発表】

2015年7月2日，“Digitalization of Shosoin Monjo and Extraction of Knowledge”, Makoto GOTO, Motomu NAITO, (Annual international conference of the Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), University of Western Sydney, Australia) (査読有)

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

「デジタルアーカイブから見る文書」佐藤孝之・三村昌司編『近世・近現代 文書の保存・管理の歴史』勉誠出版，pp.310-326，2019年10月

「歴史のデータは誰のものか—Digital Historyがもたらす未来とは」菅豊・北條勝貴編『パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦』勉誠出版，pp.372-387，2019年10月

2 論文

“Application of Historical Resources for Geographical Data in Japan” Association for Geoinformation Technology, 『International Journal of Geoinformatics』15-2, pp.49-56, 2019年6月 (査読有), タイ

小風尚樹・後藤真:共著「『延喜式』へのTEI適用と日本史資料のテキストデータ共有・流通(古代の百科全書『延喜式』の他分野協同研究 中間報告)」『国立歴史民俗博物館研究報告』218, 国立歴史民俗博物館, pp.315-327, 2019年12月 (査読有)

「持続可能な地域資料のためのデータ化・オープン化を考える」『情報知識学会誌』29-4, 情報知識学会, pp.309-314, 2019年11月

5 学会・外部研究会発表

後藤真・阪田真己子・松村敦・山田太造, 企画セッション「人文科学とコンピュータ分野」における研究資源と情報技術を考える, 第120回人文科学とコンピュータ研究会, 京都大学人文科学研究所, 2019年5月11日

「人文学における多様な「研究力」をはかるためには—人文機構の取り組みをもとに, 地球研・統数研共同研究キックオフシンポジウム「研究評価に向けた様々な指標作り—人文学指標, 学際指標, 超学際指標, 共同利用・共同研究指標—」, 総合地球環境学研究所, 2019年5月22日

「地域の歴史・文化資料のデータ化の課題とオープンサイエンス」Japan Open Science Summit 2019, 学術総合センター 一橋講堂, 2019年5月27日

「見える人文・見えない人文? オープンな人文学情報基盤が作る未来」Japan Open Science Summit 2019, 学術総合センター 一橋講堂, 2019年5月28日

“Usages and needs for gazetteers in studies about Japanese history” 2019 International Workshop on Spatiotemporal Knowledge, National Museum of Taiwan History, 2019年5月30日 (台湾)

「人文社会系研究指標を考える」人文社会系研究の「可視化」手法(評価指標)の現状と課題～海外及び国内の事例共有とディスカッション～, 東京工業大学蔵前会館, 2019年6月21日

後藤真・天野真志・川邊咲子 「『総合資料学の創成』における大学とのデータ連携の実践」第14回日本博物科学学会, 秋田大学, 2019年6月27日

Ayako Shibutani・Makoto Goto “Constructing A New Science Framework In Japanese Historical Studies Through Digital Infrastructure” DH2019, TivoliVredenburg, Utrecht, Netherlands, 2019年7月10日 (査読有)

Naoki Kokaze・Kiyonori Nagasaki・Yuta Hashimoto・Ayano Kokaze, Makoto Goto “Towards Constructing An Ecosystem for Digital Scholarly Editions of East Asian Historical Sources : With the Focus on the TEI-Markup of the Engi-Shiki” DH2019, TivoliVredenburg, Utrecht, Netherlands, 2019年7月10日 (査読有)

“Attempts at long-term preservation of historical resources and data - A case of 'Inter-University Research Institute Network Project to Preserve and Succeed Historical and Cultural Resources' in Japan”, 4th Workshop on the Academic Asset Preservation and Sharing in Southeast Asia, Pullman Khon Kaen Raja Orchid, 2019年7月22日

「地域歴史資料インフラ構築領域」特推「域歴史資料学研究会」, 神戸大学, 2019年8月3日

「歴史学・人文学のデータプラットフォームの可能性」データ社会創成シンポジウム, 東京大学, 2019年9月2日

「研究成果の質的情報を可視化するための人間文化研究機構のツール」第5回RA協議会, 電気通信大学, 2019

年9月3日

Makoto Goto・Yuta Hashimoto・Sakiko Kawabe・Masateru Ishitsuka「総合資料学の成果について」EAJRS2019, Sofia University, Bulgaria, 2019年9月19日

Makoto Goto・Yuta Hashimoto・Sakiko Kawabe・Masateru Ishitsuka“Current movement of “Digital Archive” and Digital Humanities in Japan” EAJRS2019, Sofia University, Bulgaria, 2019年9月20日（査読有）
“Possibility of Digital Tools for Japanese history”Workshop The Digital Transformation - Implications for the Social Sciences and Humanities, ドイツ日本研究所, 2019年9月24日

“Introduction of ISCR”歴博共同研究「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」2019年度 人文情報ユニット ワークショップ, 国立歴史民俗博物館, 2019年10月8日

“Possibility of Applying Historical Gazetteer to Knowledgebase of Japanese History”, 2019 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings, Nanyang Technological University (NTU), Singapore, 2019年10月16日

“Approach to protect and preserve historical and cultural resources with data Infrastructure”10th Anniversary Kobe University Brussels European Centre Symposium, The Vrije Universiteit Brussel, 2019年10月22日

“Introducing Japanese “Digital Archive” and “Digital Humanities”, University of Reuven, Workshop between KU and NMJH, 2019年10月23日

「持続可能な地域資料のためのデータ化・オープン化を考える」第24回情報知識学フォーラム, ITビジネスプラザ武蔵, 2019年11月23日

近藤無滴・後藤真「文化財情報マッピングと地域歴史文化財防災の可能性」第122回人文科学とコンピュータ研究会, 佐賀大学, 2020年2月1日

「地域歴史文化構築のためのデータネットワーク構築」第6回地域歴史文化研究会, 神戸大学, 2020年2月10日

「地域文化と評価のあり方」国立国語研究所 IR シンポジウム「社会に魅せる研究力を測る—論文では見えてこない社会に貢献する研究を評価する指標—」, 国立国語研究所, 2020年2月13日

「学術資料所有機関と大学間におけるデータのオープン化・共有化」第420回生存圏シンポジウム 生存圏データベース全国共同利用研究成果報告会「モノのデータベースから電子データベースまで —さまざまな学術データの新しい共同利用に向けて—」, 京都大学, 2020年2月18日

「人文・社会科学における多様な研究成果の計量可能性」研究大学コンソーシアム研究力強化人材育成ワークショップ（第2回）, AP虎ノ門, 2020年2月19日

7 その他

「人文学の研究を可視化し未来につなぐための評価とその指標—厚み・質・多様性—」『大学出版』121, 大学出版部協会, pp.7-13, 2020年1月

「国立歴史民俗博物館が進める事業におけるデジタルアーカイブ」『びぶろす』85・86合併号, 国立国会図書館, 2019年10月

「史料を「読む」行為を楽しみながら読む本」『読書人』3314, 読書人, 2019年11月8日

「総合資料学 情報基盤システムkhirin」歴史系総合誌『歴博』219, 国立歴史民俗博物館, 2020年2月

近藤無滴・後藤真（共著）「文化財情報マッピングと地域歴史文化財防災の可能性」『人文科学とコンピュータ』2020-CH-122-6, 情報処理学会, pp.1-4, 2020年1月25日

「荘園絵図を中心とした、総合的な資料分析のためのデータ構築研究」『総合資料学の創成事業 奨励研究等成果報告書』国立歴史民俗博物館, 2020年3月

「コメント」日本学術振興会 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業シンポジウム, ベルサール東京日本橋, 2020年2月16日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成」2018年度～2020年度

② 他の機関

「日本における諸機関のデータオープン化とライセンス付与動向」ワークショップ：公開コンテンツのオー

ブン化の現状と課題, 国際日本文化研究センター, 2019年12月16日

③ 機構

人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の構築」, 2016~2021年度

人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史に関する研究資源の共同利用基盤構築」, 副代表, 2016~2021年度

2 外部資金による研究

「『研究に真に使える』歴史資料情報基盤の構築—データ持続性研究と人文情報学の実践—」科学研究費補助金(基盤研究(A)), (代表者:後藤真) 研究代表者, 2017~2020年度

「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」科学研究費補助金(特別推進研究), (代表者:奥村弘) 研究分担者, 2019~2023年度

「『国際古文書料紙学』の確立」科学研究費補助金(基盤研究(A)), (代表者:渋谷綾子) 研究分担者, 2019~2023年度

「日本語コーパスに対する情報付与を核としたオープンサイエンス推進環境の構築」科学研究費補助金(挑戦的研究(開拓)), (代表者:小木曾智信) 研究分担者, 2019~2021年度

「統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出」科学研究費補助金(基盤研究(A)) (代表者:山田太造) 研究分担者, 2018~2022年度

4 主な展示・資料活動

総合資料学情報基盤システム"khirin"公開(2018年5月 <https://khirin-ld.rekihaku.ac.jp>)

5 教育

千葉大学普遍教育科目「博物館から歴史を読み解く」

國學院大学非常勤講師

長崎大学大学院多文化社会学研究科 非常勤講師(総合資料学)

「人文系評価指標の考え方と現状」自然科学研究機構 研究大学コンソーシアムワークショップ, 2019年5月8日

「ゲスト講義「デジタル・ヒューマニティーズ」とは」, 琉球大学 特別講義, 琉球大学, 2019年6月10日

「総合資料学」歴史民俗資料館等専門職員研修会, 国立歴史民俗博物館, 2019年11月13日

三 社会活動等

1 館外における各種委員

内閣府知的財産戦略本部 デジタルアーカイブジャパン推進実務者検討委員, Japanese Association for Digital Humanities (JADH) 理事, 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会 運営委員, 情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム 実行委員, 京都国立博物館 客員研究員, 文化庁 国立近現代建築資料館 有識者会議委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「人文社会系研究指標の可能性をさぐる—多様な研究の可視化を目指す—」エルゼビア研究戦略セミナー, 品川グランドホール, 2019年6月26日

「コンピュータが読む日本語」第38回人文機構文化シンポジウム「~コンピュータがひもとく歴史の世界~ デジタル・ヒューマニティーズって何?」, 日比谷図書文化館, 2020年1月25日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

研究のための新たなデータ提供手段について, 検討を行った。近年, 話題となりつつあるデータマネジメントモデルなどを検討し, その結果としてより効果的な研究データの情報提供について, 次年度以降, 実質的な基盤構築を進めるための検討を進めることができた。

齋藤 努 SAITO Tsutomu 教授 (2009.4～), 広報連携センター長 (2018～2019)

併任：総研大日本歴史研究専攻教授 (2009～), 生年：1961

【学歴】東京大学理学部化学科 (1983年卒業), 東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程 (1988年修了)

【職歴】東京大学教養学部非常勤講師 (1988), 国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手 (1988), 同助教授 (1999), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2002), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2007), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2009), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2009), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長併任 (2010～2011), 広報連携センター長併任 (2013～2015, 2018～2019)

【学位】理学博士 (東京大学) (1988年取得) 【専門分野】文化財科学 【主な研究テーマ】歴史資料の自然科学的手法による分析 (材質, 技法, 産地) 【所属学会】日本文化財科学会, 文化財保存修復学会 【研究目的・研究状況】美術品・工芸品・考古遺物などの歴史資料を対象として自然科学的な手法を用いて調査を行い, 人文科学的な研究結果とあわせることによって, 原料の流通や人の交流, 使用されていた技術などについて考察を加える。また, 伝統技術に関する実地調査や再現実験なども実施している。

●主要業績

1. 【単著】

『金属が語る日本史—銭貨・日本刀・鉄炮—』歴史文化ライブラリー355, 吉川弘文館 (単著), 205頁, 2012年11月

2. 【論文】

齋藤努, 土生田純之, 亀田修一, 福尾正彦, 鄭仁盛, 高田寛太, 風間栄一, 藤尾慎一郎, 柳昌煥, 趙榮濟「鉛同位体比分析による古代朝鮮半島・日本出土青銅器などの原料産地と流通に関する研究—韓国嶺南地域出土・東京大学所蔵楽浪土城出土・宮内庁所蔵の資料などを中心に—」『考古学と自然科学』59, pp.57-81, 2009年6月 (査読有)

3. 【論文】

「刀匠の継承する伝統技術の自然科学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第177集, pp.127-178, 2012年11月 (査読有)

4. 【論文】

齋藤努, 坂本稔, 高塚秀治「大鍛冶の炉内反応に関する検証と実験的再現」『国立歴史民俗博物館研究報告』第177集, pp.179-229, 2012年11月 (査読有)

5. 【論文】

単著「江戸期小判などの色揚げに関する自然科学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第183集 (開館三〇周年記念論文集Ⅱ), pp.1-51, 2014年3月 (査読有)

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など

「石川県金沢市・西光寺所蔵銅造菩薩立像の鉛同位体比分析結果」『石川考古学研究会々誌』第63号, pp.73-74, 2020年3月 (査読無)

「畑ヶ田遺跡群Ⅰ出土鏡の付着物分析結果」『千葉県成田市 畑ヶ田遺跡群Ⅰ 川栗遺跡群Ⅱ (第1・2・3地点)』公益財団法人 印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第366集, p.141, 2020年3月 (査読無)

5 学会・外部研究会発表

「傷つけずに測る文化財のナカミ」第1回文理融合シンポジウム「量子ビームで歴史を探る—加速器が紡ぐ文理融合の地平—」国立科学博物館, 2019年7月27日

「負ミュオンによる歴史資料の完全非破壊分析」第2回文理融合シンポジウム「量子ビームで歴史を探る—加速器が紡ぐ文理融合の地平—」大阪大学中之島センター, 2019年12月25日

7 その他

「負ミュオンを使った歴史資料分析の新しい取り組み」歴史系総合誌『歴博』214, 国立歴史民俗博物館,

pp.18-19, 2019年5月

「長登銅山と皇朝十二銭」『學士會會報』940, 学協会, pp.100-105, 2020年1月

「負ミュオンによる歴史資料の完全非破壊分析」『KEK Proceedings 第2回 文理融合シンポジウム 量子ビームで歴史を探る ―加速器が紡ぐ文理融合の地平―』2019-10, 高エネルギー加速器研究機構・大阪大学編, pp.61-65, 2020年2月

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基盤研究「高精度同位体比分析法を用いた古代青銅原料の産地と採鉱に関する研究」(研究代表者 齋藤 努)
2018～2020年度

2 外部資金による研究

科学研究費補助金・基盤研究 (A)「高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究」(研究代表 齋藤努) 2017～2020年度

科学研究費補助金・基盤研究 (A)「琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家」(研究代表 村木二郎) 研究分担者, 2018～2021年度

機構間連携・異分野連携研究プロジェクト「負ミュオンによる歴史資料の非破壊内部元素組成分析」(研究代表 齋藤努) 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所との共同研究, 2018～2021年度

三 社会活動等

1 館外における各種委員

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員 (2016-2019年度)

日本文化財科学会 学会表彰委員

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

Sr用抽出クロマトグラフィーレジンを使用し, 低濃度の試料からも, 効率よく鉛とストロンチウムを連続的に分離することが可能となった。レジンの量を最小限に抑えることによって, 溶液量を減らしてブランクを小さくし, 低濃度の資料にも対応できるようになったので, これまでは分析できなかった銅鉱石や製錬時のからみ, 石鋼などに適用し, 鉛とストロンチウムの同位体比を分析した。

Cu用抽出クロマトグラフィー用レジンを使用して, 銅鉱石中のCuを分離し, 銅同位体比が分析できるようになった。

茨城県東海村にあるJ-PARC (大強度陽子加速器施設)において, 負ミュオン特性X線分析を用いた完全非破壊での内部分析を行った。江戸時代の丁銀における表面付近の深さ方向分析によって, ある時期を境として色付の深さや最表層の銀濃度に違いが生じていることがわかり, 技術に何らかの進展があったと推定された。また, 静岡県埋蔵文化財センターが所蔵する中世の経筒と銅鏡を借用し, 内部に残存する青銅金属部分の主成分組成を調べた。これまで, 中世の青銅製品は北宋銭を原料として作られたと考えられてきたが, 本分析では, いずれも異なる主成分組成を示したことから, 従来説の再検討が必要であると考えられた。

坂本 稔 SAKAMOTO Minoru 教授 (2013～)

併任: 総研大日本歴史研究専攻教授 (2013～)

【学歴】東京大学理学部化学科 (1989年卒業), 東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程 (1991年修了), 東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程 (1994年修了)

【職歴】国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手 (1994), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2008), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2013), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2013), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長 (2016-2018)

【学位】博士（理学）（東京大学）（1994年取得）【専門分野】文化財科学【主な研究テーマ】同位体分析に基づく年代測定【所属学会】日本文化財科学会，文化財保存修復学会，日本AMS研究協会【研究目的・研究状況】炭素14年代法を中心に，数値年代の獲得と精度向上に研究の重点を置く。

●主要業績

1. 【著書】国立歴史民俗博物館・坂本稔・中尾七重編『築何年？炭素で調べる古建築の年代研究』188頁，吉川弘文館，2015年3月
2. 【研究ノート】坂本 稔「表計算ソフトによる炭素14年代較正プログラムRHCバージョン4」国立歴史民俗博物館研究報告176，pp.169-176，2012.
3. 【共同研究】坂本 稔編『歴史資料研究における年代測定の活用法に関する総合的研究』国立歴史民俗博物館研究報告176，178頁，2012年12月
4. 【外部資金】2018～2021年度科学研究費補助金（基盤A）「単年輪¹⁴C測定による較正曲線の地域効果・微細構造の解明」研究代表者

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

5 学会・外部研究会発表

Minoru Sakamoto・Masataka Hakozaki・Hiromasa Ozaki・Fuyuki Tokanai・Takeshi Nakatsuka “Annual Radiocarbon Dating of Japanese Tree Rings : Early-modern and Ancient.” Radiocarbon and Archaeology, Athens, Georgia, USA, 2019年5月20-24日

坂本稔・箱崎真隆・光谷拓実・中塚武「日本産樹木年輪の炭素14年代測定—年代研究と日本版較正曲線」日本地球惑星科学連合2019年大会，幕張メッセ，千葉市，2019年5月26-30日

坂本稔・門叶冬樹・箱崎真隆・中尾七重「丸岡城天守の年代調査—3. 単年輪¹⁴C測定による較正曲線」日本文化財科学会第36回大会，東京藝術大学，台東区，2019年6月1・2日

「炭素14年代法と較正年代」第56回アイソトープ・放射線研究発表会，東京大学，文京区，2019年7月5日

「REKIHAKU wood member collection of historical buildings - architectural and scientific approach.」ICOM KYOTO 2019，京都国際会館，京都市，2019年9月2日

「炭素14年代法による年代測定—日本版較正曲線の未来—」日本活断層学会2019年度秋季学術大会，東京大学，文京区，2019年10月6日

7 その他

「炭素14年代法と較正年代」『Isotope News』766，日本アイソトープ協会，pp.42-45，2019年12月1日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基盤研究「直良コレクションを構成する更新統産動物化石の分類学的再検討と現代的評価」共同研究員，2017～2019年度

③ 機構

ネットワーク型機関研究プロジェクト（北東アジア地域研究推進事業）「自然環境と文化・文明の構造」（代表：池谷和信）事業分担者，2016～2021年度

2 外部資金による研究

科学研究費補助金（基盤A）「単年輪¹⁴C測定による較正曲線の地域効果・微細構造の解明」研究代表者，2018～2021年度

科学研究費補助金（基盤A）「科学分析手法と土器使用痕観察を組み合わせた古食性と調理形態復元に関する学際的研究」（研究代表者：宮田佳樹）研究分担者，2016～2019年度

科学研究費補助金（基盤A）「「研究に真に使える」歴史資料情報基盤の構築—データ持続性研究と人文情報学の実践—」（研究代表者：後藤真）研究分担者，2017年度～2020年度

科学研究費補助金（基盤A）「高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究」（研究代表者：齋藤努）研究分担者，2017年度～2020年度

科学研究費補助金（基盤A）「考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築」（研究代

表者：山田康弘) 研究分担者, 2018年度～2021年度

科学研究費補助金(基盤A)「ヘルレン川流域を中心とした匈奴国家中枢地の研究」(研究代表者：臼杵勲) 研究分担者, 2018年度～2022年度

科学研究費補助金(基盤B)「東アジア新石器文化の実年代体系化による環境変動と生業・社会変化過程の解明」(研究代表者：小林謙一) 研究分担者, 2018年度～2022年度

3 国際交流事業

「国立歴史民俗博物館と釜山大学校博物館における研究者交流と展示協力」(事業主体者：藤尾慎一郎), 2017～2019年度

5 教育

千葉大学非常勤講師(博物館資料保存論)

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本AMS研究協会運営委員(2017年度～)

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

五條市堀家所蔵日章旗の年代測定に関する技術指導を行なった。また、神奈川県立横須賀高等学校所蔵の明治から昭和にかけての書籍の年代測定を実施した。名古屋大で開催された東アジアAMS国際シンポジウムに出席し、研究動向を調査した。

澤田 和人 SAWADA Kazuto 准教授(2009.10～)

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授(2013～)

【学歴】大阪大学文学部美学科(1996年卒業),大阪大学大学院文学研究科芸術史学専攻博士前期課程(1998年修了)

【職歴】財団法人大和文華館学芸部(1998),国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手(2002),大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手(2004),大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教(2007),大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授(2009),総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任(2013)

【学位】文学修士(大阪大学)(1998年取得)【専門分野】染織史,服飾史,絵画史(絵巻)【主な研究テーマ】中世を中心とする染織および服飾・衣装風俗に関する研究【所属学会】美術史学会

●主要業績

1. 【論文】「十徳の変遷—中世を中心に」(『美術史』147号, pp.36-53, 1999年, 11月)
2. 【編著】『[染]と[織]の肖像—日本と韓国・守り伝えられた染織品』(国立歴史民俗博物館平成20年度企画展示図録, 208頁, 2008年10月)
3. 【編著】『紅板締め—江戸から明治のランジェリー』(国立歴史民俗博物館平成23年度企画展示図録, 164頁, 2011年7月)
4. 【編著】『野村コレクション 服飾Ⅰ』(国立歴史民俗博物館資料図録9, 348頁, 2013年3月)
5. 【編著】『野村コレクション 服飾Ⅱ』(国立歴史民俗博物館資料図録10, 356頁, 2014年3月)

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「小袖屏風の制作意図に関する一考察」『国立歴史民俗博物館研究報告』220, 国立歴史民俗博物館, pp.9-36, 2020年3月20日(査読有)

5 学会・外部研究会発表

“The Baelz Collection of Japanese Textiles at Reutlingen University—Outline, Special Features, and Significance”, Historical Fabrics in a Digital World, ロイトリンゲン大学, 2019年11月14日(ドイツ)

「野村正治郎とアメリカの顧客—ルーシー・トゥルマン・オールドリッチの場合」『美術品としての日本染織コレクションはいかに形成されていったのか』黒田記念館, 2020年1月26日

7 その他

「江戸名所模様襦袢」歴史系総合誌「歴博」214, 国立歴史民俗博物館, p.15, 2019年5月30日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基盤研究「歴博研究映像の制作・保存・活用—苧麻文化の映像記録化を中心に」（研究代表：春日 聡）共同研究者（2019年度～2021年度）

③ 機構

基幹研究プロジェクト「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用」（研究代表：日高 薫）共同研究者（2016～2021年度）

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究A「日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究」（研究代表：小山弓弦葉）研究分担者（2015～2019年度）

科学研究費基盤研究B「在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究」（研究代表：島谷弘幸）連携研究者（2016～2019年度）

科学研究費基盤研究B「17～19世紀の在外日本コレクション形成に関する基礎的研究」（研究代表：日高 薫）研究分担者（2017～2020年度）

4 主な展示・資料活動

くらしの植物苑特別企画「季節の伝統植物」展示プロジェクト副代表

第3室特集展示「伝統の朝顔」（2019年7月30日～9月8日）展示プロジェクト代表

第3室特集展示「和宮ゆかりの雛かざり」（2020年2月26日～4月5日）展示プロジェクト副代表

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

令和2年1月26日に黒田記念館で開催されたシンポジウム「美術品としての日本染織コレクションはいかに形成されていったのか」において、「野村正治郎とアメリカの顧客—ルーシー・トゥルマン・オールドリッチの場合」と題する口頭発表を行った。

柴崎 茂光 SHIBASAKI, Shigemitsu 准教授（2010.10～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2011.4～）

【学歴】東京大学農学部（1996年卒業）、東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程（1998年修了）、マンチェスター大学経済学部開発経済学修士課程（2000年修了）、東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程（2002年退学）

【職歴】東京大学大学院農学生命科学研究科助手（2002）、岩手大学農学部助教授（2006）、同准教授（2007）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2010）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2011）

【学位】博士（農学）（東京大学）（2006年取得）、修士（開発経済学）（マンチェスター大学）（2000年取得）

【専門分野】林政学／民俗学

【主な研究テーマ】開発行為や規制政策が地域社会に及ぼす影響

【所属学会】林業経済学会、日本森林学会、日本観光研究学会、環境社会学会

【研究目的・研究状況】shibaアットrekihaku.ac.jp（アットを@に置き換えてください）

●主要業績

- 【論文：共著・筆頭】柴崎茂光・佐藤武志・金美沙子・皆上 伸・八巻一成「多様なレクリエーション機会の提供という視点からみた自然公園管理のあり方—十和田八幡平国立公園八幡平地区を事例としたROS手法の適用—」『林業経済』66（9）：pp.1-17, 2013年9月

2. 【論文：単著】「観光地「屋久島」イメージの変化について」『国立歴史民俗博物館研究報告』215, pp.69-90, 2019年2月
3. 【論文：伊藤幸男らと共著，2番目】「宮城県大崎市鬼首地区の開発と契約講による資源管理の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告』215, pp.119-150, 2019年2月
4. 【論文：単著】「森林が有する文化的な価値の歴史の変遷」『林業経済研究』65（1）：pp.3-14, 2019年3月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「守られる自然，失われる文化—保護地域における文化・民俗知の保全—」『ビオシティ』79, ブックエンド, pp.31-35, 2019年7月7日

呉晨陽・永田信・古井戸宏通・柴崎茂光：共著「農家の主観的認識に基づく森林所有権の構造分析」『林業経済』72-4, 林業経済研究所, pp.1-22, 2019年9月1日（査読有）

「保護地域を活用した地域振興や山村文化保全の可能性」第9章を執筆，蛭原一平・齋藤暖生・生方史数編『森林と文化—森とともに生きる民俗知のゆくえ—』共立出版, pp.233-266, 2019年5月1日

5 学会・外部研究会発表

「林業の定義に関する歴史の変遷」林業経済学会，東京農工大学，2019年11月23日

「林業遺産の保全にむけた改善策の提案」日本森林学会，名古屋大学，2020年3月27日

“Conservation of culture related with outstanding nature”筑波大学山岳科学センター（MSC）・自然保護寄付講座（CPNC）共同国際シンポジウム，つくば国際会議場中ホール200，2020年2月9日（招待講演）

7 その他

「47都道府県・花風景百科」『森林科学』87, 日本森林学会, p.52, 2019年10月1日

「『林業』という言葉」『森林レクリエーション』393, 全国森林レクリエーション協会, p.3, 2020年2月1日

「わが国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関連資料群（青森県）」『林野』155, 林野庁, pp.12-13, 2020年2月1日

二 主な研究教育活動

2 外部資金による研究

基盤研究「林業遺産の保存と持続的な活用による林業教育・地域づくりの可能性」（研究代表者：柴崎茂光）2016～2019年度（研究代表者）

基盤研究「文化の主體的継承のための民俗誌の構築—マルチメディアの活用と協働作業を通じて」（研究代表者：川村清志）2018～2022年度（研究分担者）

5 教育

東京大学大学院農学生命科学研究科 非常勤講師「森林環境経済学」（2018年10月）

筑波大学生命環境科学研究科 非常勤講師「山岳科学特別講義II」（2019年1月）

平成30年度歴民研修部門別演習講師「B：民俗」（2018年11月）

三 社会活動等

1 館外における各種委員

『林業経済』編集委員，『林業経済学会』評議員及び総務担当理事，『日本森林学会』林業遺産選定委員，『屋久島世界遺産地域科学委員会』委員，『屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳利用のあり方検討会』委員

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

農山漁村経済再生運動に関連した森林道場・林業修練所や，智頭森林鉄道に関連するフィールド調査を行い，学術書や一般書の出版に向けた出版を行ってきた。ただし近世以前から営まれてきた山岳信仰の保全の現状などは十分調査できなかったため，今後の課題としたい。

島津 美子 Shimadzu Yoshiko 准教授 (2018.4～)

【学歴】金沢大学理学部卒 (1999), 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻 (システム保存学) 修士課程修了 (2001)

【職歴】東京文化財研究所修復技術部研究補佐員 (2001), オランダ文化遺産研究所 (Instituut Collectie Nederland) プロジェクト研究員 (2004), 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所特別研究員 (2008), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教 (2013.7), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2018)

【最終学位】Ph.D. (アムステルダム大学) (2015年2月取得)

【専門分野】保存科学【主な研究テーマ】歴史資料の彩色技法材料の調査研究【所属学会】文化財保存修復学会, 国際文化財保存学会, 国際博物館会議保存国際委員会【研究目的・研究状況・メールアドレス】彩色材料およびその製造方法, 彩色技法等を明らかにし, 資料の帰属する時代や地域における技術レベルや素材の流通などを探る。現在は, 国内の近世から近代にかけての彩色材料についての調査分析を実施中。

●主要業績

1. 【論文】島津美子, 岡田 靖. 研究ノート「近世・近代の木彫仏像に施された彩色の技法材料—山形県龍泉寺, 塩田行屋, 法来寺の事例—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第206集, pp.61-87, 2017年3月)
2. 【論文】研究ノート「幕末明治期の錦絵に用いられた色材調査—赤色, 黄色, 緑色について—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第200集, pp.83-96, 2016年1月)
3. 【調査報告】「第2窟壁画の材料および製作技法の調査」(東京文化財研究所編『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究—第2窟, 第9窟壁画の保存修復と自然科学調査(2009～2011年)—』, pp.97-120, 東京文化財研究所, 2014年3月)
4. 【調査報告】「中央アジア地域にみられる壁画の技法材料について—自然科学的調査の理論および実践の諸相について—」(『《色彩に関する領域横断シンポジウム》報告 きらめく色彩とその技法 工房の実践プラクティスを問う—東西調査報告からみる色彩研究の最前線—』大阪大谷大学文化財学科, pp.20-31, 2013年3月)
5. 【報告書】Chemical and optical aspects of appearance changes in oil paintings from the 19th and early 20th century, Molart Reports 15. University of Amsterdam, 02/2015.

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

5 学会・外部研究会発表

「江戸時代後期の唐船反物切本帳にみられる色名と赤色染料」文化財保存修復学会第41回大会要旨集, 帝京大学, pp.106-107, 2019年6月22日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基盤研究 公募型共同研究『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究 (研究代表者: 藤原重雄 (東京大学史料編纂所)), 共同研究者, 2017～2019年度

基幹研究 水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化形成 (研究代表者: 松木武彦), 共同研究者, 2019年度～2021年度

2 外部資金による研究

科研基盤 (B) 自然科学的調査手法を用いた黄檗様彫刻の国内受容と変容に関する総合的研究 (研究代表者: 長谷洋一 (関西大学)), 研究分担者, 2019年度～2021年度

科研基盤 (A) 伊能図の成立過程に関する学際的研究—忠敬没後200年目の地図学史的検証— (研究代表者: 平井松午 (徳島大学)), 共同研究者 (2019年度～), 2018年度～2021年度

5 教育

東京成徳大学非常勤講師 (博物館資料保存論)

東京芸術大学 (文化遺産国際協力実践論, 2019年6月24日, 担当「文化遺産保護の専門性と国際協力—保存科学の視点から—」)

三 社会活動等

1 館外における各種委員

文化財保存修復学会理事, 学会誌編集委員

5 国際連携

① JICA

国立大学法人東京芸術大学及び一般財団法人 日本国際協力センター (J I C E) 実施「エジプト国大エジプト博物館開館支援合同保存修復プロジェクト」業務従事者 診断分析担当

四 活動報告

2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

第四期将来計画検討会議メンバー

鈴木 卓治 SUZUKI Takuzi 教授(2017.1～), 博物館資源センター長(2019～)

併任: 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授 (2017～), 生年: 1965

【学歴】電気通信大学電気通信学部情報数理工学科 (1988年卒業), 電気通信大学大学院電気通信学研究科情報工学専攻博士後期課程 (1994年単位取得退学), 千葉大学大学院融合科学研究科情報科学専攻博士後期課程 (2015年修了)

【職歴】国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手 (1994), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手 (2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教 (2007), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007), 国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2016), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2017), 国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2017), 博物館資源センター長併任 (2019～)

【学位】博士 (学術) (千葉大学) (2015年取得) 【専門分野】ソフトウェア学, 色彩と画像の数理 【主な研究テーマ】博物館における研究・展示・広報を支援するシステムの研究, とくにネットワーク, データベース, 色彩と画像の情報処理 【所属学会】情報処理学会, 日本ソフトウェア科学会, 日本色彩学会, 情報知識学会

●主要業績

1. 【論文】鈴木卓治・安達文夫・大久保純一・小林光夫: 「錦絵資料の測色画像データベースの構築と色彩分析の試み」, 『人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2004) 論文集』, IPSJ Symposium Series, Vol.2004, No.17, pp.75-82 (2004—12). (平成17年度情報処理学会山下記念研究賞 (人文科学とコンピュータ研究会推薦) 受賞対象論文)
2. 【論文】Takuzi Suzuki, Misaki Kan'no, Noriko Yata, Yoshitsugu Manabe: Detection of transition of red colours on Nishiki-e printings from colour-corrected digital images, Journal of the International Color Association, Vol.14, pp.57-66 (2015-04-27)
3. 【論文】鈴木卓治: 「蒔絵万年筆資料のマルチアングル画像撮影ならびに展開図作成のための技術開発」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』206号, pp.39-59, 2017年3月
4. 【展示】歴博常設展示の第3, 第6, 第4室各室のリニューアルならびに数多くの企画展示における情報端末の設置ならびに情報コンテンツの提供に関する業務に従事
5. 【展示】2016年度企画展示「デジタルで楽しむ歴史資料」, 国立歴史民俗博物館, 展示プロジェクト代表, 2017年3月14日～5月7日

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

鈴木卓治・大久保純一: 百鬼夜行図オートスクロールコンテンツ (新特集展示「もののけの夏」に出展), 国立歴史民俗博物館, 2019年7月30日

5 学会・外部研究会発表

皆木星斗・鈴木卓治・眞鍋佳嗣・矢田紀子：共著「特微量マッチングによるデジタルアーカイブ作成支援の研究」, 2019年映像情報メディア学会冬季大会, 電気通信大学, 2019年12月13日

浅尾陸斗・曾我麻佐子・鈴木卓治：共著「VRによる蒔絵万年筆の3DCGおよび展開図鑑賞システム」, 2019年度映像情報メディア学会メディア工学研究会学生研究発表会, 関東学院大学, 2020年2月8日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

開発型共同研究「歴史災害研究のオープンサイエンス化に向けた研究」(2018～2020年度)(研究代表者 橋本雄太), 研究分担者

③ 機構

機関拠点型基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」(研究代表者 西谷大), 地域連携・教育ユニット, 研究分担者

広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の構築」(主導機関:国文学研究資料館)「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」(2016～2021年度)(研究代表者 小倉慈司), 研究分担者
ネットワーク型基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査研究・活用「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用—日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築—」(2016～2021年度)(プロジェクト代表者 日高 薫), 研究分担者

2 外部資金による研究

「既存アーカイブおよび無形文化財の活用によるVRコンテンツの博物館展示支援(17K01213)」, 科学研究費基盤研究(C)(2017～2019年度)(研究代表者 曾我麻佐子), 研究分担者

「博物館展示の要素を取り入れた歴史資料画像Web閲覧の新手法の構築(18K12006)」, 科学研究費基盤研究(C)(2018～2020年度)(研究代表者 鈴木卓治), 研究代表者

4 主な展示・資料活動

[総合展示] 第1室, 第3室, 第4室, 第5・6室各展示プロジェクト委員(情報端末)

5 教育

歴史民俗資料館等専門職員研修会講師:実習(調査研究の最近の動向(3)画像情報の作成と活用, 勝田 徹 専門員と共同), 授業(資料の保存管理(2)コンピュータの活用, 後藤 真准教授と共同)

三 社会活動等

1 館外における各種委員

人間文化研究機構総合情報発信センター情報部門会議委員(2016年4月より継続中)

人間文化研究機構総合情報発信センター高度連携情報技術委員会委員(資源共有化事業委員会から改称, 2013年4月より継続中)

人間文化研究機構情報セキュリティ委員会委員(2016年4月より継続中)

一般社団法人日本色彩学会代議員(関東支部選出, 2011年5月より継続中)

一般社団法人日本色彩学会画像色彩研究会主査(2014年4月より継続中)

一般社団法人日本色彩学会学会誌編集委員会委員(副委員長)(2016年7月より継続中)

一般社団法人日本色彩学会学会誌広報委員会委員(2016年7月より継続中)

4 社会連携

④ デジタル・コンテンツ開発

AR作品『屏風から家光を探せ, からの, 取り出す江戸時代』(制作 AR三兄弟)における, 本館第3展示室江戸橋広小路模型の3Dデータ計測への協力(2019年9月に「羽田×歴博 Think Japan 日本の魅力を, 考える。」に出席, 文化庁「空港等におけるメディア芸術日本文化発信事業」の一環として制作)

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

本年度は, 資料固定・回転用治具の制御基板の制作に必要な工作器具(はんだ付けステーション)を購入した。来年度は, 資料の固定方法に関する検討を行い, 治具の制作をすすめる予定である。

関沢まゆみ SEKIZAWA Mayumi 教授 (2011～), 研究推進センター長 (2017～2019)

併任：総研大日本歴史研究専攻教授 (2011～), 生年：1964

【学歴】東京女子大学文理学部史学科 (1986年卒業), 筑波大学大学院地域研究研究科日本文化研究コース修士課程 (1988年修了)

【職歴】帝京大学文学部非常勤講師 (1993), 早稲田大学オープンカレッジ非常勤講師 (1993), 東京家政学院大学人文学部非常勤講師 (1994), 東京学芸大学教育学部非常勤講師 (1994), 筑波大学第二学群非常勤講師 (1996), 国立歴史民俗博物館民俗研究部助手 (1998), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2005), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2007), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2011), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2011), 研究推進センター長併任 (2013～2014, 2017～2019)

【学位】文学博士 (筑波大学) (2001年取得) 【専門分野】民俗学 【主な研究テーマ】社会・信仰・儀礼に関する民俗学的研究, 高度経済成長と民俗の変化 【所属学会】日本民俗学会, 日本文化人類学会, 比較家族史学会 【研究目的・研究状況】2007年から継続している高度経済成長と民俗の変化に関する共同研究による, 資料情報の蓄積と論文作成, また戦後民俗学でやや等閑視されてきた比較研究法の有効性を再確認する実践例を示す試みなどが中心的課題となっている。

●主要業績

1. 【単著】『宮座と老人の民俗』266頁, 吉川弘文館 2001年2月
2. 【単著】『隠居と定年—老いの民俗学的考察—』196頁, 臨川書店 2003年3月
3. 【単著】『宮座と墓制の歴史民俗』305頁, 吉川弘文館 2005年2月
4. 【単著】『現代「女の一生」—人生儀礼から読み解く—』244頁, NHK出版 2008年6月
5. 【単編著】『民俗学が読み解く葬儀と墓の変化』(国立歴史民俗博物館研究叢書2), 160頁, 朝倉書店, 2017年3月

●2019年度の研究教育活動**一 研究業績****1 著書**

関沢まゆみ編『日本の食文化2 米と餅』226頁, 吉川弘文館, 2019年6月20日

総論「米と餅の歴史的層性」pp.1-19 (同書所収)

「しとぎと団子—神仏への供物—」pp.199-218 (同書所収)

関沢まゆみ編『日本の食文化6 菓子と果物』240頁, 吉川弘文館, 2019年10月20日

総論「甘味の魅力と食の文化」pp.1-18 (同書所収)

「カステラと菓子パン—オープンで焼く菓子—」pp.199-232 (同書所収)

2 論文

「食—食生活の変化と民俗学—」, 『日本民俗学』300, pp.17-30, 2019年11月30日

3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など

「節句 (節供)」『日本の建築文化事典』丸善出版, pp.386-387, 2020年1月

「ひな祭り」『日本の建築文化事典』丸善出版, pp.388-389, 2020年1月

「出産, 婚姻儀礼, 葬送儀礼」『日本の建築文化事典』丸善出版, pp.390-391, 2020年1月

5 学会・外部研究会発表

「いま, 老いを考える—民俗学の視点から—」山陰民俗学会大会, 松江市, 2019年8月4日

「清潔の近現代—民俗の実態と啓発の視点—」日本民俗学会第71回年会, 筑波大学, 2019年10月12日

「清潔の近現代—民俗資料にみる入浴・洗髪・歯磨き—」日本民俗学会第71回年会, 筑波大学, 2019年10月12日

7 その他

「民俗から歴史を見る—第二巻『米と餅』の見どころ」『本郷』142, 吉川弘文館, pp.5-7, 2019年7月1日

「果実から菓子へ」『本郷』144, 吉川弘文館, pp.5-7, 2019年11月1日

「女の子の幸せを願う」一般社団法人小原流『插花』pp.14-15, 2020年3月1日

「清潔の近現代—民俗の実態と啓発の視点—」『日本民俗学会第71回年会研究発表要旨集』, 筑波大学, p.45, 2019年10月12日

「清潔の近現代—民俗資料にみる入浴・洗髪・歯磨き—」『日本民俗学会第71回年会研究発表要旨集』, 筑波大学, p.47, 2019年10月12日

門地里絵・関沢まゆみ・新谷尚紀「「きれいにする行為は、空間・身体をリセットして新たな未来を迎えるきっかけになる」という日本における普遍的意識を確認」花王株式会社 ニュースリリース, 2020年2月13日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化形成」(松木武彦研究代表) 副代表, 2019~2021年度

基盤研究「高度経済成長と食生活の変化」(宮内貴久研究代表) 副代表, 2018~2020年度

2 外部資金による研究

基盤研究B「村落社会の相互扶助の動揺と民俗の維持継承—葬儀変化にみる地域差の存在とその意味—」研究代表, 2017~2019年度

「大柳生の宮座と葬墓の伝承と変化—20年後の追跡調査から—」関沢まゆみ編『科研B村落社会の相互扶助の動揺と民俗の維持継承2018年度中間報告』, pp.3-9, 2019年4月25日

現代民俗学会第49回研究会「葬儀の変化と地域社会」, お茶の水女子大学, 2020年3月7日(新型コロナウイルスの感染拡大防止により中止)

4 主な展示・資料活動

総合展示第6室「高度経済成長と生活の変貌」担当

5 教育

東京女子大学国際教養学部非常勤講師(民俗学)

國學院大学大学院文学研究科兼任講師(民俗学特論)

三 社会活動等

1 館外における各種委員

島根県古代文化センター企画運営委員, 栃木県重要文化財保護審議委員, 新宿区文化財保護審議会委員, 川崎市文化財審議会委員, 千葉県博物館協議会委員, 昭和館運営専門委員会委員, 文化審議会専門委員(文化財分科会), 文化財保存活用専門委員会専門委員, 日本民俗学会理事

2 講演・カルチャーセンターなど

「高齢化社会の老いと死—民俗学の視点から考える—」國學院大学, 國學院大学オープンカレッジ, 2019年7月12日

「高度経済成長と生活変化」うらやす市民大学, 浦安市, 2019年11月16日

3 マスコミ

「盆踊りはなぜ必要か」, オピニオン『朝日新聞』, 2019年8月14日

「ゴールデンウィーク」, NHK「日本人のお名前」放映: 2019年4月25日, 他

4 社会連携

産学連携共同研究「清潔と洗淨をめぐる総合的歴史文化研究」(花王株式会社), 研究代表, 2017~2020年度

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

高度経済成長期を経て、農作業の機械化は進んだが、お田植祭は各地に伝承されている。その分布と特徴、折口信夫と柳田國男の田植え論についての整理を行い、田植えと男女の役割分担の歴史的变化の可能性について民俗伝承学的視点から考察を試みた(「田植えと女性—民俗学からの一考察—」『研究報告』投稿中)。

高田 貫太 TAKATA Kanta 准教授 (2010.10～)

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授併任 (2011～) 生年：1975年3月7日

【学歴】岡山大学文学部史学科 (1997年卒業), 岡山大学大学院文学研究科史学専攻修士課程 (1999年修了), 大韓民国慶北大学校大学院考古人類学科博士課程 (2004年修了)

【職歴】大韓民国慶北大学校考古人類学科非常勤講師 (2003), 岡山大学埋蔵文化財センター助手 (2004), 奈良文化財研究所都城発掘調査部研究員 (2006), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2010), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2011)

【学位】文学博士 (大韓民国慶北大学) (2005年取得) 【専門分野】考古学 【主な研究テーマ】古墳時代における日本列島と朝鮮半島の交流史 【所属学会】韓国嶺南考古学会, 韓国考古学会 【研究目的・研究状況】近年は, 朝鮮半島柴山江流域と倭の交流史について日朝双方の視点からその特色を浮き彫りにすることに努めている。

●主要業績

1. 【単著】『古墳時代の日朝関係』吉川弘文館, 363頁, 2014年3月
2. 【単著】『海の向こうから見た倭国』講談社, 304頁, 2017年2月
3. 【論文】「考古学による日朝関係史研究の現状と課題—先史・古代を中心に—」(『考古学研究』59-2, pp.16-28, 考古学研究会, 2012年9月) (査読付き)
4. 【論文】「柴山江流域における前方後円墳築造の歴史的背景」(『古墳時代の研究7—内外の交流と時代の潮流—』pp.85-102, 同成社, 2012年10月)
5. 【論文】「古墳出土龍文透彫製品の分類と編年」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第173集, pp.121-141, 2013年3月) (査読付き)

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

『異形』の古墳—朝鮮半島の前方後円墳』286頁, 5章, KADOKAWA, 2019年9月20日

『한반도에서 바라본 고대일본 (朝鮮半島から見た古代日本)』278頁, 6章, 짐인진 (zininjin), 2019年8月1日, 韓国

高田貫太・李暎澈：共編『古墳時代・三国時代における日朝関係史の再構築—倭と柴山江流域を中心に—』国立歴史民俗博物館研究報告217, 348頁, 4部 (13編) 国立歴史民俗博物館, 2019年9月20日

「古墳時代における日朝関係の概観」右島和夫編『馬の考古学』, 雄山閣, 2019年11月25日

2 論文

「5世紀の朝鮮半島西南部における堅穴式石室・堅穴系横口式石室の構造」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』217, 国立歴史民俗博物館, pp.239-259, 2019年9月20日 (査読有)

「古墳時代中期における中国・四国地域の堅穴式石室・堅穴系横口式石室・木槨—朝鮮半島東南部との比較を通して—」中国四国前方後円墳研究会第22回研究集会「中期古墳研究の現状と課題Ⅲ～埋葬施設の形式・構築方法・儀礼の地域的展開と被葬者像～」発表要旨集・資料集成, pp.25-41, 2019年11月30日 (査読有)

「咸平新徳1号墳出土冠・飾履について」, 咸平礼徳里古墳群史蹟指定推進のための国際学術会議(発表要旨集), pp.199-218, 2019年11月8日, 韓国 (査読有)

5 学会・外部研究会発表

「古墳時代中期における中国・四国地域の堅穴式石室・堅穴系横口式石室・木槨—朝鮮半島東南部との比較を通して—」, 中国四国前方後円墳研究会第22回研究集会「中期古墳研究の現状と課題Ⅲ～埋葬施設の形式・構築方法・儀礼の地域的展開と被葬者像～」, 広島県立歴史民俗資料館, 2019年11月30日

「咸平新徳1号墳出土冠・飾履について」咸平礼徳里古墳群史蹟指定推進のための国際学術会議, 韓国国立光州博物館, 2019年11月8・9日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基盤研究「古墳時代・三国時代の日朝関係における交渉経路と寄港地に関する日韓共同研究」(2018～2020)

年度) 研究代表者

③ 機構

人間文化研究機構 基幹研究プロジェクト地域研究推進事業「北東アジア地域研究」(拠点 国立民族学博物館)

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究C「朝鮮半島西南部の前方後円墳をめぐる倭と馬韓の交渉史」(2016年度～2019年度) 研究代表者

3 国際交流事業

「国立文化財研究所との相互交流事業」(研究代表者: 青山宏夫, 相手機関: 韓国国立文化財研究所, 2015～2020年度) ※2015年3月に学術交流協定を延長

「先史～中世における日韓葬送儀礼の比較研究Ⅱ」(研究代表者: 高田貫太, 相手機関: 韓国国立中央博物館, 2019～2021年度) ※2016年4月に学術交流協定を延長

4 主な展示・資料活動

総合展示第1室展示プロジェクト委員

国際企画展示『加耶—東アジアを生きた, ある王国の歴史—』展示プロジェクト委員代表

5 教育

東洋大学文学部非常勤講師

三 社会活動等

1 館外における各種委員

群馬県立歴史博物館企画展示「毘抜き観音山古墳のすべて」展示プロジェクト委員

韓国考古学会会誌『韓国考古学報』編集委員

韓国嶺南考古学会誌『嶺南考古学』編集委員

韓国湖南考古学会誌『湖南考古学』編集委員

韓国中央文化財研究院発行専門雑誌『中央考古』編集委員

四 活動報告

2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

第四期将来計画委員会委員

総合誌『歴博』リニューアル委員会委員

3 研究・調査プロジェクト報告

朝鮮半島の栄山江流域にきざかれた前方後円墳の造営背景について, これまでの研究内容を総括し, その成果と課題について単著『「異形」の古墳』(2019年9月刊行 角川選書)にまとめた。

4 その他

歴博基盤研究にも関連する, 古墳時代(朝鮮三国時代)の貴金属のアクセサリーを取り巻く交渉史についての書籍を刊行したい。

田中 大喜 TANAKA Hiroki, 准教授 (2014.4～)

併任: 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授 (2014.10～), 生年: 1972

【学歴】学習院大学文学部史学科 (1996年3月卒業), 学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程 (1999年3月修了), 学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士後期課程 (2005年3月修了) 【職歴】学習院大学文学部助手 (2005年4月～2006年3月), 東京大学史料編纂所研究機関研究員 (2005年4月～2006年3月), 駒場東邦中学校・高等学校教諭 (2006年4月～2014年3月), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2014年4月～), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2014年10月～) 【学位】博士 (史学, 学習院大学) (2005年取得) 【専門分野】日本中世史 【主な研究テーマ】中世武士団・武家政権論, 中世地域社会論 【所属学会】歴史学研究会, 日本史研究会, 日本歴史学会, 地方史研究協議会, 鎌倉遺文研究会, 学習院史学会 【研究目的・研究状況】武士団・武家政権の研究を通して, およそ700年間にわたり武士の支配が継続した歴史を持つ日本社会の特質を追究することを目的とする。2019年度より, 東国武士団の西遷・北遷に関する

共同研究を実施している。【メールアドレス】 daiki-t@rekihaku.ac.jp

●主要業績

1. 【単著】『中世武士団構造の研究』376頁, 校倉書房, 2011年8月
2. 【単著】『新田一族の中世 「武家の棟梁」への道』230頁, 吉川弘文館, 2015年9月
3. 【共編】秋山哲雄・田中大喜・野口華世『日本中世史入門 論文を書こう』342頁, 勉誠出版, 2014年4月
4. 【共編】小島道裕・田中大喜・荒木和憲『古文書の様式と国際比較』432頁, 勉誠出版, 2020年2月
5. 【共著】『熊谷市史通史編上巻 原始・古代・中世』765頁, 熊谷市, 2018年3月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 1 著書
 - 「足利尊氏と後醍醐天皇—幕府再興をめぐる想い—」(樋口州男ほか編『歴史の中の人物像—二人の日本史—』小径社, pp.122-130, 2019年4月10日)
 - 「南北朝期日本の不改年号と私年号」(水上雅晴編『年号と東アジア—改元の思想と文化—』八木書店, pp.305-323, 2019年4月30日)
 - 「將軍の文書と武士団の文書」(小島道裕・田中大喜・荒木和憲編/国立歴史民俗博物館監修『古文書の様式と国際比較』勉誠出版, pp.64-81, 2020年2月28日, 査読有)
- 3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など
 - 共著: 田中大喜, 渡邊浩貴, 村木二郎『中世益田現地調査成果概報vol.3』(国立歴史民俗博物館, 26頁, 2020年3月31日)
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
 - 企画展展示図録『大新田氏展』(群馬県立歴史博物館編, 151頁, 2019年4月27日)
- 5 学会・外部研究会発表
 - 「中世武家の置文と讓状」鎌倉遺文研究会第251回例会, 早稲田大学戸山キャンパス, 2019年6月27日
- 7 その他
 - 書評「高橋修著『信仰の中世武士団—湯浅一族と明恵—』」(『史学雑誌』128-4号, pp.59-67, 2019年4月20日)
 - 書評「高橋秀樹『三浦一族の研究』」(『歴史学研究』987号, pp.50-53, 2019年9月15日)
 - 「歴博フォーラム 中世益田の世界」(歴史系総合誌『歴博』216号, 国立歴史民俗博物館, p.23, 2019年9月20日)
 - 「鎌倉・南北朝期の武家社会における『源氏嫡流』意識」(『地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産』vol.3, 群馬県立女子大学群馬学センター, pp.3-18, 2020年3月31日)

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
 - ① 歴博
 - 「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成」(代表: 梅田千尋) 共同研究者, 2018~2020年度
 - ② 他の機関
 - 東京大学史料編纂所一般共同研究「藤波家旧蔵史料の調査・研究」(代表: 高橋秀樹) 共同研究員, 2019年度
- 2 外部資金による研究
 - 科学研究費補助金基盤研究(B)「中世日本の東アジア交流史に関する史料の集成的研究と研究資源化」(代表: 荒木和憲) 連携研究者, 2016~2020年度
 - 科学研究費補助金基盤研究(A)「琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家」(代表: 村木二郎) 研究分担者, 2018~2021年度
 - 科学研究費補助金基盤研究(B)「西遷・北遷東国武士の社会的権力化」研究代表者, 2019~2022年度
- 4 主な展示・資料活動
 - 新・特集展示「海の帝国琉球—八重山・宮古・奄美からみた中世—」(展示代表: 村木二郎) 展示プロジェクト委員
 - 企画展示「中世武士団—領主としての実像—(仮)」展示プロジェクト委員(展示代表)

5 教育

慶應義塾大学文学部非常勤講師, 「日本史特殊講義演習 I B・II B」担当

東邦大学理学部非常勤講師, 「総合演習 IV」担当

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科特別講義講師, 「国立歴史民俗博物館ワークショップ」担当

総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史専攻学位審査担当 (副査)

「『論文を書く楽しさ』って何？」駒場東邦中学校講演会, 駒場東邦中学校, 2019年11月20日

三 社会活動等

1 館外における各種委員

群馬県立歴史博物館展示プロジェクト委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「鎌倉・南北朝期の武家社会における『源氏嫡流』意識」第37回群馬学連続シンポジウム「新田源氏研究の最前線—ぐんま源氏ブランドの潮流—」, 玉村町文化センター, 2019年5月11日

鼎談: 田中大喜, 築瀬大輔, 小日向えり「歴ドルと研究者が語る新田義貞」群馬県立歴史博物館第98回企画展「大新田氏展」関連行事, 群馬県立歴史博物館, 2019年6月1日

「高津川・益田川河口域の中世」第112回歴博フォーラム「中世益田の世界」, 島根県立石見美術館, 2019年11月2日

「中世の武士・武士団とはなにか」早稲田大学エクステンションセンター無料体験会講座, 早稲田大学エクステンションセンター早稲田校, 2020年3月13日

「『後の醍醐』になろうとした天皇」歴史の中の人物像 時空を超えた対比の面白さ, 朝日カルチャーセンター千葉, 2020年3月21日

「中世の古文書を読む」朝日カルチャーセンター千葉, 通年

3 マスコミ

「史書を訪ねて 太平記」読売新聞, p.5, 2019年7月9日

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

「金山城築城と金山城下」金山城築城550年記念 第24回金山歴史講演会, 史跡金山城跡ガイダンス施設, 太田市教育委員会, 2019年7月13日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

玉川大学教育学術情報図書館所蔵「石見故事記」と浜田市立中央図書館所蔵「石見国由来記」の調査・撮影を行い, 近世段階の石見国長野荘・益田荘域の伝承・地理情報を収集した。また, 小城市教育委員会所蔵の地籍図の調査・撮影を行い, 小城市に関わる地理情報を収集した。これらの情報をもとに石見国長野荘・益田荘故地および肥前国小城郡故地の現地調査を実施し, 当該地域における中世武家領主の本拠地空間復元に向けた手がかりを得ることができた。

4 その他

2019年度から開始した科学研究費補助金基盤研究 (B)「西遷・北遷東国武士の社会的権力化」の今年度の研究経過・成果については, 「外部資金による研究」の章を参照のこと。

西谷 大 NISHITANI Masaru 教授 (2012～), 副館長 (2017～)

併任: 総研大日本歴史研究専攻教授 (2012～), 生年: 1959年5月23日

【学歴】熊本大学文学部史学科 (1984年卒業), 熊本大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了 (1986年単位取得退学), 中華人民共和国中山大学人類学系 (1989年まで留学) 【職歴】国立歴史民俗博物館考古部助手 (1989), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2008), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2012), 総合研究大学院大

学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2012）、博物館資源センター長併任（2013～2015）

【学位】文学修士（熊本大学）（1986年取得）、文学博士（総合研究大学院大学）（2008年取得）

【専門分野】東アジア人類史【主な研究テーマ】東アジアの生業に関わる歴史 日本の地域研究（人と自然の関係史）

【所属学会】中国考古学会、東南アジア考古学会【研究目的・研究状況・メールアドレス】東アジアにおける生業の歴史を主な研究目的とする。中国海南省のリー族、中国雲南省紅河州の者米谷でフィールド調査を行ってきた。近年は、千葉県房総丘陵地域で、近世から現代までの人と自然の関係史を、様々な分野の研究者と共同でフィールド調査を行っている。

●主要業績

1. 【編著】「[共同研究] 東アジアにおける多用な自然利用—水田農耕民と焼畑農耕民」『国立歴史民俗博物館研究報告』第164集、国立歴史民俗博物館、A 4 版、177頁、2011年3月
2. 【単著】『多民族の住む谷間の民族誌—生業と市からみた環境利用と市場メカニズムの生起』角川学芸出版、A 5 版、335頁、2011年9月
3. 【論文】Nishitani Masaru and Nathan Badenoch 「Why Periodic Markets Are Held : Considering Products, People, and Place in the Yunnan-Vietnam Border Area」Vol 2. No 1. of Southeast Asian Studies, pp.171-192, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2013年4月（査読有）
4. 【論文】西谷 大・島立理子・大久保悟「共同研究 [日本の中山間地域における人と自然の文化誌] 中間報告—二号穴からみた水利用—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第186集、pp.295-309、国立歴史民俗博物館、2014年3月（査読有）
5. 【論文】西谷 大「豚便所—飼養形態からみた豚文化の特質」『国立歴史民俗博物館研究報告』第90集、pp.79-149、国立歴史民俗博物館、2001年3月（査読有）

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

5 学会・外部研究会発表

Masaru NISHITANI, Riko SHIMADATE, Junko UCHIDA : “Nigo-ana : The Past, Present and Future of the People Intertwined with Water and Rice” ICOM京都 国際地方博物館委員会、国立京都国際会館、2019年9月4日

7 その他

「遺跡を訪ね《第IV期》第二回 〈二五穴〉千葉県の房総丘陵の灌漑用水路」學士會会報 941、學士会、pp.79-83、2020年3月

Masaru NISHITANI, Riko SHIMADATE, Junko UCHIDA : “Nigo-ana : The Past, Present and Future of the People Intertwined with Water and Rice” ICOM International committee for regional museums, Programme & Abstracts for 2019 ICR Annual Conference in Kyoto & Osaka, 2019年9月4日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築、研究代表、2016年度～

4 主な展示・資料活動

総合展示第1室「大テーマ名 弥生」展示プロジェクト委員

三 社会活動等

1 館外における各種委員

公益財団法人 印旛郡市文化財センター 理事

2 講演・カルチャーセンターなど

「研究成果をいかにして「どこでも」「わかりやすく」「楽しく」見せるか？」大学共同利用機関シンポジウム 2019、日本科学未来館、2019年10月20日

歴博研究映像・上映会「二五穴」, 「研究の意図」, 君津市上総地域交流センター、2020年2月9日

歴博研究映像・上映会「二五穴」, 「研究の意図」, 君津市立中央図書館、2020年2月9日

歴博研究映像・上映会「松丘地区文化祭:『二五穴』上映会,「二五穴について」,松丘コミュニティーセンター, 2019年11月2日

3 マスコミ

- 「随想 セミの声と季節の移ろい」神戸新聞, 2019年9月9日
- 「随想 ニセモノと博物館」神戸新聞, 2019年9月26日
- 「随想 和食は「ご飯愛!」の三角関係」神戸新聞, 2019年10月11日
- 「随想 台湾はもう一つの顔」神戸新聞, 2019年10月30日
- 「随想 佐原真先生の所作」神戸新聞, 2019年11月18日
- 「随想 虎の住む国境の森」神戸新聞, 2019年11月29日
- 「随想 臭豆腐」神戸新聞, 2019年12月13日
- 「随想 なぜ市にハマるのか?」神戸新聞, 2019年12月27日

仁藤 敦史 NITO Atsushi 教授 (2008～)

併任 総合研究大学院大学日本歴史研究専攻教授 (2008～)

【学歴】早稲田大学第一文学部日本史学専攻 (1982年卒業), 早稲田大学大学院文学研究科史学 (日本史) 専攻博士前期課程 (1984年修了), 早稲田大学大学院文学研究科史学 (日本史) 専攻博士後期課程 (1989年満期退学)

【職歴】早稲田大学第一文学部助手 (1989), 国立歴史民俗博物館歴史研究部助手 (1991), 助教授 (1999), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2002), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2007), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2008), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2008), 【役職】総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻専攻長 (2012-13), 広報連携センター長 (2017-2018) 【その他】国立歴史民俗博物館三十年史編纂委員長 (2011-2014) 【学位】博士 (文学) (早稲田大学文学部1998取得) 【専門分野】日本古代史 【主な研究テーマ】都城制成立過程の研究 / Establishment process of Japanese ancient capital cities, 古代王権論 / Theoretical study of ancient sovereignty, 古代地域社会論 / Ancient local societies 【所属学会】歴史学研究会, 木簡学会, 史学会, 日本史研究会, 条里制・古代都市研究会

●主要業績

1. 【著書】『卑弥呼と台与』山川出版社, 90頁, 2009年10月
2. 【著書】『都はなぜ移るのか—遷都の古代史—』吉川弘文館, 246頁, 2011年12月
3. 【著書】『さかのぼり日本史⑩奈良・飛鳥 「都」がつくる古代国家』NHK出版, 123頁, 2012年6月
4. 【著書】『古代王権と支配構造』吉川弘文館, 361頁, 2012年3月
5. 【原著論文】「倭国の成立と東アジア」(『岩波講座 日本歴史』1 原始・古代1, 岩波書店, pp.137-167, 2013年11月) (査読有)

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

- 「古代都城の思想」, 『古代文学と隣接諸学 8 古代の都城と交通』, 竹林社, p.17-39, 2019年5月10日
- 「倭・百済間の人的交流と外交」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』217, 国立歴史民俗博物館, pp.29-45, 2019年9月20日 (査読有)
- 「欽明期の王権と地域」, 『季刊考古学・別冊30 賤機山古墳と東国首長』, 雄山閣, pp.125-138, 2019年10月25日
- 「天若日子伝承再考—モガリの主宰—」, 白石太一郎先生傘寿記念論文集『古墳と国家形成期の諸問題』, 山川出版社, pp.263-267, 2019年10月20日
- 「『延喜齋宮式』から見た堅魚製品の貢納と消費」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』218, 国立歴史民俗博物館, pp.413-423, 2019年12月27日 (査読有)
- 「『詔勅』における口頭伝達の役割」小島道裕他編『古文書の様式と国際比較』勉誠出版, pp.19-35, 2020年2

- 月28日（査読有）
 「文献史料からみたヤマト王権の段階」、『東アジアと倭の眼でみた古墳時代』朝倉書店、pp.35-50、2020年3月20日（査読有）
- 5 学会・外部研究会発表
 「古代国家と譲位制の成立—「平成の代替わり」を古代史から考える—」、歴史学研究会 シンポジウム「天皇と皇位継承のコスモロジー」、明治大学、2019年4月13日
 「太上天皇の成立と展開—皇極・孝謙・斉明の事例を中心に—」、國學院大學文化講演会、國學院大學、2019年6月8日
 「女帝の成立過程を考える—政治的モガリの主宰と太后—」仙台古代史懇話会例会報告、東北学院大、2019年7月13日
 「古代国家形成期の王権と東国—上総・下総地域を中心に—」第47回古代史サマーセミナー分科会報告、国立歴史民俗博物館、2019年8月23日
 「五世紀史解釈の方法論をめぐって」、大阪歴史協例会、『日本古代国家形成論の再構築に向けて』、大阪市立西区民センター、2019年9月21日
 「六世紀の王権と東国豪族」愛知大学研究会、愛知大学、2019年11月16日
 「コメント—古代王権論からみた天皇の位置づけ—」民衆史研究会2019年度シンポジウム「民衆の視点から「天皇」を考える」、2019年12月21日、早稲田大学戸山キャンパス33号館3階332教室
 「六世紀の環境変動と王権構造の変化—那津官家の修造問題を中心に—」、第25回東北・関東前方後円墳研究会大会、千葉県立中央博物館、シンポジウム『後期の中の変革—536年イベントにみる気候変動との関わり—』、2020年2月16日
- 7 その他
 書評：古市晃著「古代国家形成期の王宮と地域社会」、『歴史評論』838、歴史科学協議会、pp.70-74、2020年2月1日
 『『延喜式』と陵墓設定の意味』、歴史系総合誌「歴博」219、国立歴史民俗博物館、p.6、2020年3月20日

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
- ① 歴博
 基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化形成」（研究代表者：松木武彦）分担者（2019～2021年度）
- ③ 機構
 基幹研究プロジェクト「異分野融合による「総合書物学」の構築」ユニット「古代の百科全書『延喜式』の多文野協働研究」分担者（2016～2021年度）
- 2 外部資金による研究
 桜井市纏向学術センター共同研究員（2013年度～）
- 4 主な展示・資料活動
 総合展示リニューアル第一室展示プロジェクト委員（副室2「正倉院文書の世界」担当）
 2020年度企画展示「ジェンダーからみた日本の歴史」展示プロジェクト委員
 2020年度企画展示「加耶」展示プロジェクト委員
 特集展示「正倉院文書複製の特別公開—クラウドファンディングによる製作と展示—」（2019年3月19日～5月12日）
 正倉院文書複製事業2019年10月（撮影）
- 5 教育
 明治大学大学院文学研究科兼任講師（日本史特論）通年
 早稲田大学文化構想学部非常勤講師（国家形成論）後期

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員
 条里制・古代都市研究会評議員
 正倉院文書研究会委員

奈良県桜井市纏向学研究センター共同研究員

島根県古代文化センター企画運営委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「古代王権論から「平成の譲位」を考える—太上天皇と譲位のはじまり—」朝日カルチャー新宿「天皇の身体と皇位継承」, 新宿三井住友ビル, 2019年4月18日

「入門古代史」全3回, 朝日カルチャーセンター新宿, 新宿住友ビル, 2019年4月25日・5月23日・6月27日

「古代の天皇と天皇制—太上天皇と譲位のはじまり—」, 敬文舎講座「日本人は何と戦ってきたか?」, 神田神保町, 2019年5月18日

「日本の古代史—日本書紀・古事記から見た日本—」全五回, 『天章堂講座』, 茨城県県南生涯学習センター, 2019年6月2日・16日・7月7日・21日・8月4日

「古代史から代替わりを考える」全三回, トンボの眼連続講座, 2019年6月9日・7月28日・8月11日

「倭の五王の時代の内政—ワカタケル大王の列島支配—」トンボの眼講演&対談「『倭の五王』の時代—その外交と内政を考える—」(河内春人氏と対談), 池袋イケビズ, 2019年6月30日

「古代国家と譲位制の成立—皇極・孝謙・嵯峨の事例—」古代を学ぶ会, 中野区勤労福祉会館, 2017年7月9日・2019年7月3日

「古代天皇の歴史—継体天皇から斉明天皇まで—」全五回, 公益財団法人いきいき埼玉, 埼玉県県民活動総合センター, 2019年9月1日・8日・15日・22日・29日

「斉明女帝の時代—興事と天下観—」, 明治大学博物館友の会, 第二回飛鳥学講演会, 明治大学博物館, 2019年9月25日

「五世紀のヤマト王権—中国南朝との交渉を中心に—」, 中国文化センター『中国南北朝, 高句麗・倭の五王』, 有楽町朝日ホール, 2019年10月20日

「卑弥呼没後の倭国—東アジア情勢を中心に—」, 桜井市纏向学研究センター 東京フォーラム, 有楽町読売ホール, 2019年10月27日

「古代王権論からみた大嘗祭—天皇即位儀礼を考える—」, 朝日カルチャー新宿, 三井住友ビル, 2019年11月7日

「七世紀の女帝」文化史学会, 清泉女子大学文化講演会, 清泉女子大学, 2019年11月13日

(その要旨は『創』53号, 文化史学会, pp.57-90, 2020年3月15日)

「副室 正倉院文書」朝日カルチャーセンター千葉連続講座, 歴博第一展示室・ガイダンスルーム・調査室, 2019年11月25日

「邪馬台国と卑弥呼—公孫氏政権と魏王朝—」ジュピターコーポレーション文化講演会, 青山大学アイビーホール, 2019年12月4日

「日本の古代史—日本書紀・古事記から見た日本—」全五回, 『天章堂講座』, 茨城県県南生涯学習センター, 2020年12月15日・22日・1月12日・19日・26日

「七世紀の王権と外交」トンボの眼, 品川区立中小企業センター・イケビズ, 2020年2月2日・3月21日

「邪馬台国からヤマト王権へ」全四回, 早稲田大学イクステンションセンター八丁堀校, 2020年1月30日・2月6日・13日・20日

3 マスコミ

「律令国家の創始者天武・持統天皇」, 「週刊東洋経済」6877号, 東洋経済新報社, pp.38-39, 2019年9月14日

「今時の歴史 天皇制の伝統とは」, 毎日新聞 夕刊51550, 毎日新聞社, p.4, 2019年5月16日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

古代の王権および都城の研究するため, 関連学会への参加により最新の発掘情報および出土文字資料の情報収集をすることができた。

林部 均 HAYASHIBE Hitoshi 副館長・研究総主幹(2017～), 教授(2013～)

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2013～），生年：1960

【学歴】関西大学文学部史学地理学科（1983年卒業）

【職歴】奈良県立橿原考古学研究所嘱託（1983），奈良県立橿原考古学研究所（奈良県教育委員会）技師（1985），同主任研究員（1992），同総括研究員（2006），関西大学文学部非常勤講師（2002～2005），三重大学人文学部非常勤講師（2006），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2010），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2010），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2013～），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2013～），研究推進センター長（2014～2016），専修大学文学部非常勤講師（2013），早稲田大学大学院非常勤講師（2014），専修大学大学院非常勤講師（2015）

【学位】博士（文学）（奈良女子大学）（2001年取得）【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】東アジアの王宮・王都の研究，考古学からみた地域社会の研究【所属学会】日本考古学協会・考古学研究会・日本史研究会・条里制古代都市研究会

●主要業績

1. 【著書】『古代宮都形成過程の研究』378頁，青木書店，2001年3月
2. 【著書】『飛鳥の宮と藤原京—よみがえる古代王宮—』259頁，歴史文化ライブラリー249，吉川弘文館，2008年3月
3. 【論文】「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」（『考古学雑誌』72-1，pp.31-71，日本考古学会，1986年9月）（査読付き）
4. 【論文】「古代宮都と郡山遺跡・多賀城」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第163集，pp.99-131，2011年3月）（査読付き）
5. 【調査報告書】編著『飛鳥京跡Ⅲ—内郭中枢の調査—』253頁，奈良県立橿原考古学研究所，2008年3月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 3 調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
共著『飛鳥宮跡木簡』吉川弘文館，pp.1-11，2019年4月
- 7 その他
「古代国家の形成と王宮・王都」斎宮歴史博物館公開講座『飛鳥の宮と斎の宮』，pp.1-14，2019年11月23日
「北の境界領域からみた日本史」令和元年度『後三年合戦沼柵公開講座』横手市教育委員会，pp.1-17，2019年9月29日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究プロジェクト（広領域型）「異分野融合による総合書物学の構築」（主導機関：国文学研究資料館）「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」（研究代表者 小倉 慈司）共同研究員，2016年度～2021年度
共同研究員基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化形成」（研究代表者 松木武彦）共同研究員，2019年度～2021年度

② 他の機関

基幹研究プロジェクト「地域研究推進事業」「北東アジア地域研究」国立民俗博物館研究拠点（研究代表者：池谷和信）共同研究員，2016～2021年度

2 外部資金による研究

基盤研究（B）「官衙機構の動態からみた日本古代における境域の特質」（研究代表者：林部 均），2018年度～2020年度

基盤研究（A）「高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究」（研究代表者：斎藤努）研究分担者，2017年～2020年度

4 主な展示・資料活動

総合展示第1室「原始・古代」新構築プロジェクト委員

三 社会活動等

1 館外における各種委員

条里制・古代都市研究会評議委員，考古学研究会全国委員（関東），「古墳壁画の保存活用に関する検討会」委員（文化庁），奈良県立橿原考古学研究所共同研究員，上野国府等調査委員会委員（前橋市教育委員会），総社古墳群調査検討委員会（前橋市教育委員会），松山市文化財保護審議会久米官衙遺跡群調査検討部会委員（松山市教育委員会），福原長者原遺跡調査指導委員会委員（行橋市教育委員会），粕屋町文化財調査指導委員会委員（阿恵遺跡調査指導委員会・粕屋町教育委員会），史跡鑄銭司跡調査検討委員会委員（山口市教育委員会）

2 講演・カルチャーセンターなど

「最初の都城・藤原京の実像」第166回奈良学文化講座，奈良県社会福祉センター，2019年5月18日

「大化改新と飛鳥宮・藤原宮」『飛鳥・藤原を掘る「遺跡・遺物からみた「日本」誕生』，朝日カルチャーセンター新宿，2019年9月12日

「飛鳥池遺跡出土の「天皇」木簡と富本銭」『飛鳥・藤原を掘る「遺跡・遺物からみた「日本」誕生』朝日カルチャーセンター新宿，2019年9月12日

「古代国家の形成と王宮・王都」斎宮歴史博物館公開講座『飛鳥の宮と斎の宮』，大阪歴史博物館，2019年11月23日

「北の境界領域からみた日本史」令和元年度『後三年合戦沼柵公開講座』横手市教育委員会，雄物川コミュニティセンター，2019年9月29日

「古代国家と列島世界」歴博フォーラム「新しい歴博の先史・古代総合展示について」国立歴史民俗博物館，2019年6月15日

「古代国家と列島世界」歴博講演会，国立歴史民俗博物館，2020年1月11日

「飛鳥の古墳探訪—古墳の終末—」歴博友の会講演会，国立歴史民俗博物館，2019年11月14日

「古代国家と列島世界」朝日カルチャーセンター千葉『先史・古代 日本の実像に迫る7講』国立歴史民俗博物館，2019年11月5日

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

「古代天皇陵と飛鳥の古墳」鎌倉市教育委員会，大磯学習センター，2019年7月31日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

日本列島は，多様な自然環境，歴史的條件に規制され，様々な地域文化を形成してきた。その地域文化形成の要因はどこにあるのか，また，その歴史的條件は何かということ明らかにすべく研究を実施した。本年は甲府盆地と富士川の舟運，木曾三川の舟運，出雲地域のたたら製鉄，伊豆半島西部の駿河湾沿岸地域の調査等を実施し，それぞれの地域のもつ多様性の把握につとめた。多様となる要因は，それぞれの地域によって様々であり，それが何であるのかを検討した。また，それらが，前近代から現代へと，どのように展開したのかという現代までを視野に入れた研究が必要であることを痛感した。

原山 浩介 HARAYAMA Kosuke 准教授（2011.4～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2011～），生年：1972

【学歴】横浜市立大学商学部経済学科（1997年卒業），京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻修士課程（1999年修了），京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻博士課程（2004年修了）

【職歴】龍谷大学非常勤講師（2002～2005），佛教大学通信教育部非常勤講師（2002～2011），佛教大学非常勤講師（2003～2005），近畿大学非常勤講師（2003～2005），国立歴史民俗博物館非常勤研究員（2004～2005），慶應義塾大学非常勤講師（2005～2006，2008～2010），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2005），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），敬愛大学非常勤講師（2007～），白梅学園大学非常勤講師（2008～2010），農業者大学校非常勤講師（2010），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2011～），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻

准教授併任（2011～）

【学位】博士（農学）（京都大学）（2004年取得）【専門分野】日本現代史【主な研究テーマ】日本における消費社会と消費者運動の成立・変遷過程，近現代の農村社会の変容に関する研究，日本とハワイ・北米との間の人の移動に関する歴史的研究【所属学会】同時代史学会，歴史学研究会，日本村落研究学会，地域農林経済学会，関東社会学会，日本移民学会

●主要業績

1. 【単著】『消費者の戦後史：闇市から主婦の時代へ』324頁，日本経済評論社，2011年6月
2. 【共編著】（共編著／朝日祥之・原山浩介）『アメリカ・ハワイ日系社会の歴史と言語文化』290頁，東京堂出版，2015年3月（執筆担当部分：「日本語」から出発する移民史」pp.5-15（朝日祥之と共著），「労働者向け新聞『ハワイスター』の時代：太平洋戦争後のハワイにおける思想状況の断面」pp.89-126）
3. 【共編著】（共編著／池上甲一・原山浩介）『食と農のいま』383頁，ナカニシヤ出版，2011年6月（執筆担当部分：「国民経済と農業」pp.185-204，コラム16「農地は誰が耕すのか」pp.285-288，「農業を支える土地と労働」pp.289-310，「おわりに」（池上甲一と共著）pp.360-365）
4. 【共編著】（共編著／安田常雄・大串潤児・高岡裕之・西野 肇・原山浩介）『シリーズ 戦後日本社会の歴史 社会を消費する人びと—大衆消費社会の編成と変容』225頁，岩波書店，2013年1月（執筆担当部分：「戦時から戦後へ」pp.1-11，「出発としての焼け跡・闇市」pp.14-39，「現在からの問い」pp.217-225）
5. 【論文】「消費者運動イメージの時代性：1970年前後の「きしみ」から考える」（『国民生活研究』51（4），pp.30-45，2012年3月）（査読有）

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「消費社会の歴史研究に向けた課題と展望」（『同時代史研究』12号，同時代史学会，2019年12月，pp.73-79（査読なし）

「震災をめぐる想像力の「収斂」に抗するために」（歴史学研究会編『歴史を未来につなぐ「3・11からの歴史学」の射程』，東京大学出版会，2019年5月，pp.141-147）（査読なし）

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

企画展示図録『ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち』国立歴史民俗博物館，2019年10月
データベース「日布時事フォト・アーカイブス」（スタンフォード大学フーヴァー研究所と共同）

5 学会・外部研究会発表

「体験のなかのトランスナショナル」日本移民学会第29回年次大会（於：天理大学），2019年6月29日
（コメント）「移民研究の立場から」日本村落研究学会第69回大会（於：茂庭荘），2019年11月10日

7 その他

「書評と紹介 湯澤規子著『胃袋の近代：食と人びとの日常史』（『大原社会問題研究所雑誌』735号，法政大学大原社会問題研究所，2020年1月，pp.79-82）

「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」（『総合誌「歴博」』第216号，国立歴史民俗博物館，2019年9月，pp.18-19）

「アーカイブズを訪ねる ハワイ州立公文書館から考える（歴史家とアーキビストの対話（第6回）」（『歴史学研究』987号，歴史学研究会，2019年9月，pp.45-49）

「『布哇新聞』第76号」（資料解説）（『日本歴史』857号，吉川弘文館，2019年10月，口絵）

「太平洋戦争後のハワイにおける民主化過程」（『歴史研究の最前線』Vol.22，総研大日本歴史研究専攻・国立歴史民俗博物館，2020年3月，pp.32-48）

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

機構基幹研究プロジェクト「北米における日本関連在外資料調査研究・活用—言語生活史研究に基づいた近現代の在外資料論の構築—」（歴博ランチ代表）（研究代表：国立国語研究所 朝日祥之）2016～2021年度

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究C「1970年代～80年代の消費者運動の再編成過程に関する実証的研究」研究代表者
 科学研究費基盤研究C「20世紀後半の日本における社会運動の記憶の構造把握および継承に向けた資料学的研究」(代表 相川陽一) 研究分担者

3 国際交流事業

国立歴史民俗博物館国際研究集会「ハワイ移民「もう一つの歴史」を考える」国立歴史民俗博物館, 2019年12月

4 主な展示・資料活動

総合展示第5室 展示プロジェクト委員

総合展示第6室 展示プロジェクト委員

2019年度企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」展示代表

5 教育

敬愛大学非常勤講師(2007～現在に至る), 白梅学園大学非常勤講師(2008～2010, 2013～現在に至る), 慶應義塾大学文学部非常勤講師(2017～現在に至る)

三 社会活動等

1 館外における各種委員

長崎市国指定史跡長崎原爆遺跡保存・整備委員会委員長代理, 長崎原爆遺跡調査検討委員会委員長代理, 滋賀県平和祈念館展示等監修委員, 日本村落研究学会『村落研究ジャーナル』編集委員(編集委員長), 同時代史学会理事(事務局長), 特定非営利活動法人市民環境研究所理事, 公益財団法人生協総合研究所 常設研究会 座長

2 講演・カルチャーセンターなど

日本歴史研究専攻大学院公開講演会「太平洋戦争後のハワイにおける民主化過程」2019年6月8日, 国立歴史民俗博物館

歴博講演会「ハワイから見直す近現代：移民・戦争・民主主義」2019年11月9日, 国立歴史民俗博物館

ハワイ州観光局 ハワイ歴史セミナー「ハワイ移民史をたどり直す」, 2019年11月18日, 国立歴史民俗博物館

JICA日系社会研修「博物館における資料と展示技術の有効活用およびネットワーク強化コース」, 2019年11月20日, 国立歴史民俗博物館

ハワイ州観光局 ハワイアン航空共催FAM 出発日研修「日本人移民とハワイ」, 2020年2月29日, ホテルマ イステイズプレミア成田

5 国際連携

③ その他

国立歴史民俗博物館国際研究集会「ハワイ移民「もう一つの歴史」を考える」2019年12月21日, 国立歴史民俗博物館

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

今年度は, 企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」の展示準備, ならびに開室後の対応が仕事の中心になった。本展示の準備を通じて, 国内ではUCC, ハワイ州観光局, JICS 海外移住資料館, ハワイ移民資料館(周防大島)など, 海外ではハワイ大学マノア校, ビショップミュージアム, スタンフォード大学フーヴァー研究所などと連携を図ることができた。ハワイをめぐる私自身の研究はあまり進まなかったものの, 今後の研究や博物館活動の展開において重要となるであろう関係構築ができたのは非常に重要な成果であった。

他方で, 今年度は私自身の研究の「原点回帰」を図るべく, 消費社会論に関わる研究に着手した。但し, これは展示準備の傍らでの進行になったため, 科学研究費による聞き取り調査等も含め, あまり大きくは進展しなかった。成果としては, 『同時代史研究』に依頼原稿を出す程度に終わっており, 他の出版計画等は進んでいないが, 今後とも進捗に向けて注力したい。

樋浦 郷子 HIURA Satoko 准教授(2016～)

【学歴】神戸大学大学院国際協力研究科博士前期課程(1998年修了), 京都大学大学院教育学研究科修士課程(2006

年修了), 京都大学大学院教育学研究科博士課程 (2011年修了)

【職歴】帝京大学専任講師 (総合基礎科目・教職課程) (~2016年3月), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2016~)

【学位】博士 (教育学・京都大学) (2011年取得) 【専門分野】教育史 【主な研究テーマ】朝鮮と台湾における日本植民地期の教育と宗教の関係に関わる歴史 【所属学会】教育史学会, 朝鮮史研究会, 歴史学研究会, 日本教育史研究会

●主要業績

1. 【著書】『신사·학교·식민지 지배를 위한 종교-교육
(神社・学校・植民地 支配のための宗教—教育)』高麗大学出版文化院 (韓国), 387頁, 2016年2月
2. 【著書】『神社・学校・植民地—逆機能する朝鮮支配—』京都大学学術出版会, 373頁, 2013年3月
3. 【論文】「학교의식에 나타난 식민지 교육: 현대일본의 “국가신도” 논쟁과 관련하여」
(学校儀式に見る植民地の教育: 現代日本の「国家神道」論争と関連して) 『翰林日本学』25号, 翰林大学 (韓国) 日本学研究所, pp.59-71, 2014年12月
4. 【論文】「植民地朝鮮の『御真影』: 初等教育機関の場合」『日本の教育史学』57号, 教育史学会, pp.84-96, 2014年10月
5. 【学会・外部研究会発表】
「台湾の天皇崇敬教育—新化の学校をめぐるモノ資料を手がかりに—」, “上學去—近代教育與臺灣社會”臺灣教育史國際學術研討會, 文化部・国立台湾歴史博物館, 2019年1月19日
「未完の朝鮮扶余神宮が果たした役割と意味」“The Role and the Meaning of Unfinished Buyeo Sin Gung (Fuyo Jingu) Imperial Shrine in the Wartime Korea” (英語・日本語による), History of education and language in late Chosôn and Colonial-era Korea Workshop, 九州大学, 2016年2月20日

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 2 論文
「台南市新化区の学校史からみる台湾の御真影」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』219, 国立歴史民俗博物館, 2020年3月 (査読有)
「從臺南市新化區的學校史觀察臺灣的 [御真影] Goshin'ei [Photos of Japan's Emperor and Empress] as Seen in the History of Schools in Tainan Xinhua」『歴史臺灣』17, 国立台湾歴史博物館, pp.33-58, 2019年5月, 台湾 (査読有)
- 5 学会・外部研究会発表
「帝国日本の『学校沿革誌』—学校の儀礼に着目して—」日本台湾学会第21回学術大会, 福岡大学, 2019年6月8日
「教育勅語の展示をめぐる」教育史学会第63回大会コロキウム, 静岡大学, 2019年9月29日
- 7 その他
書評: 金誠著『近代日本・朝鮮とスポーツ 支配と抵抗, そして協力へ』『歴史評論』833, 歴史科学協議会, pp.89-93, 2019年9月1日
「『教訓小学寿語六』を見る, 読む, あそぶ。」歴史系総合誌「歴博」216, 国立歴史民俗博物館, 2019年9月20日
「『教育勅語』の展示をめぐる」『造形と教育』14, 武蔵野美術大学, pp.10-11, 2020年1月
資料紹介 (翻刻) 「『高雄第一公学校 (旗津国民小学) 沿革誌—植民地期台湾の教育史—』『国立歴史民俗博物館研究報告』219, 国立歴史民俗博物館, 2020年3月 (査読有)

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
 - ① 歴博
基幹研究「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」(代表: 樋口雄彦) 副代表, 2018-2020年度
- 3 国際交流事業
国際企画室に関わる諸事業 (海外博物館からの研究者来館時の展示解説, 協定にかかる海外博物館との協議,

国際シンポジウム運営等)

Controversy on Okinawa in Making Exhibition Room of Modern and Contemporary History in National Museum of Japanese History, 大韓民国歴史博物館, *세계 역사박물관의 현대화 기점 논쟁* Museum in the midst of Controversy; What is “Contemporary”?, pp.149-159, 2019年4月25日, 大韓民国

「運動会」の展開に関する素描」『近代東亜体育世界與身体：近代東アジアの体育世界と身体』, National ChengKung University (国立成功大学), pp.29-30, 2019年8月6日, 台湾

4 主な展示・資料活動

第5展示室展示リニューアル委員

2019年度企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」展示プロジェクト委員

2020年度特集展示「東アジアを駆け抜けた^{からだ}身体—スポーツの近代」展示プロジェクト代表

5 教育

先生のための歴博活用講座

歴博・千葉大学留学生プロジェクト

山川出版社との共同教材開発プロジェクト

三 社会活動等

1 館外における各種委員

教育史学会書評委員 (2018年10月から現在)

日本教育史研究会世話人 (2013年4月から現在)

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

本プロジェクトでは、日本植民地における教育実態について、とくに「国民」の形成を意識して明らかにすることを目指した。以下の研究成果のなかにこのプロジェクトを活かすことができた。

樋浦郷子「『教育勅語』の展示をめぐる」, 武蔵野美術大学編『造形と教育』14号, 2020年1月。

樋浦郷子「台南市新化区の学校史からみる台湾の御真影」『国立歴史民俗博物館研究報告』212号, 2020年3月。

樋浦郷子「從臺南市新化區的學校史觀察臺灣的〔御真影〕Goshin'ei [Photos of Japan's Emperor and Empress] as Seen in the History of Schools in Tainan Xinhua」, 国立台湾歴史博物館編『歴史臺灣』17巻, 2019年5月

樋口 雄彦 HIGUCHI Takehiko 教授 (2011～)

併任：総研大日本歴史研究専攻教授 (2011～), 生年：1961

【学歴】静岡大学人文学部人文学科日本史学専攻 (1984年卒業)

【職歴】沼津市明治史料館学芸員 (1984), 同主任学芸員 (1997), 国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授 (2001), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2003), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2007), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2011), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2011)

【学位】博士 (文学) (大阪大学) (2007年取得) 【専門分野】日本近代史 【主な研究テーマ】明治期の社会・文化と旧幕臣の動向 【所属学会】明治維新史学会, 洋学史学会, 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会, 静岡県近代史研究会, 静岡県地域史研究会

●主要業績

1. 【著書】『旧幕臣の明治維新 沼津兵学校とその群像』吉川弘文館, 206頁, 2005年11月

2. 【著書】『沼津兵学校の研究』吉川弘文館, 661頁, 2007年10月

3. 【著書】『静岡学問所』静岡新聞社, 200頁, 2010年8月

4. 【編著】『海軍謀報員になった旧幕臣—海軍少将安原金次自伝—』芙蓉書房出版, 458頁, 2011年1月

5. 【著書】『敗者の日本史17 箱館戦争と榎本武揚』吉川弘文館, 288頁, 2012年11月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 1 著書
『幕末維新期の洋学と幕臣』404頁, 岩田書院, 2019年8月
- 2 論文
「遊撃隊に加わり戊辰戦争を戦った駿府脱士」『沼津市博物館紀要』44, pp.1-15, 沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館, 2020年3月
「沼津兵学校関係人物履歴集成 その九」『沼津市博物館紀要』44, pp.17-27, 沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館, 2020年3月
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
「コラム 旧幕府艦隊によるハワイ占領のまぼろし」2019年度企画展示展示図録『ハワイ—日本人移民の150年と憧れの島のなりたち』, pp.35-36, 国立歴史民俗博物館, 2019年10月29日
- 5 学会・外部研究会発表
基調講演「恭順派と抗戦派の交錯—江戸無血開城をめぐる旧幕臣—」東洋大学人間科学総合研究所・チーム岩下プロジェクト・シンポジウム「江戸無血開城」の史科学, 東洋大学白山キャンパス8号館7階125記念ホール, 2019年11月8日
- 7 その他
「明治を生きた旧幕臣とキリスト教—飯田栄次郎とその周辺—」『成田市史研究』44, pp.52-74, 成田市教育委員会, 2020年3月
「民権ネットワーク 旧幕臣」『自由民権』33, p.129, 町田市立自由民権資料館, 2020年3月

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
 - ① 歴博
基幹研究「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」(2018~2020年度) 研究代表者
- 2 外部資金による研究
科研費・基盤研究(C)「幕府瓦解後の旗本土着をめぐる研究」(2019~2021年度) 研究代表者
- 4 主な展示・資料活動
総合展示第5室・第6室リニューアル委員会代表

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員
静岡市文化財保護審議会委員
- 2 講演・カルチャーセンターなど
「箱館戦争と静岡藩」静岡大学岳陵会総会記念講演, クーポール, 2019年6月1日
「明治維新で元長窪に移住した旧幕臣たち」元長窪の明治維新150周年記念事業実行委員会・記念講演会, 静岡県駿東郡長泉町・元長窪公会堂, 2019年6月22日
「勝海舟と旧幕臣たちの明治」公益財団法人特別区協議会・首都大学東京オープンユニバーシティ主催特別講座, 東京区政会館・飯田橋キャンパス, 2019年9月30日
「菰山代官所の農兵学校」, 令和元年「秋の江川邸」特別講座, 公益財団法人江川文庫, 2019年11月24日
「大原幽学没後門人になった明治の旧幕臣」千葉県郷土史研究協議会・第47回研究大会記念講演, 千葉市民会館, 2019年12月15日
- 3 マスコミ
BS-TBS 歴史科学捜査班「解明! 五稜郭 土方歳三 命を懸けて箱館へ」2019年4月29日放送, 11月12日再放送
- 4 社会連携
 - ① 刊行物
「渡辺東洋と平尾賛平」『沼津市明治史料館通信』137, pp.2-3, 沼津市明治史料館, 2019年4月25日

「盲教育史に名前を残した五十川中」『沼津市明治史料館通信』138, pp.2-3, 沼津市明治史料館, 2019年7月25日

「第一回衆議院議員選挙の被選人資格「財産」作りと江原素六」『静岡県近代史研究会会報』491, pp.3-4, 静岡県近代史研究会, 2019年8月10日

「在学中に死亡した沼津兵学校資業生長野甚太郎」『沼津市明治史料館通信』139, pp.2-3, 沼津市明治史料館, 2019年10月25日

「博覧会・博物館と沼津兵学校の人脈」『沼津市明治史料館通信』140, pp.1-3, 沼津市明治史料館, 2020年1月25日

「沼津兵学校から学ぶべきもの」『沼津史談』第71号, pp.3-20, 沼津郷土史研究談話会, 2020年3月30日

③ 講演会・シンポジウム

「幕末維新のアラビア馬—小金牧から沼津兵学校へ—」白井市教育委員会・第19回白井市文化財講演会, 白井市文化会館, 2019年6月23日

「明治を生きた勝海舟」大田区教育委員会・オープン前カウントダウンイベント「勝海舟記念館を120%楽しむために!」大田区民プラザ, 2019年7月3日

「関口隆吉の明治維新」菊川市・菊川市教育委員会主催・菊川市制15周年記念事業 講演会&シンポジウム「歴口隆吉の明治維新と国づくり」基調講演, 菊川市中央公民館, 2019年11月16日

「勝海舟と龍馬をめぐる幕臣たち」「連続講演会・幕末キーパーソン—龍馬をめぐる人々」高知県立坂本龍馬記念館, 2019年12月14日

「佐倉藩士と沼津兵学校」佐倉市中央公民館, 2020年1月17日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

公益財団法人江川文庫（伊豆の国市）での資料調査を実施し、同文庫が所蔵する江川家文書や保管する柏木家文書の整理・目録作成をめざし、整理保存用封筒への収納作業を行った。他に関係する文献・資料の調査・収集にもつとめた。

日高 薫 HIDAKA Kaori 教授（2010～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2010～）

【学歴】東京大学文学部第二類（史学）美術史学専修課程（1985年卒業）、東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程（1987年修了）、東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士課程（1990年単位取得退学）

【職歴】杉野女子大学非常勤講師（1988）、東京大学文学部美術史研究室助手（1990）、共立女子大学国際文化学部日本文化研究研究助手（1992）、国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（1994）、同助教授（2002）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004）、文部科学省研究振興局学術調査官併任（2004～2006）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2010）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2010）、広報連携センター長併任（2011～2012）

【学位】博士（文学）（東京大学2008年）【専門分野】漆工芸史【主な研究テーマ】蒔絵を中心とする漆工芸史および日本の装飾芸術の特質に関する研究、交易品としての漆器をめぐる文化交流に関する研究【所属学会】美術史学会、漆工史学会

●主要業績

1. 【著書】『異国の表象—近世輸出漆器の創造力—』475頁, ブリュッケ, 2008年3月
2. 【概説書】編著『海を渡った日本漆器Ⅱ—18・19世紀—』（『日本の美術』427号, 98頁, 至文堂, 2001年12月）
3. 【論文】Maritime Trade in Asia and the Circulation of Lacquerware（「アジアの海と漆器流通」）, Rupert Faulkner, Shayne Rivers 編, East Asian Lacquer: Material Culture, Science and Conservation（東洋漆器—その文化史, 科学と保存修復）, pp.5-9, London, 2011年2月
4. 【論文】「蒔絵の「色」—絵画と工芸のはざままで」（玉蟲敏子編『講座 日本美術史5 <かざり>と<つくり>の領分』）

pp.165-197, 東大出版会, 2005年10月)

5. 【資料図録】編著『紀州徳川家伝来楽器コレクション』国立歴史民俗博物館資料図録3,414頁, 国立歴史民俗博物館, 2004年3月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

「資料解説 図版番号12, 14, 28, 29, 30, 31, 32, 36, 38, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 78」(展示ハンドブックドイツ語版) Bettina Zorn, Hidaka Kaori “Weltmuseum Wien Japan zur Meiji-Zeit – Die Sammlung Heinrich von Siebold” 2020年2月

「資料解説 図版番号12, 14, 28, 29, 30, 31, 32, 36, 38, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 78」(展示ハンドブック英語版) Bettina Zorn, Hidaka Kaori “Japan in the Meiji era : The collection Heinrich von Siebold” Weltmuseum Wien, 2020年2月

総合展示第3室「ものから見る近世」特集展示「和宮ゆかりの雛かざり」YouTube動画作成

データベースれきはく「シーボルト父子関係資料データベース」データ更新

展示場動画制作, ミュンヘン五大陸博物館・ウィーン世界博物館

5 学会・外部研究会発表

「開催趣旨」, 第36回人文機構シンポジウム「海外で日本を展示すること KIZUNA展からその意義を探る」東京大学, 2019年10月5日

7 その他

「ミュンヘン五大陸博物館におけるシーボルト展」『きざし 人間文化研究機構基幹研究プロジェクト・ニューズレター 4』人間文化研究機構, 2020年3月

「明治の調べ: ウィーン世界博物館所蔵ハインリッヒ・コレクションの楽器から」『ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 ニューズレター 4』国立歴史民俗博物館・在外プロジェクト総括班, 2020年3月

「シーボルト兄弟による日本コレクションの拡散とその役割」『国際シンポジウム予稿集 ハインリッヒ・フォン・シーボルトのコレクション—さらなる洞察』国立歴史民俗博物館, 2020年3月

「場を飾る意匠 蒔絵文様の魅力」, 『淡交別冊 76 茶席の蒔絵 漆と金のおりなす華』, 淡交社, pp.98-101, 2019年11月9日

「文様十二ヶ月 源氏絵」, 『孤峰』41-4, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2019年4月10日

「文様十二ヶ月 伊勢物語」, 『孤峰』41-5, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2019年5月10日

「文様十二ヶ月 鷺」, 『孤峰』41-6, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2019年6月10日

「文様十二ヶ月 中国故事」『孤峰』41-7, 『孤峰』, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2019年7月10日

「文様十二ヶ月 山水」, 『孤峰』41-8, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2019年8月10日

「文様十二ヶ月 東海道」, 『孤峰』41-9, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2019年9月10日

「文様十二ヶ月 六玉川」, 『孤峰』41-10, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2019年10月10日

「文様十二ヶ月 縞・格子」, 『孤峰』41-11, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2019年11月10日

「文様十二ヶ月 家屋」, 『孤峰』41-12, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2019年12月10日

「文様十二ヶ月 十二支」, 『孤峰』42-1, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2020年1月10日

「文様十二ヶ月 鬼」, 『孤峰』42-2, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2020年2月10日

「文様十二ヶ月 籠」, 『孤峰』42-3, 江戸千家蓮華庵, pp.6-9, 2020年3月10日

「日本人はなぜ、これほどに桜が好きなのか」を知る10のキーワード」, 『和楽』20-2, 小学館, pp.42-61, 2020年3月1日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

③ 機構

人間文化研究機構基幹研究プロジェクト 日本関連在外資料調査・活用事業

「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用—日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築—」(2016年度～) 研究代表者

- 2 外部資金による研究
科学研究費補助金・基盤研究 (B) (一般)「17～19世紀の在外日本コレクション形成に関する基礎的研究」
(2017～2020年度) 研究代表者
- 3 国際交流事業
フォンテヌブロー宮殿所蔵日本関係資料調査, フランス国立美術史研究所, 2019年11月29日～12月3日
- 4 主な展示・資料活動
国際連携展示「Collecting Japan. Philipp Franz von Siebolds Vision vom Fernen Osten」(邦題:「日本を集める—シーボルトが紹介した遠い東の国」), ミュンヘン五大陸博物館, 2019年10月11日～2020年9月13日, 展示代表
国際連携展示「Japan zur Meiji-Zeit. Die Sammlung Heinrich von Siebold」(邦題:「明治の日本—ハインリッヒ・フォン・シーボルトの収集品から」), ウィーン世界博物館, 2020年2月13日～8月11日, 展示代表
総合展示第3室「ものから見る近世」特集展示「和宮ゆかりの雛かざり」展示代表

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員
漆工史学会理事, 千葉市美術品等収集審査委員, 愛知県文化財保護審議会委員, 千葉県伝統工芸品産業振興協議会委員, 静岡県富士山世界遺産センター専門委員, 文化庁漆工品懇談会委員
- 3 マスコミ
「グローバル化する日本研究 (下) 海外調査, 展示も現地で」『日本経済新聞』2020年1月7日
- 5 国際連携
 - ② 国際交流基金
「特産品としての漆器の輸出」ブダペスト日本文化センター 講義「Az Edo-kor nyomában (江戸時代探求)」, アラニティーズ文化センター, ブダペスト (ハンガリー), 2020年2月13日
ブダペスト日本文化センター 専門家向け演習企画, ホップフェレンツ東洋美術館収蔵庫, ブダペスト (ハンガリー), 2020年2月14日

四 活動報告

- 3 研究・調査プロジェクト報告
国内外の工芸品のコレクションおよび工芸制作関連資料の調査をおこなった。
とくに、長崎および秋田においては、コレクションの資料調査に加えて制作者側の資料収集および聞き取り調査をおこなった。
長崎の鼈甲細工は、タイマイガメの保護による材料不足や、その技術を担う後継人材の問題が深刻であり、大手の鼈甲店が閉店に追い込まれることにより危機的状況にある。今年度は、江戸時代から明治時代に発展し、長崎工芸の伝承に重要な役割を果たした鼈甲店に伝来する資料を調査し、鼈甲および同店が手がけていた螺鈿細工に関わる下絵や工具、製品等の概要を把握した。さらにこれらの歴史資料の散逸を防ぎ、詳細な調査をおこなうため、長崎歴史文化博物館との協力関係について協議した。
秋田銀線細工は、近代になってから発展した新しい工芸技術であるが、技術の発祥の背景については不明な点が多く、誤った認識が通説として広まっている。産業としては細々と続いている状況であり、今後、その歴史的な展開の解明や資料保全が求められる。
- 4 その他
基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査・活用「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用—日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築—」の一環として、ドイツおよびオーストリアにおいて調査をおこなうとともに、ミュンヘンおよびウィーンにおける国際連携展示を開催した。
これに合わせて、ウィーン世界博物館とミュンヘン五大陸博物館で二つの国際シンポジウムの開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大により、遺憾ながら延期を余儀なくされた。
これらの事業は、在外の日本関係資料の現地活用 (展示や教育等) の実践を目的としている。また、プロジェクトのメンバーや海外研究機関の担当者との対話を重ねながら、調査のみならず展示やシンポジウムを共同開催することにより、在外日本資料の調査と活用における国際連携ネットワークの構築を目指すものである。新型コロナウイルス感染拡大により、海外における活動が制限される現在は、国際的な研究者間の連携がより一層求められており、今後は新たにリモート事業等を試みつつ研究を進展させたい。

福岡 万里子 FUKUOKA Mariko, 准教授 (2014.4～)

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授 (2014.10～)

【学歴】 東京大学教養学部 (2003年3月卒業) 東京大学大学院総合文化研究科 (修士) (2005年3月修了)
東京大学大学院総合文化研究科 (博士) (2011年2月修了) 【職歴】 日本学術振興会特別研究員DC2 (2007-09),
日本学術振興会特別研究員PD (2011-14), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准
教授 (2014-), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2014-)

【学位】 博士 (学術) (東京大学) (2011年取得) 【専門分野】 19世紀日本外交史, 東アジア国際関係史 【主な研究テーマ】
19世紀日本・東アジアをめぐる外交史・国際関係史, タウンゼント・ハリスの伝記的研究, 19世紀アジアで活動し
たドイツ・スイス系外交官及び商人に関する研究 【所属学会】 史学会, 日本国際政治学会, 明治維新史学会, 洋学
史学会, 日本ドイツ学会 【研究目的・研究状況】 近世近代転換期の日本・東アジアを取り巻く国際関係の変動過程
を, マルチアーカイヴァルな手法を基に, 東アジア比較・世界史の視点から考察していればと考えている。現在
ハリスの伝記をまとめるべく準備中。

●主要業績

1. 【単著】 福岡万里子 『プロイセン東アジア遠征と幕末外交』 448頁, 東京大学出版会, 2013年3月
2. 【論文】 福岡万里子 「幕末の日蘭関係と諸外国一仲介国としてのオランダ」 (松方冬子編 『日蘭関係史をよみ
とく—上巻 つなぐ人々』 臨川書店, pp.52-87, 2015年6月)
3. 【論文】 福岡万里子 「ドイツ公使から見た戊辰戦争—蝦夷地と内戦の行方をめぐるプラントの思惑」 (奈倉哲三・
保谷徹・箱石大編 『戊辰戦争の新視点 (上) 世界・政治』 吉川弘文館, pp.61-81, 2018年1月)
4. 【論文】 Mariko Fukuoka, "Prussia or North Germany? The Image of "Germany" during the Prusso-Japanese
Treaty Negotiations in 1860-1861." In : Sven Saaler, Kudō Akira, Tajima Nobuo (eds.), *Mutual Perceptions and
Images in Japanese German Relations, 1860-2010*, Brill's Japanese Studies Library Nr.59, Leiden : Brill, June
2017, pp.65-88
5. 【論文】 Mariko Fukuoka, "German Merchants in the Indian Ocean World : From Early Modern Paralysis
to Modern Animation." In : Angela Schottenhammer (ed.), *Early Global Interconnectivity across the Indian Ocean
World, vol.1 : Commercial Structures and Exchanges*, Palgrave Mcmillan, February 2019, pp.259-292

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
シーボルト父子関係資料データベースの更新 (ブランデンシュタイン・ツェッペリン家所蔵の文献資料デー
タベース)
- 5 学会・外部研究会発表
「初代米国駐日総領事ハリスのアジア諸港における外国人居留地人脈—珠江デルタ地帯・寧波・上海を中心
に—」 東洋史研究会大会, 京都大学, 2019年11月4日
「米使ハリスの1856年対シヤム条約交渉—日本開国史との相違と接点を探る」 歴博基盤研究「近世近代転換期
東アジア国際関係史の再検討—日本・中国・シヤムの相互比較から」 成果論集準備研究会, 大阪大学中之島セ
ンター, 2019年12月15日
「書評 松方冬子編『国書がむすぶ外交』 (東京大学出版会, 2019年)」 洋学史学会, 電気通信大学, 2019年5
月12日

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
 - ① 歴博
歴博基盤研究「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」 (研究代表者：樋口雄彦) 共同研究員
歴博基盤研究「番方旗本家に関する総合的研究—大番士・儒者杉原家文書を中心に—」 (研究代表者：三野
行徳) 副代表
 - ③ 機構

機構基幹研究プロジェクト「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用—日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築—」（研究代表者：日高薫）共同研究員

2 外部資金による研究

基盤研究（B）「明治日本の比較文明的考察—その遺産の再考—」（研究代表者 瀧井一博）2016～2019年度：研究分担者

基盤研究（B）「ドイツ日本関係史料による新しい明治日本理解の構築：外交と国家形成」（研究代表者 五百旗頭薫）2017年～2019年度：研究分担者

基盤研究（B）「17～19世紀の在外日本コレクション形成に関する基礎的研究」（研究代表者 日高薫）2017～2020年度：研究分担者

3 国際交流事業

ドイツ・ボフム大学との研究協力協定締結（2019年11月）の準備

4 主な展示・資料活動

総合展示第5室・第6室リニューアル委員

三 社会活動等

1 館外における各種委員

横浜開港資料館ブレンワルド・ダイアリー翻訳プロジェクト委員

東京大学史料編纂所日蘭交渉史研究会メンバー

2 講演・カルチャーセンターなど

「老中安藤信正の外交交渉—外圧と攘夷の狭間で」安藤信正公生誕200年記念シンポジウム，いわき市文化センター，2019年11月16日

3 マスコミ

読売新聞 夕刊 2020年2月25日「史書を訪ねて—ハリス日本滞在記 静岡・下田」中，ハリスの解説インタビュー記事「「正義」貫く性格 列強と対立」

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

令和元年度は研究課題にかかる研究文献の購入や文献複写，データ保存のためのPC関連消耗品の購入，及び関連する学会・研究会出席のための国内出張（近距離を含む）を行った。これに関連し，令和元年度は，歴博や京都大学で催された研究会・学会で研究課題にかかる研究報告を三度行った他，福島県で講演を一度，都内で書評報告を一度行った。

藤尾 慎一郎 FUJIO Shin'ichiro 教授（2008.11～）

併任：総合研究大学院大学日本歴史研究専攻教授（2009～） 生年：1959

【学歴】 広島大学文学部卒（1981），九州大学大学院修士課程修了（1983），九州大学大学院博士課程後期単位取得退学（1986）

【職歴】 九州大学文学部助手（1986），国立歴史民俗博物館考古研究部助手（1988），同助教授（1999），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2003），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2009）【役職】 研究推進センター長併任（2011～2012），副館長・研究総主幹併任（2013～2016）【学位】 博士（文学）（広島大学文学部2002）【専門分野】 日本考古学【主な研究テーマ】 弥生文化，鉄，農耕のはじまり，年代研究【所属学会】 日本考古学協会，考古学研究会，九州考古学会，たたら研究会【受賞歴】 なし

●主要業績

1. 【単著】『弥生文化像の新構築』275頁，東京：吉川弘文館，2013年5月
2. 【単著】『弥生時代の歴史』250頁，講談社現代新書2330，東京：講談社，2015年8月
3. 【編著】設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦『弥生文化誕生』弥生時代の考古学2，226頁，2009年1月
4. 【原著論文】「弥生文化の輪郭」（『開館30周年記念論文集1』国立歴史民俗博物館研究報告第178集，pp.85-

120, 2013年3月) (査読有)

5. 【編著】『弥生ってなに?!』2014年度歴博企画展示図録, 128頁, 2014年7月15日

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「再論・穀物農耕開始期の器種構成比率」設楽博己編『農耕文化複合—形成の考古学下』雄山閣, pp.55-70, 2019年10月25日

3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など

山田康弘・坂本稔・瀧上舞・藤尾慎一郎「韓国釜山市加徳島瘡項 (Jang Hang) 遺跡出土新石器時代人骨の年代学的調査について」『文物』9, 韓国文物研究院, pp.151-166, 2019年6月, 韓国

藤尾慎一郎・坂本稔「岡山県内出土土器の年代学的調査—弥生時代後期～古墳時代前期を中心に—」『岡山県古代吉備文化財センター紀要』, 岡山県古代吉備文化財センター, pp.63-73, 2020年3月

藤尾慎一郎・木下尚子・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一: 共著「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明—2018年度の調査—」『国立歴史民俗博物館研究報告』219, 国立歴史民俗博物館, pp.119-137, 2020年3月31日

藤尾慎一郎・坂本実・瀧上舞: 共著「大阪府東大阪市近代山が移籍第5次調査出土弥生中期人骨の年代学的調査…」『国立歴史民俗博物館研究報告』219, 国立歴史民俗博物館, pp.139-146, 2020年3月31日

藤尾慎一郎・坂本稔・瀧上舞: 共著「福岡県那珂川市安徳台遺跡出土弥生中期人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』219, 国立歴史民俗博物館, pp.189-198, 2020年3月31日

5 学会・外部研究会発表

「弥生人の考古学的プロフィール」第73回日本人類学会大会公開シンポジウム「弥生人とは誰か—考古学・人類学が明らかにする最新弥生人像」, 日本人類学会, 2019年10月14日, 佐賀

「日本列島における穀物農耕の開始」日本進化学会 第21回札幌大会「S04ゲノム情報に基づくヒトに帯同した野生動植物の自然史研究」, 2019年8月8日, 札幌

「日本海側の弥生時代・文化の特質」新学術領域「ヤポネシアゲノム」第2回公開講演会, ヤポネシアゲノム, 2019年9月15日, 福井

「歴博の研究活動と研究成果の可視化・高度化—先史・古代リニューアルを中心に—」2019年度コミュニケーション・マネジメント研究部会第1回研究会, 2019年12月7日, 歴博ガイダンスルーム

7 その他

「弥生時代に現代日本人のDNAは作られた!」『大論争日本人の起源』宝島社, pp.177-221, 2019年11月11日

「縄文・弥生 再構築に向けて」『本郷』吉川弘文館, pp.14-16, 2019年5月1日

「歴博は何を「新構築」したのか—ナウマンゾウやネコも展示に—」『原子力文化をめざして』一般財団法人日本原子力文化財, pp.102-111, 2019年10月31日

「テーマⅢ水田稲作のはじまり」歴史系総合誌「歴博」212, 国立歴史民俗博物館, pp.12-15, 2019年1月30日

「B01班 (考古班) 考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」歴史系総合誌「歴博」218, 国立歴史民俗博物館, pp.7-10, 2020年1月30日

藤尾慎一郎・松木武彦編『ここが変わる! 日本の考古学—先史・古代史研究の最前線—』193頁, 吉川弘文館, 2020年1月10日 (3刷)

『弥生時代って, どんな時代だったのか?』172頁, 朝倉書店, 『国立歴史民俗博物館研究叢書 1』2019年9月15日 (2刷)

『弥生時代の歴史』248頁, 講談社, 講談社現代新書, 2020年 (3刷)

国立歴史民俗博物館・藤尾慎一郎編『再考! 縄文と弥生』吉川弘文館, 2020年 (査読有) (2刷)

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

③ 機構

ネットワーク型基幹研究プロジェクト 地域研究推進事業 北東アジア地域研究 (国立民族学博物館拠点)

2 外部資金による研究

・日本学術振興会平成30年度科学研究費補助金新学術領域「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」研究代表者, 2018~2022年度

- ・日本学術振興会科学研究費基盤研究S「年輪酸素同位体比を用いた日本列島における先史暦年代体系の再構築と気候変動影響調査」研究分担者, (研究代表者 中塚武) 2017~2021年度

3 国際交流事業

国立ソウル大学校考古美術史学科・博物館学術交流協定の締結 研究代表者 (先方, 金壯錫学科長)
国立釜山大学校博物館学術交流 (研究代表者 藤尾慎一郎)
講義「弥生研究と歴博総合展示—第1室リニューアル」11月19日, 釜山大学校考古学科

4 主な展示・資料活動

- ・総合展示第1室「先史・古代」解説ビデオ「環壕集落」「弥生のまつり」

三 社会活動等

1 館外における各種委員

考古学研究会全国委員, たたら研究会関東委員, 日本学術会議連携会員 (史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会)

2 講演・カルチャーセンターなど

「水田稲作の始まり」朝日カルチャー, 歴博第1展示室, 7月20日
弥生時代の歴史全6回, NHK横浜, 2019年10月~2020年3月
古田武彦記念古代史セミナー「二つの弥生時代—イネと石の時代からイネと鉄の時代へ」2019年11月10日, 大学セミナーハウス, 八王子

3 マスコミ

「はじまりの1冊『縄文論争』2002年」読売新聞 全国版12版, p.13, 2019年8月18日
連載「そこが聞きたい—歴博展示リニューアル」毎日新聞 朝刊, 2019年6月18日
連載「北陸歴史よもやま話—弥生の暮らし 気候が翻弄」読売新聞 北陸版, 2019年5月22日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告「日本・朝鮮半島における高精度年代体系の構築」

9月に慶北完山洞古墳群出土人骨(5世紀)のサンプリングを行い, DNAはミトコンドリアの簡易分析まで終了。年代は現在測定中である。年代測定の経費は, 新学術領域より支出した。
首長の死に伴って殉葬したと考えられている人びとの墓であることから, 殉葬した人びとが首長とどのような関係にあったのか, 科学的に初めて明らかにできる調査事例である。

4 その他

6月に発表した韓国釜山市算項(ジャンハン)遺跡出土新石器時代人骨の調査は, 年代測定の他に国立科学博物館のチームによるDNA調査も行われ, その成果は縄文時代併行期における列島と韓半島に生きた人びとの関係を知る上で重要な成果をもたらした。これまで現代日本人の起源については, 縄文人が暮らしていたところに, 水田稲作の伝播とともに韓半島から人びとが移住してきて, 混血したことによって形成されたという埴原和郎が提唱した二重構造論で語られてきた。縄文人のDNAについては東日本の貝塚遺跡から出土する人骨から得られたDNAによって全ゲノムが解析されていたが, 水田稲作とともに移住してきた韓半島の青銅器時代人のDNAについては調査例がなくわかっていなかった。そこで, 6300年前の縄文前期に併行する時期のDNAではあるが, 何らかの示唆を得られるのではないかと目的でジャンハン遺跡出土人骨2体のDNA分析を行ったのである。その結果, 2体はいずれも縄文人とはまったく異なるハプログループに属することはいうまでもないが, 現代日本人や渡来系弥生人の人びとにきわめて近いことがわかったのである。この事実は新石器時代人が現代韓国人よりも現代日本人や渡来系弥生人に近かったことを意味する。これはすなわち, 6300年前の韓半島や日本列島, 及び東アジアの沿岸部にはDNA的にきわめて近い人びとが暮らしていたが, その後, 大陸の人びとの混血頻度が日本列島の人びとに比べて高かった韓半島の人びとが, 次第に大陸のDNAに近づいていき, 現代韓国人が出来上がったことを意味していた。逆の言い方をすると, 縄文時代の前期段階には韓半島南部と現代日本人とはDNA的にきわめて近かったことになる。当時, 韓半島南部と九州北部との間には, 佐賀県腰岳の黒曜石をめぐる交流が行われており, 人びとの行き来も多かったと考えられているだけに, そうした交流がDNAの近さをもたらした可能性もある。なおこれらの調査は, 異分野連携・機構連携研究「日本列島人の進化に関する考古学的・遺伝学的・言語学的研究」(代表 国立遺伝学研究所 斎藤成也教授)や新学術領域「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」(代表 藤尾)および研究・調査プロジェクト「日本・朝鮮半島における高精度年代体系の構築」経費で行っており, 今後3年間, 継続する予定である。

松尾 恒一 MATSUO Koichi 教授 (2010～)

併任：総研大日本歴史研究専攻教授 (2010～)，生年：1963年

【学歴】國學院大學文学部日本文学科 (1985年卒業)，國學院大學大学院文学研究科博士前期課程 (1987年修了)，國學院大學大学院文学研究科博士後期課程 (1995年修了)

【職歴】國學院大學文学部専任講師 (1996)，大倉山精神文化研究所非常勤研究員 (1997)，國學院大學文学部助教授 (1999)，同大學日本文化研究所兼助教授 (1999)，国立歴史民俗博物館民俗研究部助教授 (2002)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2004)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2007)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2010)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2010)

【学位】文学博士 (國學院大學) 【専門分野】民俗宗教，儀礼・芸能史 【主な研究テーマ】民俗宗教・民間信仰，権門儀礼・芸能，寺院に奉仕する職能者の研究，東アジアにおける宗教・信仰の交流と民俗 【所属学会】日本民俗学会，民俗芸能学会，芸能史研究会，儀礼文化学会，説話・伝承学会 【研究目的・研究状況】中国大陸・台湾・アメリカ等，海外の民俗・歴史学研究者・研究機関とも交流を推進しつつ，フィールドワークと歴史資料を中心とする調査，研究を進めている。

●主要業績

1. 【著書】『日本の民俗宗教』288頁，筑摩書房，2019年11月
2. 【著書】『物部の民俗といざなぎ流』250頁，吉川弘文館，2011年6月
3. 【著書】『儀礼から芸能へ 狂騒・憑依・道化』237頁，角川学芸出版，2011年9月
4. 【著書】『延年の芸能史的研究』(学位論文)，612頁，岩田書院，1997年2月
5. 【編著】『東アジア世界の民俗 変容する社会・生活・文化』(『アジア遊学』215, 272頁，勉誠出版)，2017年10月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 1 著書

ちくま新書『日本の民俗宗教』283頁，筑摩書房，2019年11月10日 (査読有)
- 2 論文

王琛發と共著「戦前・戦中の，日本のマレー半島進出と日本仏教—半島の日本人の生活と真如親王の事跡」(儀礼文化学会編『儀礼文化学会紀要』第7・8号 (通巻第49号)，2020年3月，pp.163-178)・査読アリ

単著「祈る神と鎮める神—東アジアの宗教と民俗神—」(名古屋大学編『HERITEX』Vol. 3，2020年3月，pp.52-71, 455)・査読ナシ

単著 (梁青中国語訳)「日本民俗中的の佛教儀礼与芸能」(中国『長江大学学报 (社会科学版)』pp17-24)，Vol. 43, No. 1, 2020年1月・査読アリ
- 5 学会・外部研究会発表

「日本 大乘仏教の伝来・変容・定着：東南アジア上座部仏教との比較の可能性」，科研「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究—政治と権力の視点を中心として」(松尾代表) 研究集会，7月14日，京都大学

「護国仏教の祈りの声と響き—古代から中世へ—」，荒見泰史教授代表科研「9, 10世紀敦煌仏教，道教，民間信仰融合資料の総合的研究」国際研究集会“伝えられた声とその廻響き—傳越的聲音及其廻響き—”，7月20日，広島大学中央図書館ライブラリーホール
- 6 総研大リーフレット

原山浩介・秋山かおり・松尾恒一編『ハワイの日系人と太平洋戦争—追放・排除と包摂—』(『歴史研究の最前線』vol.22, 国立歴史民俗博物館，2020年3月)
- 7 その他

王琛發・松尾 恒一「戦前・戦中の，マレー半島進出と日本仏教—ゆがめられた真如親王の事跡」『歴博』第216号 (特集 松尾恒一編「異郷でくらす日本人」)，pp.1-5, 国立歴史民俗博物館，2019年9月20日

二 主な研究教育活動

2 外部資金による研究

科研基盤C「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究—政治と権力の視点を中心として」(研究代表者, 2019～2021年度)

科研基盤B「9, 10世紀敦煌仏教, 道教, 民間信仰融合資料の総合的研究」(広島大学 荒見泰史教授代表) 研究分担者, 2016～2020年度

科研「唱導文献に基づく法会の総合的研究」(研究代表者: 筑波大学・近本謙介准教授) 研究分担者, 2016～2019年度

中国中山大学国家社会科学基金項目「海外藏珍稀中国民俗文物与文献整理研究暨数据库建设(在外中国民俗関係資料の整理・研究とデータベースの構築)」(研究代表者: 中国中山大学 王霄冰教授) 研究分担者, 2016～2021年度

5 教育

千葉大学大学院客員教授(人工物デザイン史論)

國學院大學非常勤講師(伝承文学演習)・國學院大學大学院非常勤講師(伝統芸能特論)

上智大学非常勤講師(多様性の日本文化)

法政大学沖縄文化研究所研究員

三 社会活動等

1 館外における各種委員

儀礼文化学会専門委員, 國學院大學國文學會役員, 国立劇場民俗芸能・琉球舞踊公演専門委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「木綿—江戸時代の繊維革命—」第243回くらしの植物園観察会, 国立歴史民俗博物館, 2019年6月22日

「稲作, 狩猟の祈願・祈禱としての神楽」九州の神楽シンポジウム2020「神楽と豊穰祈願」, メディキット県民文化センター演劇ホール, 宮崎県, 2020年1月18日

「中近世における中国・ヨーロッパとの交易—日本を仏教国にしたヨーロッパのキリスト教—」くびき野カレッジ天地びと, NPO法人頸城野郷土資料室, 町家交流館高田小町(新潟), 2019年5月25日

「大嘗祭: 民俗文化としての天皇の代替わり儀礼」くびき野カレッジ天地びと, NPO法人頸城野郷土資料室, 上越市春日謙信交流館, 2019年10月5日

「大嘗祭—食・衣・住 祈願の皇室祭祀と伝承—」歴博友の会, 国立歴史民俗博物館, 2019年11月1日

四 活動報告

1 受賞歴

中華媽祖文化交流協会主催, 第三屆全球媽祖文化征文大賽二等獎, 松尾恒一「清代海商的航海与媽祖文化信仰的历史与传承」受賞(日本語: 中華媽祖文化交流協会主催, 第三回 媽祖文化論文国際コンテスト, 優秀論文二等賞受賞, 松尾恒一単著『清代海商の航海と媽祖信仰, 歴史と伝承』受賞, 2019年4月9日)

3 研究・調査プロジェクト報告

興福寺等, 隋唐代に建立された奈良の寺院の儀礼調査, タイの寺院の儀礼調査を実施し, 記録を行った。

本調査, 及びこれまでの調査に基づき, 調査研究の成果として, 単著『日本の民俗宗教』(筑摩書房)を刊行し, 論文「戦前・戦中の, 日本のマレー半島進出と日本仏教—半島の日本人の生活と真如親王の事跡」(儀礼文化学会編『儀礼文化紀要』), 「祈る神と鎮める神—東アジアの宗教と民俗神—」(名古屋大学大学院『Heritex』)(いずれも単著)を発表した。

松木 武彦 MATSUGI Takehiko 教授(2014～)

生年: 1961

【学歴】大阪大学文学部(国史学)(1984年卒業), 大阪大学大学院文学研究科修士課程修了(1987), 大阪大学大学院文学研究科博士課程(考古学)(1990年単位取得退学)【職歴】岡山大学助手(1990～), 岡山大学准教授(助教授)(1995～)岡山大学教授(2011～)大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授(2014～)【学

位】博士（文学）（大阪大学2005年3月）【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】日本列島の古墳研究，戦争の考古学的研究，考古学による国家形成論，進化・認知科学を用いた考古学理論の再構築，ブリテン島を中心とするヨーロッパと日本列島の先史時代に関する比較考古学的研究【所属学会】日本考古学協会，考古学研究会【研究目的・研究状況】日本列島の先史時代を，国家形成理論，進化・認知科学，比較考古学，人口および古気候の復元などをもとに，人類史の中に位置づける試みを進めている。

●主要業績

1. 【著書】『日本列島の戦争と初期国家形成』363頁，東京大学出版会，2007年1月
2. 【著書】『列島創世記』全集日本の歴史1—旧石器・縄文・弥生—，366頁，小学館，2007年11月
3. 【著書】『進化考古学の大冒険』255頁，新潮社，2009年12月
4. 【著書】『美の考古学』220頁，新潮社，2016年1月
5. 【著書】『縄文とケルト』247頁，筑摩書房，2017年5月10日

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

『考古学から学ぶ古墳入門』119頁，講談社，2019年6月（単著）

『日本の古墳はなぜ巨大なのか：古代モニュメントの比較考古学』265頁，吉川弘文館，2020年3月（編著）

『前方後円墳—巨大古墳はなぜ造られたか—』317頁，岩波書店，2019年5月（共著）

5 学会・外部研究会発表

「弥生時代から古墳時代へ—認知プロセスとグローバル史の視点から」（考古学研究会東京例会，2019年6月29日，國學院大學，招待講演）

「日本列島の古墳出現期における地域間ネットワーク」（国際学術大会「伽耶が作り上げた古代東アジアネットワーク」，2019年8月29日，国立中央博物館，招待講演）

「日本列島の社会複合化と戦争・アート・モニュメント」（「出ユーラシアの統合的人類史学」第2回全体会議，2020年1月11日，南山大学）

「『型式学』の脱構造化—古墳時代の鏃を対象とした提言—」（南山大学人類学研究所「形の理」第2回シンポジウム「人工物の三次元計測と幾何学的形態測定の理論と実践」，2020年1月25日，九州大学，招待講演）

Warfare, art, and monument in the process of social development on the Japanese Archipelago（「出ユーラシアの統合的人類史学」第3回全体会議，2020年2月27日，テオティワカン）メキシコ

How and Why Kofun (Tumulus) became so large in Japan? (Foro de Arqueologica Cognitiva; Momentos, Arte, y Cuerpo Humano, afuera de Eurasia. Monumentos y tumbas como lugar de memoria social), 2020年2月29日，メキシコシティ

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化の形成」研究代表者，2019年度～

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究C「古墳時代鉄鏃の変化と地域性に関する数理的解析」研究代表者，2017～2019年度

新学術領域研究「集団の複合化と戦争」研究代表者，2019年度～2023年度

5 教育

駒澤大学非常勤講師

三 社会活動等

1 館外における各種委員

和歌山県文化財審議委員

和歌山県立紀伊風土記の丘協議会委員

2 講演・カルチャーセンターなど

中日文化センター、朝日カルチャーセンター（千葉・横浜・芦屋）講師

3 マスコミ

新聞連載「半歩遅れの読書術」（日本経済新聞 2019年10月5・12・19・26日）

新聞連載「全国おすすめ古墳巡り」（しんぶん赤旗 2019年11月に4回）

テレビ出演「奇跡の巨石文明！ストーンヘンジ七不思議」NHK-BS, 2019年5月25日

テレビ出演「秘密のトレジャー映像ギャラリー 神秘の世界遺産 仁徳天皇陵」BS-TBS 2019年6月14日

テレビ出演「世界ふしぎ発見！ピラミッドも顔負け!? 驚異のニッポン古墳」TBSテレビ, 2019年11月9日

テレビ出演「あなたも絶対行きたくなる！ミステリアス古墳スペシャル」NHK総合, 2020年3月24日

ラジオ出演「荻上チキ・Session-22」TBSラジオ, 2019年5月17日

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

「吉備から見た古墳出現期の出雲と大和」(古代出雲文化シンポジウム「出雲と大和—ヤマト王権成立前夜—」, 有楽町朝日ホール, 2019年8月31日)

「五世紀のユーラシアにおける倭王権の特質」(中国文化センター 秋の国際シンポジウム, 有楽町朝日ホール, 2019年10月20日)

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

日本列島の先史社会を人類史的に位置づけるために、日本列島の古墳を含めた先史モニュメントおよびそれと関連する国内外の考古学的事象について、データ収集と踏査を行い、最新の国際的歴史理論を用いて分析・考察を行う。その成果を、国内外の学会で報告し、論著を刊行する。

松田 睦彦 MATSUDA Mutsuhiko 准教授（2014.4～）

生年：1977

【学歴】早稲田大学第一文学部文学科日本文学専修（1999年卒業）、成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程前期（2002年修了）、成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程後期（2007年修了）【職歴】成城大学民俗学研究所研究員（2007）、成城大学非常勤講師（2008）、荒川区教育委員会事務局社会教育課文学館調査担当学芸員（2008）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2009）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2014）、ソウル大学校社会科学研究院比較文化研究所客員研究員（2016～2017）、韓国国立民俗博物館客員研究者（2017）、神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員（2019）【学位】博士（文学）（成城大学）（2007年取得）【専門分野】民俗学【主な研究テーマ】生業の技術および生業をとりまく信仰・儀礼・社会組織等の生活文化に関する総合的研究【所属学会】日本民俗学会・日本民具学会・日本文化人類学会【研究目的・研究状況】さまざまな生業の技術や、信仰・儀礼をはじめとする生業にともなう生活文化について総合的視点から明らかにする。また、生業にともなう人の移動に注目し、定住を前提とする従来の民俗学的研究に対し、移動の日常性を前提とする研究を提唱している。現在はとくに日本と韓国との海をめぐる生活文化の比較研究も行っている。

●主要業績

1. 【単著】『人の移動の民俗学—タビ〈旅〉から見る生業と故郷』311頁、慶友社、2010年
2. 【編著】『人の移動とその動態に関する民俗学的研究』（『国立歴史民俗博物館研究報告』第199集）、261頁、2015年
3. 【共編著】『柳田國男と考古学—なぜ柳田は考古資料を収集したのか』158頁、新泉社、2016年
4. 【編著】『徳川林政史研究所所蔵「駿州・豆州・相州 御石場絵図」の研究』（2014～2016年度 科学研究費補助金若手研究（B）（課題番号2670299）「安山岩に関する歴史・民俗学的研究」成果報告書）、175頁、2017年
5. 【映像】民俗研究映像『石を切る—花崗岩採掘の伝統と革新』DVD、200分、国立歴史民俗博物館、2012年度

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「Anthropology and Folklore in Japan III Occupational and Environmental Folklore」, 「Japanese Review of Cultural Anthropology」19-2, pp.35-62, 2019年9月

「韓国の統合データベースの普及と博物館協力網 上」 「民具マンスリー」52-10, 神奈川大学日本常民文化研究所, pp.1-8, 2020年1月

「韓国の統合データベースの普及と博物館協力網 下」 「民具マンスリー」52-11, 神奈川大学日本常民文化研究所, pp.11-20, 2020年3月

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

展示図録『国際企画展示 昆布とミヨクー潮香るくらしの日韓比較文化誌』国立歴史民俗博物館・韓国国立民俗博物館, 2020年3月

5 学会・外部研究会発表

「『조선과 일본 양국의 통어규칙』 이전의 월경 어업: 일본어민의 조선근해에서의 고기잡이 계보」 「日本朝鮮兩國通漁規則」以前の越境漁業—日本漁民の朝鮮近海での漁の系譜」 국제학술대회 근현대 동아시아 어민문화와 그 전개 International Conference: Fishery Culture in Modern East Asia, 韓国国立民俗博物館, 2019年11月29・30日

「日韓共同展示の意義」中国海洋大学「日韓海洋民俗文化」系列講座, 中国海洋大学, 2019年6月1日

7 その他

「国際企画展示「昆布とミヨクー潮香るくらしの日韓比較文化誌」 「友の会ニュース」207, 国立歴史民俗博物館, pp.1-2, 2020年2月5日

松田 陸彦・オ・チャンヒョン: 共著「歴史への招待状「昆布とミヨクー潮香るくらしの日韓比較文化誌」, 歴史系総合誌『歴博』218, 国立歴史民俗博物館, pp.18-19, 2020年1月30日

「한일 미래를 위한 비교 연구와 전시」, 『민속소식』249, 韓国国立民俗博物館, pp.16-19, 2020年3月

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築(西谷 大)(2016~2021年度)

日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築(主導機関: 国立歴史民俗博物館, 国立国語研究所) 地域における歴史文化研究拠点の構築(小池 淳一)(2016~2021年度)

在外日本資料調査・活用による日本研究と日本文化理解の促進(主導機関: 国際日本文化研究センター)

ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用—日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築—(日高 薫)(2016~2021年度)

② 他の機関

旅の文化研究所特定研究「軽便鉄道の記憶」(研究代表者: 神崎宣武 [旅の文化研究所]) 共同研究員, 2016年~

神奈川大学日本常民文化研究所基盤共同研究「海城・海村の景観史に関する総合的研究」(研究代表者: 安室知 [神奈川大学]) 共同研究員, 2019年~

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究B「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワシをめぐる韓国の民俗変化」(研究代表者: 松田陸彦), 2017~2020年度

科学研究費基盤研究B「民俗展示の多言語化のための基礎的研究—東アジアの水産資源を素材として—」(研究代表者: 島立理子 [千葉県立中央博物館]) 連携研究者, 2016~2019年度

科学研究費基盤研究A「琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家」(研究代表者: 村木二郎 [国立歴史民俗博物館]), 研究分担者, 2018~2021年度

科学研究費基盤研究A「西遷・北遷東国武士の社会的権力化」(研究代表者: 田中大喜 [国立歴史民俗博物館]), 研究分担者, 2019~2022年度

科学研究費基盤研究C「ポスト専門化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から」(研究代表者: 石本敏也 [聖徳大学]), 研究分担者, 2019~2021年度

3 国際交流事業

国際交流事業「日韓地域研究の実践的展開」(事業主体者: 松田陸彦) 相手機関: 韓国国立民俗博物館, 2015

～2019年度

4 主な展示・資料活動

- 2019年度企画展示「昆布とミヨクー潮香るくらしの日韓比較文化誌」展示プロジェクト代表
 2019年度企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」展示プロジェクト委員
 2020年度特集展示「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世」展示プロジェクト委員
 2021年度企画展示「中世武士団展（仮称）」展示プロジェクト委員

三 社会活動等

1 館外における各種委員

【学会】一般社団法人日本民俗学会 理事, 【市史】木更津市史編集部会 委員, 【市史】府中市史編さん専門部会 委員【委員】熱海市教育委員会史跡江戸城石垣石丁場跡調査・整備委員会 委員, 伊東市江戸城石垣石丁場跡保存活用委員会 委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「港としての角井と飯田」, 第112回歴史博フォーラム「中世益田の世界」, 鳥根県立石見美術館, 2019年11月2日

3 マスコミ

「北陸歴史もよま話 エイとは違うエイ」『読売新聞石川富山版』朝刊, 2020年3月14日

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

「『愛媛県越智郡魚島村韓国出漁之状況』から考える日本と韓国」上島町教育委員会, せとうち交流館（愛媛県）, 2020年1月11日

四 活動報告

1 受賞歴

大韓民国文化体育観光部長官表彰, 2019年12月31日

3 研究・調査プロジェクト報告

日本国内および韓国での調査を行うとともに, その成果として国際企画展示「昆布とミヨクー潮香るくらしの日韓比較文化誌」(2019年10月2日～2020年2月2日)をソウルの韓国国立民俗博物館で開催した。なお, 3月17日～5月17日の会期で予定していた歴史博での開催は, 新型コロナウイルス感染拡大の影響により, 中止された。

三上 喜孝 MIKAMI Yoshitaka 教授 (2017.11～)

生年：1969

【学歴】東京大学文学部国史学専修課程卒業(1992年), 東京大学大学院人文科学研究科日本史学修士課程修了(1994), 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻課程(1998年単位取得退学)【職歴】山形県立米沢女子短期大学講師(2000.4～), 山形大学人文学部助教授(2002.9～), 同准教授(2007.4～), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授(2014), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授(2017.11)【学位】博士(文学)(東京大学文学部2001)【専門分野】日本古代史【主な研究テーマ】東アジア文字文化交流史, 古代地域社会史, 貨幣史【所属学会】木簡学会, 史学会, 日本史研究会, 正倉院文書研究会, 東北史学会, 韓国木簡学会ほか

●主要業績

1. 【単著】『日本古代の貨幣と社会』261頁, 吉川弘文館, 2005年7月
2. 【単著】『日本古代の文字と地方社会』335頁, 吉川弘文館, 2013年8月
3. 【単著】『落書きに歴史をよむ』232頁, 吉川弘文館, 2014年4月
4. 【論文】「古代の辺要国と四天王法」(『山形大学歴史・地理・人類学論集』5, pp.115-126, 2004年3月)
5. 【論文】「韓国出土木簡と日本古代木簡―比較研究の可能性をめぐる―」(『韓国古代木簡の世界』pp.286-307, 雄山閣, 2007年3月)

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「東アジア古文書の中の画指」小島道裕・田中大喜・荒木和憲：編／国立歴史民俗博物館：監修『古文書の様式と国際比較』勉誠出版，pp.205-220，2020年2月28日（査読有）

「古代史はLGBTを語るか」『日本歴史』860，日本歴史学会，pp.13-21，2020年1月1日（査読有）

横山百合子・三上喜孝「歴史叙述としての博物館展示とジェンダー」『歴史学研究』989，歴史学研究会，pp.216-222，2019年1月（査読有）

「慶州・雁鳴池木簡の薬物名木簡再論 —古代東アジアの医薬文化—」『国立歴史民俗博物館研究報告』218，国立歴史民俗博物館，pp.299-307，2019年12月27日（査読有）

「日本出土の古代文字資料—秋田県秋田城跡111次調査出土具注層記載漆紙文書—」『木簡と文字』22，韓国木簡学会，pp.361-371，2019年6月（査読有），韓国

「博物館展示をジェンダーの視点から見つめ直す試み —大学における「課題解決型学習」の実践例として—」『国立歴史民俗博物館研究報告』219，国立歴史民俗博物館，2020年3月（査読有）

5 学会・外部研究会発表

横山百合子・三上喜孝「歴史叙述としての博物館展示とジェンダー」歴史学研究会2019年度大会，立教大学，2019年5月26日

「『観世音応驗記』の周辺—日本古代における観音信仰の受容をめぐる—」仙台古代史談話会，東北大学，2019年8月3日

7 その他

「書評・李成市著『闘争の場としての古代史—東アジア史のゆくえ—』」『史学雑誌』128-7，公益財団法人史学会，pp.30-37，2019年7月（査読有）

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」（研究代表者：藤原重雄）研究副代表者，2017～2019年度

③ 機構

「総合資料学の創成と日本歴史に関する研究資源の共同利用基盤構築」（研究代表者：西谷 大）2016～2021年度

「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」（研究代表者：小倉慈司）2016～2021年度

「地域における歴史文化研究拠点の構築」（研究代表者：小池淳一）2016～2021年度

「北東アジア地域研究 自然環境と文化・文明の構造」（研究代表者：池谷和信）2016～2021年度

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究 (B)「古代日本と朝鮮の金石文にみる東アジア文字文化の地域的展開」研究代表者，2019～2022年度

科学研究費基盤研究 (C)「古代の宮中宗教行事に関する日中韓比較研究」（研究代表者：堀裕）研究分担者，2018～2021年度

科学研究費基盤研究 (B)「官衙機構の動態からみた古代日本における境域の特質」（研究代表者：林部均）研究分担者，2018～2020年度

3 国際交流事業

学術交流セミナー「日韓の前近代日記史料に関する学術交流セミナー」（2020年1月16日開催，韓国・国立慶北大学校嶺南文化研究院，慶北大学校史学科BKプラス事業団から24名参加。於歴博）

三 社会活動等

1 館外における各種委員

原町市史編さん専門研究委員（福島県南相馬市）

福島県立博物館収集展示委員会委員（福島県）

白河舟田・本沼遺跡群及び白河官衙遺跡群保存管理計画策定委員会委員（福島県白河市）

山形文化遺産活用事業実行委員会委員（山形大学附属博物館）

国史跡上人壇廃寺跡整備委員会委員（福島県須賀川市）

泉官衙遺跡保存整備指導委員会委員（福島県南相馬市）

秋田城跡環境整備指導委員会委員（秋田県秋田市）

2 講演・カルチャーセンターなど

「出羽国と古代仏教 ～列島周縁に広がる古代仏教を考える～」2019年度前期企画展「秋田城と古代仏教」講演会，秋田市立秋田城歴史資料館，2019年7月13日

「『聆涛閣集古帖』が拓く世界」共同研究成果報告会「住吉の豪商・吉田家のお宝，まぼろしの聆涛閣コレクション」白鶴酒造本社（神戸市），2019年12月1日

四 活動報告

2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

第四期将来計画検討会議メンバー

3 研究・調査プロジェクト報告

日韓の古代中世仏教文化の様相をさぐる論点の1つとして，昨年度に引き続き，高麗時代の仏教文化に関する金石文の調査や，仏像胎内文書などの調査・検討をおこなった。今年度はとくに仏教信仰に関わる男女（ジェンダー）の問題を，文字資料から読み解く試みをした。研究成果については，現在準備中である。

村木 二郎 MURAKI Jiro 准教授（2008.10～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2008～），生年：1971

【学歴】京都大学文学部史学科（考古学専攻）（1995年卒業），京都大学大学院文学研究科歴史文化学専攻考古学専修修士課程（1997年修了），京都大学大学院文学研究科歴史文化学専攻考古学専修博士後期課程（1999年中退）

【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手（1999），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教併任（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008）

【学位】文学修士（京都大学）（1997年取得）【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】日本中世の考古学的研究【所属学会】史学研究会，日本考古学協会【研究目的・研究状況】信仰，都市，生産技術など，考古学の立場から中世史を総合的に研究する。

●主要業績

1. 【企画展示】『時代を作った技—中世の生産革命—』平成25年度歴博企画展示，展示代表，2013年
2. 【編著】『中世のモノづくり』164頁，朝倉書店，2019年3月
3. 【論文】「中世京都七条町・八条院町界隈における生産活動—銅細工を中心に—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』210号，pp.49-83，2018年3月）
4. 【研究報告特集号】編著「特集号 中世の技術と職人に関する総合的研究」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第210集，272頁，2018年3月）
5. 【科学研究費補助金】基盤研究B「琉球帝国と東アジア海域の動態研究—集落・流通・技術—」研究代表者，2014～2017年度

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「久里双水古墳後円部の経塚」『古墳と国家形成期の諸問題』山川出版社，pp.279-284，2019年10月20日

「古代・中世：考古学からみた画期」『季刊考古学』150，pp.55-58，2020年2月1日

3 調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など

「陶磁器からみた中世益田—港—」『中世益田現地調査成果概報』3，pp.21-26，2020年3月

7 その他

「中世の胎動」『わくわく！探検 れきはく日本の歴史』，吉川弘文館，p.74，2019年4月1日

「グスクと琉球の戦国時代」『學士會会報』937，學士會，pp.107-115，2019年7月1日

「陶磁器からみた中世益田」第112回歴博フォーラム『中世益田の中世』, pp.4-7, 2019年11月2日
 「鳥々からみた「琉球帝国」」『遺跡から見た琉球列島のグスク時代』, 沖縄県立博物館・美術館, pp.1-10, 2020年1月19日

二 主な研究教育活動

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究A「琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家」(研究代表者:村木二郎)
 研究代表者, 2018~2021年度

科学研究費基盤研究B「西遷・北遷東国武士の社会的権力化」(研究代表者:田中大喜)研究分担者, 2019~2022年度

4 主な展示・資料活動

総合展示第1室「古代国家と列島世界」, 第2室「王朝文化」「東国と西国」「大名と一揆」「民衆の生活と文化」
 「大航海時代のなかの日本」展示プロジェクト委員

2019年度企画展示「昆布とミヨク」展示プロジェクト委員

2020年度新特集展示「海の帝国琉球—八重山・宮古・奄美からみた中世—」展示プロジェクト委員(代表)

企画展示「中世武士団—領主としての実像—」展示プロジェクト委員

5 教育

千葉大学特別研究(文系)D(留学生プロジェクト)

総合研究大学院大学 集中講義B, C

三 社会活動等

1 館外における各種委員

中世学研究会世話人

文化庁中世城館・近世城郭遺跡等の保存に関する検討会委員

熱海市史跡江戸城石垣石丁場跡調査・整備委員会委員

伊東市江戸城石垣石丁場跡保存活用委員会委員

岐阜県古代・中世寺院跡総合調査検討委員会委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「琉球帝国と先島」『歴博友の会「考古学講座」』, 国立歴史民俗博物館, 2019年10月30日

「陶磁器からみた中世益田」第112回歴博フォーラム「中世益田の世界」, 島根県芸術文化センター「グラントワ」,
 2019年11月2日

「鳥々からみた「琉球帝国」」「遺跡から見た琉球列島のグスク時代」, 沖縄県立博物館・美術館, 2020年1月19日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

「中世の地域社会と信仰」を念頭に、関西の中世遺跡を巡見した。その際、寺社や石塔群などの宗教関連地だけでなく、城郭や河川、港湾等、地域社会を形成する上での重要な環境や施設のなかに位置づけることで、その意味を検討した。ただちに成果が現れるような調査ではなく、今後も継続的に実施することとする。

山田 慎也 YAMADA Shinya 教授 (2019.7~)

併任: 総研大日本歴史研究専攻准教授 (2008~), 生年: 1968

【学歴】慶應義塾大学法学部法律学科 (1992年卒業), 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程 (1994年修了), 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程 (1997年単位取得退学)

【職歴】国立民族学博物館講師 (COE非常勤研究員) (1997), 東京外国語大学非常勤講師 (1997), 国立歴史民俗博物館民俗研究部助手 (1998), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手 (2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教 (2007), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授

併任（2008）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2019.7～）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2019.7～）

【学位】社会学博士（慶應義塾大学）（2000年取得）【専門分野】民俗学・文化人類学【主な研究テーマ】葬制と死生観・儀礼研究【所属学会】日本民俗学会、日本文化人類学会、日本宗教学会、宗教と社会学会、葬送文化学会【研究目的・研究状況】<http://www.rekihaku.ac.jp/kenkyuu/kenkyuusya/yamada/index.html>

● 主要業績

1. 【単著】『現代日本の死と葬儀—葬祭業の展開と死生観の変容』350頁、東京大学出版会、2007年9月
2. 【編著】国立歴史民俗博物館・山田慎也・鈴木岩弓編『変容する死の文化—現代東アジアの葬送と墓制』226頁、東京大学出版会、2014年11月
3. 【論文】「告別式の平準化と作法書」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第205集、pp.137-166、2017年3月）（査読有）
4. 【研究報告特集号：編著】『民俗儀礼の変容に関する資料論的研究』国立歴史民俗博物館研究報告第205集、490頁、2017年3月
5. 【資料図録：編著】『ライデン民族学博物館・国立歴史民俗博物館所蔵死絵』、2016年3月

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

「葬儀祭壇における地域的差異の生成」『響きあうフィールド、躍動する世界』和崎春日編、刀水書院、pp.108-125、2020年3月14日

2 論文

「変容する死の文化と民俗学研究」『日本民俗学』300、日本民俗学会、pp.66-82、2019年11月30日

「葬送儀礼の重要性と助葬事業の成立」『論文集（平成30事業年度）：冠婚編・葬祭編』冠婚葬祭総合研究所、pp.51-54、2019年5月30日

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

「来世への想い恐れと葬送儀礼」、2019年度新特集展示図録『もののけの夏：江戸文化の中の幽霊・妖怪』国立歴史民俗博物館、pp.70-73、2019年7月30日

5 学会・外部研究会発表

「看取りから葬送へのコミュニティは形成されるのか？：無縁化への予防と自己決定をめぐる実践を通して」日本文化人類学会第53回研究大会、東北大学、2019年6月1日（査読有）

「個人化する葬送と地方自治体の対応：横須賀市のエンディングプラン・サポート事業を中心として」日本宗教学会第78回学術大会、帝京科学大学、2019年9月15日

「葬送文化研究の地平」日本葬送文化学会、上野文化会館、2019年5月23日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

② 他の機関

国立民族学博物館共同研究「現代日本における「看取り文化」の再構築に関する人類学的研究」（研究代表者：浮ヶ谷幸代）2016～2020年

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究（B）「現代日本における死者儀礼のゆくえ：生者と死者の共同性の構築をめざして」（研究代表者：山田慎也）2016～2019年度、研究代表者

科学研究費基盤研究（A）「死別悲嘆の医療福祉負荷とその要因解明：大規模日本追跡調査及び国際比較」（研究代表者：カール・ベッカー）2018年度～2021年度、研究分担者

4 主な展示・資料活動

総合展示第4室「『民俗』へのまなざし」展示プロジェクト委員

総合展示第4室「おそれと祈り」展示プロジェクト委員

第4展示室特集展示「変わりゆく結婚式と近代化」2018年12月11日～2019年5月12日

5 教育

「歴博の展示について」人間文化研究機構人文知コミュニケーション資質向上プログラム、国立歴史民俗博物館、

2020年2月7日

「民俗展示リニューアルと葬制展示」全国歴史民俗博物館研修，国立歴史民俗博物館，2019年11月14日

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本宗教学会編集委員会委員

日本葬送文化学会理事

冠婚葬祭総合研究所客員研究員

全国冠婚葬祭互助協会葬儀品質認定制度審査会委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「変容する葬送儀礼とそのゆくえ」真宗大谷派横浜組育成員研修会，真宗大谷派横浜別院，2019年6月6日

「変わる葬送，多様化するニーズに対応する葬祭事業者の意義」フューネラルビジネスシンポジウム2019，パシフィコ横浜，2019年6月17日

「葬送儀礼の多様な意味とその変容」真言宗智山派匠瑳市布教師会講習会，龍蔵院，2019年7月4日

「白木祭壇から生花祭壇へ：葬儀の機能と表象」第5回エンディング産業展セミナー，東京ビッグサイト，2019年8月20日

「ひとはなぜお葬式をするのか」東京多摩葬祭業協同組合研修会，日華斎場，2019年9月4日

「葬儀写真集の時代」表現する家族アルバム展トークショー，写真道場，2019年11月9日

3 マスコミ

「社会に適合した葬送墓制の構築へ」『anjali アンジャリ』38，親鸞仏教センター（真宗大谷派），pp.141-15，2019年12月1日

「雛祭りの歴史と今」『插花』832，一般社団法人小原流，pp.8-11，2020年3月1日

「墓も葬儀も急激に個人化したのはなぜか：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの①」『月刊住職』21-5，興山舎，pp.102-106，2019年5月1日

「葬儀は遺体を内から外へ移動する営みである：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの②」『月刊住職』21-6，興山舎，pp.102-106，2019年6月1日

「通夜も告別式も自宅から離れて何が失われたか：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの③」『月刊住職』21-7，興山舎，pp.132-136，2019年7月1日

「遺体との寄り添いを遠ざける葬儀場が増えた訳：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの④」『月刊住職』21-8，興山舎，pp.138-142，2019年8月1日

「葬儀の一環である初七日が省かれるのはなぜか：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの⑤」『月刊住職』21-9，興山舎，pp.116-120，2019年9月1日

「初七日法要を葬儀式に取り込んだのは誰のためか：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの⑥」『月刊住職』21-10，興山舎，pp.130-134，2019年10月1日

「葬儀と初七日の後の供養はなぜいかに行われたか：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの⑦」『月刊住職』21-11，興山舎，pp.127-131，2019年11月1日

「忌明け法要が葬儀当日に行われているのはなぜか：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの⑧」『月刊住職』21-12，興山舎，pp.127-131，2019年12月1日

「仏式葬儀における造花蓮華と大輪の花輪の盛衰：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの⑨」『月刊住職』22-1，興山舎，pp.125-129，2020年1月1日

「葬儀の花が造花から白菊の生花に変化した理由：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの⑩」『月刊住職』22-2，興山舎，pp.131-135，2020年2月1日

「葬儀の祭壇に生花が増えていったのはなぜか？：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの⑪」『月刊住職』22-3，興山舎，pp.137-141，2020年3月1日

「蛤と雛祭り」，『三田評論』1242，慶応義塾，pp.97-97，2020年3月1日

四 活動報告

2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

歴史系総合誌準備委員会代表

新総合誌編集委員会委員長

第四期将来計画会議委員

3 研究・調査プロジェクト報告

現代社会において、家族のいない、もしくは関係の途絶えている人の葬儀に関する調査を引き続いて行っている。そのなかでは当事者の関心はどこに埋葬、納骨されるのかであり、なかには好きな生花や読経を希望する場合もあるが、それはごくわずかであり、読経などの儀礼にはあまり関心の無いことが把握できた。

山田 康弘 YAMADA Yasuhiro 教授 (2015.4～)

併任：総研大日本歴史研究専攻教授 (2015～)、生年：1967

【学歴】筑波大学第一学群人文学類 (1990年卒業)、筑波大学大学院博士課程歴史人類学研究科文化人類学先史学専攻 (1994年中退)

【職歴】熊本大学文学部助手 (1994)、土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム学芸員 (1996)、島根大学法文学部助教授 (1999)、同教授 (2010)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2011)、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2013)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2015)、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2015)

【学位】博士 (文学) (総合研究大学院大学) (2007年取得) 【専門分野】先史学 【主な研究テーマ】先史時代における墓制・社会構造・精神文化の研究 【所属学会】日本考古学協会・日本人類学会・考古学研究会・Canadian Archaeological Association 【研究目的・研究状況・メールアドレス】 arch-yamada@rekihaku.ac.jp

●主要業績

1. 【著書】『縄文時代の歴史』 (全325頁)、講談社現代新書、2019年1月
2. 【著書】『つくられた縄文時代—日本文化の原像を探る—』 (全253頁)、新潮選書、2015年11月
3. 【著書】山田康弘『老人と子供の考古学』280頁、吉川弘文館、2014年6月
4. 【科研】基盤研究 (A)「考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築」2018～2022年度 研究代表者
5. 【基盤研究】基幹研究「先史時代における社会複雑化・地域多様化の研究」研究代表者、基幹研究「人骨出土例による縄文社会論の考古学・人類学・年代学的再検討」研究代表者

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「人骨と墓葬祭制からみる社会」坂詰秀一・阿部芳郎・山田康弘・米田穰・佐々木由香『季刊考古学 別冊』31, 雄山閣, pp.31-43, 2020年2月27日

「考古学史と社会背景」土生田純之・設楽博己『季刊考古学』150, 雄山閣, pp.28-33, 2020年2月1日

「人骨に残る儀礼痕跡」谷口康浩『季刊考古学』148, 雄山閣, pp.59-63, 2019年8月1日

「縄文時代の再埋葬」石川日出志『季刊考古学 別冊』29, 雄山閣, pp.55-64, 2019年7月25日

「縄文時代早期の人骨出土例における埋葬属性」『国史学』229, 国史学会, pp.39-58, 2019年11月30日 (査読有)

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「人骨出土例による縄文社会論の考古学・人類学・年代学的再検討」(研究代表者：山田康弘) 研究代表者、2016年度～

2 外部資金による研究

科学研究費補助金基盤研究 (A)「考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築」, 2018～2022年度, 研究代表者

文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「ゲノム配列を核としたヤポネシア人の起源と成立の解明」, 2018～2022年度, 新学術領域研究B01班, 研究分担者

4 主な展示・資料活動

総合展示第1室「大テーマⅡ 多様な縄文世界」展示プロジェクト委員（主担当）

5 教育

神奈川大学非常勤講師（考古資料学特論）

首都大学東京大学非常勤講師（考古学特論2）

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本考古学協会埋蔵文化財保護委員会副委員長，鳥根大学山陰研究プロジェクト客員研究員，史跡井野長割遺跡整備検討委員会委員，史跡キウス周堤墓群整備検討委員会委員，史跡津雲貝塚整備検討委員会委員，史跡八天遺跡整備検討委員会委員，縄文時代文化研究会『縄文時代』編集委員

2 講演・カルチャーセンターなど

朝日カルチャーセンター講師（新宿教室・千葉教室）

NHKカルチャーセンター講師（青山教室）

NHK名古屋文化センター講師

早稲田大学エクステンションセンター講師

NHKカルチャーラジオ 歴史再発見「縄文時代研究の最先端を探る」講師

鳥根県考古学会記念講演会（6月30日）

鳥根県埋蔵文化財センター講習会講演（7月1日）

愛知県西尾市講演会（7月3日）

キッズジャンボリー・ワンダーキャンパス講演会（8月14日）

静岡新聞講演会（8月17日）

長野県茅野市縄文講演会（8月24日）

新潟県十日市町講演会（8月31日）

新宿区きのえね会講演（9月30日）

下関市考古博物館講演会（11月2日）

3 マスコミ

BayFM フリントストーン「多様で奥深い，縄文時代！～縄文人の驚くべき多様性と知恵～」出演（5月18日）

NHKラジオ Nらじ 特集「わかってきた縄文時代」出演（5月29日）

NHKFM トーキングウィズ松尾堂「縄文文化に触れる，ハマる」出演（9月8日）

雑誌「クロワッサン」8/25，9/10号「お茶の時間 縄文という時代」1・2 対談，マガジンハウス

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

「多様な縄文列島」歴博講演会，国立歴史民俗博物館，2019年9月14日

④ デジタル・コンテンツ開発

10MTVオピニオンにて13回分の講演を収録

四 活動報告

1 受賞歴

第7回古代歴史文化賞 優秀賞受賞

横山 百合子 YOKOYAMA Yuriko, 教授（2014.11～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2014～），生年：1956年

【学歴】東京大学文学部国史学科卒業（1979年），東京大学大学院人文社会系研究科修士課程日本文化研究専攻 修了（1998年），東京大学人文社会系研究科博士課程日本文化研究専攻 単位取得退学（2003年）【職歴】神奈川県立高等学校教諭（1979），千葉経済大学経済学部教授（2007），帝京大学文学部教授（2010），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2014），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2014）【学位】博士（文学）（東京大学）（2003年取得）【専門分野】日本近世史，ジェンダー史【主な研究テーマ】幕末維新期の都市社会とジェンダー【所属学会】史学会，歴史学研究会，日本史研究会，ジェンダー史

学会，総合女性史学会，明治維新史学会，歴史教育者協議会【研究目的・研究状況】近世身分研究・都市社会史研究をふまえて，近世の女性の実態とジェンダー，および近代移行期におけるその変容を明らかにしたいと考えている。近年は，特に遊廓の実証的研究に関心をもっている。

●主要業績

1. 【単著】『明治維新と近世身分制の解体』333頁，山川出版社，2005年11月
2. 【論文】「身分論の新展開」歴史学研究会編『第4次現代歴史学の成果と課題 第2巻 世界史像の再構成』績文堂出版，114-129頁，2017年5月
3. 【科研】日本学術振興会科学研究費基盤研究（B）19H01314 「「隠し売女」から「淫売女」へ—近世近代移行期における売春観の変容」（2019～2021年度）研究代表者
4. 【共編著】明治維新史学会編（西澤直子・横山百合子編集）『講座明治維新9 明治維新と女性』有志舎，265頁，2015年2月
5. 【学会】2011年度歴史学研究会大会全体報告「19世紀都市社会における地域ヘゲモニーの再編—女髪結・遊女の生存と〈解放〉をめぐる—」（2011年5月）

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

「第6章 遊女の「日記」を読む—嘉永2年梅本屋佐吉抱え遊女付け火一件をめぐる—」長谷川貴彦『エゴ・ドキュメントの歴史学』岩波書店，2020年3月27日

「第13講 遊女の終焉へ」高埜利彦編『近世史講義—女性の力を問い直す—』ちくま新書，筑摩書房，pp.221-238，2020年1月10日

2 論文

横山百合子，三上喜孝：共著「歴史叙述としての博物館展示とジェンダー」『歴史学研究』989，績文堂出版，pp.216-222，2019年10月1日（査読有）

5 学会・外部研究会発表

「歴史叙述としての博物館展示とジェンダー」2019年度歴史学研究会大会特設部会「歴史学における男女共同参画」，立教大学，2019年5月26日

「遊女の群像—身分制解体期における“財”から“主体”への遊女の変容—」日本史研究会近現代史部会6月例会「「生きること」とジェンダー」，京都大学，2019年6月23日

7 その他

横山百合子・三上喜孝「歴史叙述としての博物館展示とジェンダー」2019年度歴史学研究会総会・大会プログラム，歴史学研究会，pp.34-35，2019年5月26日

横山百合子「基盤共同研究「日本列島社会の歴史とジェンダー」中間報告 国際研究集会「歴史展示におけるジェンダーを問う How is Gender Represented in Historical Exhibitions?」を開催して」『国立歴史民俗博物館研究報告』219，pp.417-422，国立歴史民俗博物館，2020年3月27日

「論考 歴史学習の可能性を拓く—国立歴史民俗博物館の取り組み—」社会科・地図NEWS LETTER 7号，pp.12-13，東京書籍，2019年4月1日

「長崎の都市社会からみた『蝶々夫人』オペラプログラム ジャコモ・プッチーニ「蝶々夫人」，新国立劇場，pp.21-25，2019年6月1日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基盤研究「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成」2018～2020年度

基幹研究「近代日本における産業・労働の展開とジェンダー」2019～2021年度研究代表者

③ 機構

ネットワーク型基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査研究・活用「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用—日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築—」2016～2021年度

2 外部資金による研究

科研基盤研究 (B) 「「隠し売女」から「淫売女」へ—近世近代移行期における売春観の変容」2019～2021年度研究代表者

科研基盤研究 (B) 「一次史料に基づく近世～近代日本の「遊廓社会」に関する総合的研究」2019～2023年度研究分担者

4 主な展示・資料活動

2019年度企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」展示プロジェクト委員

2020年度企画展示「ジェンダーからみた日本の歴史 (仮)」展示プロジェクト代表

「明治元年の東京と府知事大木喬任」佐賀県立佐賀城本丸歴史館 開館15周年記念特別展 展示図録『東京をつくった佐賀人たち』, pp.43-45, 2019年10月11日

5 教育

総合研究大学院大学文化科学研究科 日本歴史研究専攻 講義 村落社会論「ジェンダーの視点からみた近世社会の特質」

明治大学文学部非常勤講師 (日本史特説ⅡA, ⅡB) 2019年4月～2020年3月

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本歴史学協会第30期常任委員 (2018年7月～)

2 講演・カルチャーセンターなど

「東京の明治維新—危機に陥る「首都」で人びとはどう生き抜いたか—」大阪経済大学日本経済史研究所主催 黒正塾第17回春季歴史講演会, 大阪経済大学, 2019年5月11日

「明治2年の皇居の花見 —江戸から東京へ—」国立歴史民俗博物館くらしの植物苑 第244回観察会, 2019年7月27日

「江戸東京の明治維新」首都大学オープンユニバーシティ春期講座, 首都大学東京飯田橋キャンパス, 2019年5月23日, 5月30日

「遊女の群像～幕末維新期の新吉原遊廓～」首都大学オープンユニバーシティ秋期講座, 首都大学東京飯田橋キャンパス, 2019年12月5日, 12月12日

「幕末維新期の新吉原遊廓と遊女」飯田アカデミア2019 第89 講座, 飯田市役所, 2019年12月14日・15日

「須坂と江戸—激動の幕末を生きた人びと—」須坂市民学園第4回公開講演会, 須坂市, 2019年9月14日

3 マスコミ

「ずいそう」『新婦人しんぶん』, 新日本婦人の会, 2019年4月25日・5月30日・6月27日・7月25日

乃木坂46山崎怜奈 歴史の時間 #「女三人で花魁の世界を語る」dTVチャンネル, 2019年11月

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

本年度で, 目標とした須坂市坂本家文書の調査と撮影を終了した。

吉井 文美 YOSHII Fumi, 准教授 (2018.4～)

【学歴】東京大学文学部卒業 (2008年), 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了 (2010年), 同博士課程修了 (2014年)

【職歴】東京大学史料編纂所リサーチ・アシスタント (2013～2014年), 山形大学人文学部専任講師 (2014～2017年), 国立台湾師範大学兼任助理教授 (2016～2017年), 山形大学人文社会科学部専任講師 (2017～2018年)

【学位】博士 (文学, 東京大学) 【専門分野】日本近代史, 東アジア国際関係史 【主な研究テーマ】近代日本の対中政策とその国際的影響, 日本の帝国支配をめぐる外交史的研究 【所属学会】史学会

●主要業績

- 【論文】「日本の中国支配と海関政策の展開：人事問題を中心として」『日本歴史』865号 (2020年)
- 【論文】「日中戦争下における揚子江航行問題—日本の華中支配と対英米協調路線の蹉跌—」『史学雑誌』第127編第3号 (2018年)

3. 【共著】『日中戦争の国際共同研究5 中国の戦時経済と変容する社会』（担当範囲：日本の華北支配と開港炭鉱）（慶應義塾大学出版会，2014年）
4. 【論文】「一九三五年の『新生』不敬記事事件」『日本歴史』789号（2014年）
5. 【論文】「『満洲国』創出と門戸開放原則の変容—「条約上の権利」をめぐる攻防—」『史学雑誌』第122編第7号（2013年）

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
2019年度企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」（展示図録），国立歴史民俗博物館，2019年10月29日
- 5 学会・外部研究会発表
吉井文美「日中戦争期における海関人事をめぐる攻防」（名古屋大学経済学部・経済学研究科 課題設定型ワークショップ 社会経済研究）2019年11月7日，名古屋大学
Fumi Yoshii, Japan's Undeclared War : International Society and Japan's 1930s China Policy, Japan History Lecture, Council on East Asian Studies, 25th Feb. 2020, Yale University, USA.

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
 - ① 歴博
基幹研究「近代日本における産業・労働の展開とジェンダー」（代表：横山百合子）副代表，2019～2021年度
 - ③ 機構
ネットワーク型基幹研究プロジェクト「北米における日本関連在外資料調査研究・活用 — 言語生活史研究に基づいた近現代の在外資料論の構築」，（代表：朝日祥之）
- 2 外部資金による研究
科研 若手研究（代表）「日中戦争期華中における占領地統治の進展と現地秩序の改変過程」2018～2020年度
- 4 主な展示・資料活動
総合展示第5室・第6室リニューアル委員
2019年度企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」展示副代表

三 社会活動等

- 2 講演・カルチャーセンターなど
「戦前期中国の石炭産業と日本」歴博友の会講座 歴史学講座，国立歴史民俗博物館，2019年6月6日

四 活動報告

- 3 研究・調査プロジェクト報告
日本の植民地に暮らしていた人々や移民として海外渡航した日本人が，日本の中国支配に必要な人材として，どのように集結させられ，どのような分野で統治に関与したのかについて，製糖業を例に研究した。9月22～25日に台湾の中央研究院（台北）で資料調査を行い，研究成果の一部は，企画展示『ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち』にも反映させた。

吉村 郊子 YOSHIMURA Satoko 助教（2007～）

【学歴】奈良女子大学理学部生物学科（1992年卒業），京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程人間・環境学専攻（1994年修了），ナミビア大学学際研究センター社会科学部門（共同研究生：1995～1998年），京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程人間・環境学専攻（2000年研究指導認定退学）【職歴】国立歴史民俗博物館歴史研究部助手（2000），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）【学位】人間・環境学修士（京都大学）（1994年取得）【専門分野】生態人類学，文化人類学【主な研究テーマ】日本の山間地域における人・生業・自然に関する

人類学的研究, アフリカ南部の牧畜民に関する人類学的研究, 自然と信仰・音に関する研究【所属学会】日本文化人類学会, 日本アフリカ学会, 生態人類学会

●主要業績

1. 【分担執筆】「ヒンバの人々の暮らし—「伝統」と現在を生きる」水野一晴・永原陽子編『ナミビアを知るための53章』（2016年）pp.279-283
2. 【論文】「遺された／生きる者にとっての墓—牧畜民ヒンバの事例から」『国立歴史民俗博物館研究報告』第181集（2014年，査読有）pp.81-109
3. 【論文】「ナミビアの牧畜民ヒンバと土地のかかわり—その歴史と現在」『国立歴史民俗博物館研究報告』第145集（2008年，査読有）pp.145-229
4. 【分担執筆】「第7章 土地と人をつなぐもの—ナミビアの牧畜民ヒンバにとっての墓」田中二郎他編『遊動民（ノマッド）—アフリカの原野に生きる』（明石書店，2004年）pp.439-464
5. 【分担執筆】「第4章 炭焼きとして現代を生きぬく」篠原 徹編『現代民俗誌の地平1. 越境』（2003年，朝倉書店）pp.70-96

●2019年度の研究教育活動

二 主な研究教育活動

5 教育

早稲田大学非常勤講師（教育学部「文化人類学研究Ⅰ」「文化人類学研究Ⅱ」），法政大学兼任講師（文学部「世界地誌（5）」）

三 社会活動等

2 講演・カルチャーセンターなど

国立歴史民俗博物館友の会講師（2019年度歴史学講座第二回「今の暮らしにつながる歴史—海外の少数民族の事例から—」2019年5月31日実施）

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

本研究は、「歴史を生きぬき，今を創造する周縁地域の人びとの暮らしに関する研究」として，世界の情勢や諸環境がめまぐるしく変わってきた近現代において周縁地域に暮らす人びとの暮らしの実態と変遷を，かつてその地を統治していた植民地政府や独立後の国家，近隣の諸集団（例：近くに暮らす他言語集団や他国からやってきた移民）等，さまざまな他者・要素とのかかわりから明らかにすることを旨とするものである。

今年度は，まず過去の現地調査で得た資料の補足・検討等のために，国内調査を実施した後，本研究と目的・趣旨が重なっていた重点研究「近代化と周縁地域における居住・土地資源利用の変遷に関する研究」の経費を主として実施した海外調査とその準備にも，本研究の経費の一部を充てた。

海外調査では，ナミビアの周縁地域の事例を対象に，同地で過去に行った現地調査で得た一次資料を補足・補完し，さらにはそうした個別の事例をマクロな視点からとらえなおして比較・検討し考察するために，現地の国立文書館等において近現代の植民地統治時代の文書資料（行政文書・報告書や行政官・宣教師や家族達の私的文書等も含む）について現地調査を行い，そして，1990年の独立から現代に至るまでの変化については，首都ウイントフック周辺や北西部のクネネ州等において聞き取りと参与観察を実施した。

国立文書館等での資料調査からは，旧南西アフリカ（現在のナミビア）がドイツ保護領から南アフリカによる軍事占領地やその後の委任統治領へと移行していく中で，周縁地域の人びとが徐々に政府の統治体系の中に組み込まれていったプロセスを紐解く一助となる資料や，当時の現地の人びとの暮らしの実態に関する記述も少なからず散見された。また，そうした統治政策が彼らの日常に及ぼす影響を与えて，今日の居住形態や土地資源利用の認識が構築されていったのか，そのプロセスを，かつてのフィールドワークで得た一次資料と突き合わせて考察し，活用しうる資料も得ることができた。植民地統治とその政策がかの地に与えた影響は，その統治の時代のみならず，今の人びとの行為と実践や彼らがおかれた状況のなかにも少なからず痕跡をのこしていることが，聞き取りや参与観察からわかった。

[特任准教授・助教]

天野 真志 AMANO Masashi 特任准教授 (2017.7～)

【学歴】富山大学人文学部人文学科 (2004年卒業), 東北大学大学院文学研究科博士前期課程 (2006年修了), 東北大学大学院文学研究科博士後期課程 (2010年単位取得退学)

【職歴】東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者 (2010-2012), 東北大学災害科学国際研究所助教 (2012-2017), 人間文化研究機構研究推進センター研究員 (2017.7～), 併任国立歴史民俗博物館特任准教授 (2017.7)

【学位】博士 (文学, 東北大学), 【専門分野】日本近世・近代史, 資料保存, 【主な研究テーマ】日本近世近代移行期における政治・社会史研究, 近世・近代社会における地域の由緒に関する研究, 地域歴史文化の保全・継承に関する研究, 地域歴史文化資料の災害対策に関する研究, 【所属学会】文化財保存修復学会, 明治維新史学会, 歴史学研究会, 東北史学会, 日本古文書学会

●主要業績

1. 【著書】『記憶が歴史資料になるとき 遠藤家文書と歴史資料保全』, 78頁, 蕃山房, 2016年3月31日
2. 【論文】「国事周旋と言路」, 『歴史』116, pp.63-87, 2011年4月25日
3. 【論文】「歴史資料の津波被害と保全対策」, 『古文書研究』75, pp.40-58, 2013年6月
4. 【論文】「王政復古前後における秋田藩と気吹舎」, 平川新編『江戸時代の政治と地域社会1 藩政と幕末政局』清文堂出版, pp.157-187, 2015年3月
5. 【学会・外部研究会発表】“The Dilemma and the Developing Challenge for Preserving Historical Materials since 2011”, “EMERGENCY! Preparing for Disasters and Confronting the Unexpected in Conservation” American Institute for Conservation of Historic and Artistic Works 44th Annual Meeting & Canadian Association for Conservation of Cultural Property 42th Annual Conference 2016年5月16日 Montreal, Canada

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 2 論文

「地域の記憶と歴史・文化 —仙北市の歴史継承を見つめる—」『るねっさんず・角館』10, ルネッサンス角館, pp.11-17, 2020年2月19日

「[出羽国秋田藩の文書調査と由緒管理]」『常陸大宮市史研究』3, 常陸大宮市教育委員会, pp.13-32, 2020年3月30日
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

近世佐竹家中の歴史意識と常陸の記憶」茨城県立歴史館 令和元年度特別展展示図録『佐竹氏—800年の歴史と文化—』, pp.209-219, 2020年2月8日
- 5 学会・外部研究会発表

天野 真志・吉川 圭太・加藤 明恵・西向宏介・下向井祐子「西日本豪雨で水損被害を受けた文書資料乾燥法の検討 —広島県における大量の紙資料乾燥法の実践事例—」一般社団法人文化財保存修復学会 第41回大会, 帝京大学八王子キャンパス, 2019年6月23日 (査読有)

「地域の資料を保存・継承することの課題を考える」学術野営2019 in 能登半島, 石川県珠洲市, 2019年7月6日

「地域資料と資料保存 —歴史文化資料をめぐる現状と課題—」名古屋大学近世史研究会例会, 名古屋大学, 2019年7月27日

石田 浩彦・門地 理絵・原水 聡史・天野 真志・後藤 真 「被災古文書資料の復旧作業時に用いる消臭カートリッジの開発」第32回におい・かおり環境学会, 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス, 2019年8月28日

「幕末期の気吹舎情報をめぐる政治・思想関係」2019年度東北史学会大会, 東北大学川内キャンパス, 2019年10月6日
- 7 その他

「書評/栗原伸一郎著『戊辰戦争と「奥羽越」列藩同盟』」『歴史』133, 東北史学会, pp.73-81, 2019年10月25日

「地域歴史文化資料の保存・継承に向けたネットワーク構築へ」『千葉史学』74, 千葉歴史学会, pp.26-35, 2019年5月15日

「紹介/秦達之著『尾張藩草莽隊』」『歴史評論』831, 歴史科学協議会, p.102, 2019年7月1日

「紹介/友田昌宏『東北の幕末維新』」『明治維新史研究』18, 明治維新史学会, pp.73-76, 2020年3月31日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

「資料保存と救済・修理・継承」2019年度 第2回国立歴史民俗博物館共同研究「総合資料学の創成」地域連携・教育ユニット研究会, 広島県立文書館, 2019年11月29日

「歴史文化資料をとりまく諸環境—資料保存の課題—」国立歴史民俗博物館開発型共同研究「歴史災害研究のオープンサイエンス化に向けた研究」第4回研究会, 東京大学地震研究所, 2019年12月20日

③ 機構

広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」ユニット「日本列島における地域文化の再発見とその表象システムの構築」(代表者: 日高真吾)

2 外部資金による研究

科学研究費若手研究「幕末維新期の角館城下を中核とした知的関係と政治意識の形成」(代表者: 天野真志)(2018～2021年度)

3 国際交流事業

“Handling to damaged materials”The 10th Anniversary Kobe University Brussels European Centre Symposium Open interactive Workshop : Toward A Holistic Approach to Cultural Heritage Research : Challenges & Opportunities, The Vrije Universiteit Brussel, 2019年10月22日, ベルギー

「資料保全ネットワークの構想と地域文化」国際フォーラム「地域文化を活用する—地域振興, 地域活性に果たす役割」, 蘭陽博物館, 2019年10月30日, 台湾

久留島 浩・天野 真志「自然災害で被災した資料に救済と活用 —「資料ネット」の活動と「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」について—」ベトナム国家大学ハイ校 人文社会科学大学・人間文化研究機構 学術交流協定締結記念シンポジウム「グローバル時代における 人文学の日越協力」, ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学, 2019年11月12日, ベトナム

5 教育

「歴史文化資料保全の取り組みを支えるために」令和元年度 行政文書・古文書保存管理講習会, 広島県立文書館, 2019年11月21日

「水損した紙製資料の応急対応実習」令和元年度神奈川県博物館協会第4回研修会「防災訓練・水損資料応急処置実習」, 平塚市博物館, 2019年12月10日

三 社会活動等

1 館外における各種委員

福島県相馬市史編さん室調査執筆員

宮城県岩沼市史編纂室編集専門部会 震災部会調査執筆員

茨城県常陸大宮市史編さん委員会専門部会協力員

福島県富岡町アーカイブ施設整備有識者検討部会委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「請戸区会議録の現在 —修理過程から見えてきた地域の歴史—」請戸の歴史と文化を知る会, 福島県浪江町, 2019年10月27日

「地域の記憶と歴史・文化 —仙北市の歴史継承を考える—」ルネッサンス・角館 第31回歴史と文化フォーラム, 仙北市立角館樺細工芸伝承館, 2019年12月7日

「資料の緊急対応を考える」地域歴史文化大学フォーラム in 名古屋「地域資料保全のあり方を考える」ワークショップ, 名古屋大学, 2019年12月22日

「歴史文化の継承とネットワーク構築 —東海資料ネットの設立を見つめる—」東海資料ネット設立総会記念講演会, 名古屋大学, 2020年2月16日

3 マスコミ

「北陸れきしよもやま話 武士 名字から由緒探求」読売新聞社, 読売新聞 石川富山面, 2019年9月14日

「北陸れきしよもやま話 幕末 揺らぐ世界認識」読売新聞社, 読売新聞 石川面, 2020年2月15日

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

「歴史文化資料の被災対応とその考え方」えひめ文化財等レスキュー訓練, 愛媛大学, 2019年7月18日

「被災資料への対応と備え」令和元年度君津地方公立博物館協議会 第1回研修会, 袖ヶ浦市郷土博物館, 2019年7月26日

亀田 堯宙 KAMEDA Akihiro 特任助教 (2019.10～)

【学歴】東京大学工学部システム創成学科 (2007年卒業) 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻 (2009年9月修了) 東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻 (2012年9月単位取得退学)

【職歴】情報処理推進機構 未踏IT 人材発掘・育成事業 未踏本体 クリエータ (2009.7～2010.3), 情報・システム研究機構 技術補佐員 (2012.10～2013.3) 同 特任研究員 (2013.4～2014.9) 湘南工科大学 コンピュータ応用学科 非常勤講師 (2013.4～2014.9) 京都大学地域研究統合情報センター 助教 (2014.10～2016.12) 京都大学東南アジア地域研究研究所 助教 (2017.1～2019.9)

【学位】修士 (環境学) (東京大学) (2009年取得)

【専門分野】情報知識学 (Linked Dataの構築と活用, 自然言語処理による知識抽出, デジタル知識の保存と継承), 人文社会情報学

【主な研究テーマ】地域に関わる知識の共有と継承のための情報技術研究

【所属学会】情報処理学会, 人工知能学会, 言語処理学会, デジタルアーカイブ学会

●主要業績

1. Akihiro Kameda, Kiyoko Uchiyama, Hideaki Takeda, Akiko Aizawa : Extraction of Semantic Relationships from Academic Papers using Syntactic Patterns, The Fifth International Conference on Information, Process, and Knowledge Management, (2013).
2. Akihiro Kameda, Fumihiko Kato, Utsugi Jinbo, Ikki Ohmukai, Hideaki Takeda : Integrate Japanese Red List into LOD of Species, PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013 (2013).
3. Akihiro Kameda, Shoichiro Hara : Cyber Infrastructure for Resource Sharing in Area Studies, PNC 2018 Annual Conference and Joint Meetings, (2018).

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

5 学会・外部研究会発表

亀田 堯宙 : Implementation of Reconciliation API for a Linked Data Gazetteer, 2019 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings, 2019年10月15日～18日

Shoichiro HARA and Akihiro KAMEDA : MyDatabase : an information tool for facilitating dissemination of academic research data, A-LIEP 2019, 2019年11月4日～7日

KAMEDA Akihiro, HARA Shoichiro and SUGIMOTO Shigeo : RsDA Inventory Database, A-LIEP 2019, 2019年11月4日～7日

KAMEDA Akihiro, KISHI Toshihiko and NISHIOKA Chifumi : Linked Archive of Asian Postcards, A-LIEP 2019, 2019年11月4日～7日

亀田 堯宙 : PDお願いツール, シンポジウム デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件, 2020年1月17日

亀田 堯宙 : 地域歴史資料のオープン化事例と課題, 第122回 人文科学とコンピュータ研究会発表会, 2020年2月1日

Sakiko Kawabe and Akihiro Kameda : Japanese AAT : Translation of terms and scope for linking, International Terminology Working Group Meeting, 2020年2月6日～7日

亀田 堯宙 : データ発見のための技法とデータ長期保存に関する国際動向, 第6回地域歴史文化研究会, 神戸

大学, 2020年2月10日

二 主な研究教育活動

2 外部資金による研究

科学研究費助成事業

「インドネシアにおける土地所有権と泥炭地回復」(研究代表者:水野 広祐) 分担者, 2019~2022年度

「インドネシア熱帯泥炭地における災害および水文・気象情報管理システムの構築」(研究代表者:甲山 治) 分担者, 2019年10月~2022年度

「データベースをつうじた地域と科学の知の統合による気候応答型居住環境の創出」(研究代表者:山田 協太) 分担者, 2018~2021年度

「紀要を見直す—被引用分析を通じた紀要の重要性の実証と紀要発展のための具体的提言」(研究代表者:設楽 成実), 分担者, 2017~2020年度

「『地域の知』の共有と利活用を支援する地域研究情報基盤の構築」(研究代表者:原 正一郎), 2016~2019年度

三 社会活動等

1 館外における各種委員

情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会 運営委員

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

JSPS科学研究費補助金特別推進研究 「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」に関わるデータベースの作成を行っている。

河合 佐知子 KAWAI Sachiko 特任助教 (2020.1~)

【学歴】都留文科大学文学部初等教育学科 (1993年卒業), カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校大学院他言語話者に対する英語教授法研究科修士課程 (California State University, Los Angeles, MA in Teaching English to Speakers of Other Languages [TESOL]) (2000年修了), 南カリフォルニア大学大学院東アジア言語・文化研究科修士課程 (University of Southern California, MA in East Asian Languages and Cultures) (2007年修了), 南カリフォルニア大学大学院歴史学科博士課程 (University of Southern California, Ph.D. in History) (2015年修了)

【職歴】

ハーバード大学東アジア言語・文化学科カレッジ・フェロー (2015年7月~2016年6月), ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所ポスドク研究員 (2016年8月~2017年6月), 南カリフォルニア大学歴史学部博士研究員及び漢文ワークショップアシスタント・ディレクター (2018年7月~2019年12月)

【学位】博士 (歴史) (南カリフォルニア大学) (2015年取得), 【専門分野】日本中世史, 女性史・ジェンダー史

【主な研究テーマ】1) 中世女院研究; 2) 前近代温泉文化史, 【所属学会】総合女性史研究会, 鎌倉遺文研究会, The Association for Asian Studies (AAS), The Asian Studies Association of Australia (ASAA), 【研究目的・研究状況】平安・鎌倉期女院所領経営の分析を通して, 「権利」(authority) と「力」(power) のギャップに注目し, 女院やその周辺の人々が土地における「権利」をどのように使い, 政治・経済・宗教・文化・軍事的な影響力を得たのかについて分析した。また, 女院と男院のジェンダー的格差に伴う様々な要素が女院荘園経営におけるストラテジーに与えた影響を検討した。現在は, 女性史・ジェンダー史の視点を取り入れつつ, 前近代温泉文化史研究に取り組んでいる。

●主要業績

1. 「院政期女院の土地における『権利』とそこから産みだされる『力』の考察—不婚内親王宣陽門院(1181-1152)を中心に—」(『比較日本学教育研究センター研究年報』10号, 151~157頁, お茶の水女子大学, 2014年3月)
2. 【博士学位論文: 単著】『*Power of the Purse: Estates and the Religio-Political Influence of Japanese Royal Women, 1100-1300* (日本中世の経済力—天皇家女性の荘園経営と政治・宗教的影響力から探る)』〔博士学位論文〕(南カリフォルニア大学, 320頁, 2015年5月)

Link: <http://digitallibrary.usc.edu/cdm/ref/collection/p15799coll3/id/558872> (Harvard University Asia Center Publications から出版予定)

3. 【論文：単著】「Talking to a Deity: The Royal Lady Hachijō-in at Prayer (八条院告文から見る女院の人生)」(査読済) (『*The Medieval History Journal* (中世史研究)』18巻2号, 278~304頁, Sage Publications, 2015年10月)
4. 【論文：共著】原始・古代の家族とジェンダー (Gender and Family in the Ancient and Classical Ages) (『ラウトレッジ版—前近代史 (*Routledge Handbook for Premodern Japanese History*)』, 202~215頁, with Ijūin Yōko [伊集院葉子], Routledge, 2017年6月)
5. 【論文：単著】「Nyoin Power, Estates, and the Taira Influence: Trading Networks within and beyond the Archipelago (女院の「力」の再検討—中世荘園・平氏政権・列島を巡る貿易ネットワーク)」(『*Land, Power, and the Sacred: The Estate System in Medieval Japan* (土地・力・聖—荘園制と中世日本)』281~318頁, Janet R. Goodwin and Joan R. Piggott, University of Hawai'i Press, 2018年)

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「グロッサリー・データベースのコンテンツ充実の試み—女性史・ジェンダー史の視点から」(研究報告)『東京大学史料編纂所研究紀要』29号, pp.1-13, 東京大学史料編纂所, 2019年3月

5 学会・外部研究会発表

報告者・パネルオーガナイザー: 「What Should A Woman Be: Clues from Birth Celebrations in Early Medieval Japan (中世前期の産養とジェンダー)」The Association for Asian Studies Annual Conference, Denver, 2019年3月22日 (パネル名: Negotiating Tension: Rituals, Gender Scripts, and Court Practices in China, Japan, and Korea, 1100-1700 [東アジア王朝のジェンダー規範と力関係を誕生・婚礼・葬送の儀礼を通して考える—1100-1700])

報告者「Rokujō Palace Estates—When Was the List Made? Layers of Information for a Royal Heiress, Sen'yōmon-in 1181-1252 (「六条殿所領公事注文目録」及び追筆情報の成立時期の再考—宣陽門院との関わりを中心に)」(USC - Meiji University Faculty and Graduate Student Research Exchange in Japanese Historical Studies 南カリフォルニア大学・明治大学日本史研究交流会, 南カリフォルニア大学, ロサンゼルス, 2019年11月2日)

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基盤研究 (B) 「格・式研究をふまえた日本古代 社会像の再構築」(代表: 小倉滋司) 共同研究員, 2020~2022年度

② 他の機関

USC Project for Premodern Japan Studies と USC Shiso Ito Center for Japanese Religions and Culture 主催
役割: Workshop organizer and facilitator (ワークショップ企画・司会)

ワークショップ名: Feasting at the Tennō's Table: A Document-reading Workshop on Food in Premodern Japan (漢文演習: 前近代日本食物史—天皇の食事を中心に) 講師: 伴瀬明美 (東京大学史料編纂所教授)
実施場所・日時: 南カリフォルニア大学, 2019年3月26日)

USC Project for Premodern Japan Studies

役割: Assistant Director (企画・運営補佐・進行担当)

ワークショップ名: 2019 Summer Kambun Workshop: Fujiwara Yorinaga in His Own Words (2019年度夏の漢文ワークショップ: 藤原頼長『台記』を読む) 講師: 尾上陽介 (東京大学史料編纂所教授)
実施場所・日時: 南カリフォルニア大学, 2019年7月15日~8月9日)

Link: <http://www.uscppjs.org/kambun-workshop>

東京大学史料編纂所一般共同研究「日本史用語グロッサリーの蓄積と改良にむけて」(代表: 遠藤基郎) 共同研究員, 2017~2019年度

③ 機構

・人文知コミュニケーター便り (予定) (他の参加メンバー: 金セツピョル [総合地球環境学研究所], 糸沙

里 [国文学研究資料館], 大石侑香 [国立民族学博物館], 光平有希 [国際日本文化研究センター], 堀田あゆみ [人間文化研究機構総合情報発信]), 2020年度～

5 教育

南カリフォルニア大学 (「HIST 438 Seminar in Pre-Modern Japanese History Bachelor in Paradise?—Courtship in Pre-Modern Japan —」) 2019 Spring Semester

三 社会活動等

四 活動報告

清武 雄二 KİYOTAKE Yuji 特任助教 (2015.2～)

【学歴】上智大学文学部史学科卒業 (1989), 國學院大學大学院文学研究科修士課程修了 (1995), 國學院大學大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学 (1999) 【職歴】 関東学院大学法学部非常勤講師 (2001.4～), 國學院大學文学部兼任講師 (2004.4～), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部特任助教 (2015.2～), 人間文化研究機構推進センター研究員 (2018.2～), 併任国立歴史民俗博物館研究部特任助教 【学位】 修士 (歴史学) (國學院大學1995) 【専門分野】 日本古代史 【主な研究テーマ】 律令国家の形成と地域社会 【所属学会】 国史学会 【研究目的・研究状況】 律令期の食資源に関する貢納体制を加工・調理技術・労働力編成・運搬・保管という視点から検証し, 古代国家と地域社会の歴史的関係性の究明を試みる。

●主要業績

1. 【論文】「律令法上の園地規定と班田制」(『國學院雑誌』第114巻5号, pp.35-50, 2013年5月) (査読有)
2. 【論文】「井上薬師堂遺跡出土木簡の再検討」(『上岩田遺跡調査概報』小郡市文化財調査報告書第142集, pp.62-77, 2000年3月) (共著者: 平川南・三上喜孝・田中史生)
3. 【論文】「藤原部の研究」(『史学研究集録』第22号, pp.5-28, 1997年3月)
4. 【研究ノート】「古代における長鰯(鬩斗鰯)製造法の研究—加工実験・成分分析による実態的考察—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』209, pp.19-41, 2018年3月) (査読有)
5. 【科研】 科研基盤研究 (C) 「古代日本の食材加工にみる律令国家税制の実態的研究」, 2017～2019年度

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

共著: 清武雄二・神戸航介・堀部猛・古田一史「『延喜式』巻一七「内匠寮」現代語訳(稿)」『国立歴史民俗博物館研究報告』218, 国立歴史民俗博物館, pp.127-154, 2019年12月27日 (査読有)

「古代の税物生産における長鰯一品種・製造法・保存期間の検証実験」『国立歴史民俗博物館研究報告』218, 国立歴史民俗博物館, pp.425-444, 2019年12月27日 (査読有)

7 その他

「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」『わくわくする研究を歴博で!—国立歴史民俗博物館の共同研究紹介—』3, 国立歴史民俗博物館, pp.6-7, 2020年3月

共著: 清武雄二・石川智士「『延喜式』と水産研究—古代の水産食品に関する多分野協働研究」歴史系総合誌『歴博』219, 国立歴史民俗博物館, pp.11-14, 2020年3月20日

二 主な研究教育活動

1 共同研究

③ 機構

広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による「総合書物学」の構築」(主導機関: 国文学研究資料館), 「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」(研究代表者: 小倉慈司) 共同研究員・推進センター研究員, 2016～2021年度

2 外部資金による研究

科研基盤研究 (B) 「史料学的検討を重視した『延喜式』の基礎的研究」(研究代表者:小倉慈司) 研究分担者, 2016~2019年度

科研基盤研究 (C) 「古代日本の食材加工にみる律令国家税制の実態的研究」研究代表者, 2017~2019年度

4 主な展示・資料活動

モバイルミュージアム展示「古代国家とアワビ~『延喜式』にみる生産と貢納~」

2020年度企画展示「海がつなぐ日本と韓国」展示プロジェクト委員

5 教育

関東学院大学法学部非常勤講師 (日本史1, 日本史2)

國學院大学文学部兼任講師 (史学専門講義 (日本史): 6・7世紀の王権と社会, 史学基礎演習 I: 出土文字資料からみた日本の古代)

三 社会活動等

3 マスコミ

「ホヤ 古代若狭の高級食材 (北陸歴史よもやま話)」読売新聞石川版・富山版, p.26, 2019年6月15日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

基幹研究プロジェクト「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」および科研基盤研究 (B) 「史料学的検討を重視した『延喜式』の基礎的研究」(研究代表者:小倉慈司)の一環として, 月1回ペースで『延喜式』現代語訳検討会を実施し, 巻17「内匠寮」現代語訳を『国立歴史民俗博物館研究報告』に掲載するとともに, 巻11「太政官」および巻39「正親司」の原稿のとりまとめを行った。同じく, アメリカの若手研究者を招聘して, 『延喜式』の英訳を目的としたワークショップを2019年6~7月と2020年2~3月に開催した。

上記「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」および科研基盤研究 (C) 「古代日本の食材加工にみる律令国家税制の実態的研究」(研究代表者:清武雄二)に関して, 水産学関連分野との協働研究体制を構築するため, 東海大学海洋学部所属の研究者と意見交換・情報提供・共同執筆等の活動を行い, 同学部との学術交流協定を締結するにいたった。同様に, 食品の成分分析において, 味の素株式会社食品研究所との協力関係を継続・強化するため, 次年度以降の具体的な提携交渉を進めている。

なれ鮠やカツオ製品といった水産貢納品に関する研究のため, 2019年7月に御食国若狭おばま食文化館にて情報収集を行うとともに, 2019年10月には福井県小浜市のなれ鮠生産者に聞き取り調査を実施したほか, 2020年1月以降, 実際に鮠の加工を試みる検証実験を実施している。また, 株式会社になべん研究開発部の協力を得て, カツオの生態に関する情報収集を随時進めるとともに, 古代のカツオ製品の加工法を検証するため, 加工実験に関する意見交換を行った。

これまでの食材貢納に関する税物生産の研究成果を可視化して発信する活動の一端として, モバイルミュージアム展示「古代国家とアワビ~『延喜式』にみる生産と貢納~」を複数回開催した。開催場所と期間は, 歴博メディアルーム (2019年3月19日~6月9日), 成田市芸術文化センター (2019年7月18日~8月18日), 日本科学未来館 (2019年10月20日) である。

葉山 茂 HAYAMA Shigeru 特任助教 (2013.7~)

生年: 1974

【学歴】弘前大学人文学部卒業 (1999), 弘前大学大学院人文社会科学研究科修士課程修了 (2003), 総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程 (2009年修了) 【職歴】立教大学兼任講師 (2010.4~2011.3および2012.4~2013.3, 2016.4~2018.3), 神奈川大学非常勤講師 (2017.4~2018.3), 龍谷大学非常勤講師 (2011.4~2014.3), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館機関研究員 (2010.8~2013.3), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部特任助教 (2013.7~2016.3), 人間文化研究機構研究推進センター研究員 (2016.4~), 国立歴史民俗博物館特任助教併任 (2016.4~) 【学位】博士 (文学) (総合研究大学院大学文化科学研究科2009) 【専門分野】生態人類学, 民俗学 【主な研究テーマ】現代における自然と人のかかわり, 生業研究, 漁業, 観光, 災害, 文化財レスキュー, 【所属学会】日本民俗学会, 生態人類学会, 京都民俗学会, 【研究目的・研究状況】研究のおもな関心は, 現代の自然と人の関わりであり, 自然の関わって生きる現代の人びとの生き方である。科学技術が発展

し、文字による知識の伝達が重要視されるなかで、人びとが自然をどうとらえ、社会や自然の変化にどのようにアプローチしながら、生業活動を営んでいるのかをとくに海との関わりに注目して研究している。また東北地方太平洋沖地震による自然災害に関する文化財保護と活用についての研究をしている。

●主要業績

1. 【単著】『現代日本漁業誌—海と共に生きる人々の七十年—』昭和堂、239頁、2013年2月
2. 【リーフレット】「大学院の魅力を語る：歴博に学んで—被災地で民俗誌を考える—」（大久保純一・澤田和人・葉山 茂編『歴史研究の最前線—もの資料で見る歴史—絵画と服飾—』、pp.47-73、2014年1月）
3. 【論文】「産業化した生業活動における自然と人の関わり—愛媛県宇和島市津島のブリ養殖を事例に—」（『日本民俗学』第266号、pp.1-36、2011年5月）（査読付き）
4. 【展示図録】国立歴史民俗博物館編（葉山 茂編著）『東日本大震災と気仙沼の生活文化 図録と報告』国立歴史民俗博物館、pp.5-22、pp.24-27、pp.35-38、pp.44-48、pp.64-71（全89頁）、2013年3月
5. 【映像】葉山 茂：編集「生活の記憶を救う」20分、歴博映画の会（2013年5月4日）に上映。展示室尾形家住宅模型内にて上映中。

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 5 学会・外部研究会発表
 - 「守札にみる社会的関係の広がり—宮城県気仙沼市の民家を事例に—」日本民俗学会、筑波大学、2019年10月13日
 - 「地域資料から教育資料をつくる—気仙沼の魚食文化キットから—」国立民族学博物館・台北藝術大学、蘭陽博物館、2019年10月30日
 - 「報告4 透過受災戸家庭財産的資料化作業凝視地方—従宮城県気仙沼市の案例來看」『追尋新地域文化研究的可能性』人間文化研究機構、pp.72-87、2020年3月31日
- 7 その他
 - 「映像制作を通して津波被災地の暮らしをみる」歴史系総合誌「歴博」215、国立歴史民俗博物館、pp.7-10、2019年7月30日

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
 - ① 歴博
 - 「地域における歴史文化研究拠点の構築」ユニット（広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」）共同研究員2016～2021年度
 - ② 他の機関
 - 「日本列島における地域文化の再発見とその表象システムの構築」ユニット（広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」・国立民族学博物館）共同研究員2016～2021年度
 - ③ 機構
 - 広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」総合人間文化研究推進センター研究員、ユニット「地域における歴史文化研究拠点の構築」

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員
 - 宮城県気仙沼市被災ミュージアム資料整理保全事業に係わる指導
- 2 講演・カルチャーセンターなど
 - 「守札を読み解く」国立歴史民俗博物館友の会、国立歴史民俗博物館、2020年1月15日
- 4 社会連携
 - ② 共同研究
 - 「海辺の村の守札—小々汐の守札から地域の暮らしを読み解く」気仙沼市文化遺産活用検討実行委員会、気仙沼市中央公民館、2020年2月14日

四 活動報告

[テニュアトラック助教]

橋本 雄太 HASHIMOTO Yuta テニュアトラック助教 (2017.4～)

【学歴】京都大学文学部 (2004-2008), 京都大学文学研究科修士課程 (2008-2010), 京都大学文学研究科博士課程課程 (2013-2017)

【職歴】株式会社内田洋行社員 (2010-2012), 大阪大学特任研究員 (2015-2017), 国立国会図書館委嘱研究員 (2015-), 国立歴史民俗博物館テニュアトラック助教

【学位】博士 (文学) (京都大学文学研究科2018年取得) 【専門分野】人文情報学, 科学史 【主な研究テーマ】人文学資料を対象にしたクラウドソーシング, 歴史研究に関わる教育ソフトウェア開発, 近代西洋数学史

【所属学会】情報処理学会, Japanese Association of Digital Humanities, 日本科学史学会 【研究目的・研究状況】クラウドソーシング技術を駆使した歴史資料の活用をテーマに研究をおこなっている。前近代日本語史料の市民参加型翻刻プラットフォーム「みんなで翻刻」や, くずし字解読の学習用アプリケーション「KuLA」の開発にあたっている。「みんなで翻刻」では2020年3月時点で800万文字の近世史料が翻刻され, KuLAは2016年の公開後14万回以上ダウンロードされている。

【メールアドレス】yhashimoto@rekihaku.ac.jp

●主要業績

1. 【著書】共著: 「歴史情報学の教科書」文学通信, 2019年3月
2. 【著書】共著: 『アプリで学ぶくずし字 くずし字学習支援アプリKuLAの使い方』笠間書院, 2017年2月
3. 【論文】「A Survey of Digital Approaches to the Large-scale Transcription of Pre-modern Japanese Documents」, Integrated Studies of Cultural and Research Resources, March 2019 (査読有)
4. 【論文】「The Kuzushiji Project : Developing a Mobile Learning Application for Reading Early Modern Japanese Texts」, Digital Humanities Quarterly, Vol.11, No.1, February 2017 (査読有)
5. 【論文】「人文学資料オープンデータの可能性と現状」『情報の科学と技術』, vol. 65, No. 12, pp.525-530, 2015年12月 (査読有)
6. 【論文】「プロイセン改革期におけるギムナジウム数学教育の発展—ギムナジウム教育プログラムの分析から—」, 科学哲学科学史研究, No. 9, pp.52-76, 2015年 (査読有)

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

「第6章 市民の力で地震史料をテキスト化「みんなで翻刻」」今村 文彦 (監修), 鈴木 親彦 (責任編集) 『災害記録を未来に活かす デジタルアーカイブ・ベーシックス2』, 勉誠出版, pp.43-156, 2019年6月30日

5 学会・外部研究会発表

“Yuta Hashimoto, Honkoku 2: Towards a Large-scale Transcription of Pre-modern Japanese Manuscripts” The 9th Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2019), 2019年8月29日 (査読有)

“Digital Humanities Research in National Museum of Japanese History” International Conference for Museums of Language & Writing 2019, 2019年9月17日, 韓国

「市民参加とAI—「みんなで翻刻」開発者の立場から」日本文化とAIシンポジウム2019, 2019年11月11日

「市民参加で解読するくずし字資料」デジタルアーカイブ学会第1回実践賞受賞記念発表, デジタルアーカイブ学会 第6回定例研究会, 2019年4月20日

「歴史地震研究における市民科学」国際シンポジウム「デジタル化する歴史災害研究」, 2019年7月20日

「市民参加型翻刻の現状と将来」シンポジウム「マシンと読むくずし字—デジタル翻刻の未来像」, 2020年2月8日

「みんなで」作り上げるデジタルアーカイブ—『みんなで翻刻』の取り組み— 第104回デジタルアーカイブサ

ロン, 2020年2月14日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」(2017年度～)

2 外部資金による研究

科学研究費補助金若手研究「クラウドソーシングと機械学習を統合した歴史資料翻刻システムの開発」(2018～2019年度)

5 教育

大学非常勤講師：京都大学文学部情報技術演習II（集中講義）

三 社会活動等

2 講演・カルチャーセンターなど

市民参加による歴史地震史料の大規模テキスト化「みんなで翻刻」, 第24回「震災対策技術展」横浜, 2020年2月7日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

AI文字認識およびIIIFに対応した「みんなで翻刻」の新バージョンを2019年7月に公開した。2020年3月までに130万文字がこの新バージョンで翻刻されている。また, 翻刻テキストを構造化記述する取り組みの一環として, 生命科学分野で実績のあるテキストアノテーションレポジトリ PubAnnotation に翻刻テキストをアップロードし, 地名・日時情報などをマークアップする作業を開始した。

[プロジェクト研究員]

青柳 正俊 AOYAGI Masatoshi プロジェクト研究員 (2019.4～)

【学歴】東京外国語大学外国語学部ドイツ語学科 (1984年卒業) 【職歴】新潟県庁 (1984-1991, 1994-2019), 外務省 (1991-1994) 【専門分野】近代史 【主な研究テーマ】明治初期の対外関係史・経済史, 開港地としての新潟 【所属学会】明治維新史学会, 新潟史学会 【研究目的・研究状況】

●主要業績

1. 【著書】単著：青柳正俊『川港の岸辺で - 新潟ドイツ領事ライスナーの軌跡』(152頁, 2019年, 新潟開港150周年記念「みなとまち新潟」研究助成対象事業)
2. 【論文】青柳正俊「雑居地新潟に関する一考察—「外国人の居留地外居留問題」をめぐる展開」(『東北アジア研究』19号, pp.1-25, 2016年, 査読有)
3. 【論文】青柳正俊「井上条約改正交渉期における新潟での外国人借地問題」(『新潟県立歴史博物館研究紀要』第17号, pp.120-99, 2016年)
4. 【論文】青柳正俊「「外圧」が捉えた新潟における通商司政策」(『東北アジア研究』20号, pp.1-44, 2017年, 査読有)
5. 【論文】青柳正俊「明治三年・新潟通商司をめぐる騒動」(『新潟史学』第76号, pp.1-22, 2018年, 査読有)

●2019年度の研究教育活動

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

③ 機構

ネットワーク型基幹研究プロジェクト 日本関連在外資料調査研究・活用事業「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用—日本文化発信に向けた国際連携のモデル構築—」(研究代表:日高 薫), 研究分担者

(1) 現地調査

ウィーン世界博物館での資料調査, 2019年7月1日～7月5日, オーストリア

(2) その他

ハンドブック (訳書) 『日本を集める—シーボルトが紹介した遠い東の国』(国際連携展示「Collecting Japan. Philipp Franz Siebolds Vision vom Fernen Osten」(ミュンヘン五大陸博物館・国立歴史民俗博物館主催)の展示紹介

三 社会活動等

2 講演・カルチャーセンターなど

青柳正俊「新潟開港」, 敬和学園大学, 2019年7月12日

青柳正俊「外国人居留地のない開港場・新潟を考える」(企画展「開港場新潟展」講演会), 新潟市歴史博物館, 2019年7月27日

青柳正俊「明治の新潟にあった外国領事館」, 新潟市江南区文化会館, 2019年8月18日

青柳正俊「明治三年の危機・新潟通商司」, 新潟郷土史研究会, 2019年12月21日

3 マスコミ

(1) 新聞

日本経済新聞「新潟開港 波乱の舞台裏」, 2019年4月16日

新潟日報「イタリア軒創設者・ミオラ巡り新研究」, 2019年4月21日

(2) 雑誌

Tsurugi Vol.9「明治のリーダーたちと新潟港」pp.44-47, 2019年9月

川邊 咲子 KAWABE Sakiko プロジェクト研究員 (2019.5～)

生年1989年

【学歴】金沢大学人間社会学域人文学類卒業(2013), 金沢大学大学院人間社会環境研究科地域創造学専攻(博士前期課程)修了(2016), 金沢大学大学院人間社会環境研究科人間社会環境学専攻(博士後期課程)入学(2016)

【職歴】日本学術振興会特別研究員DC2(2018.4～2019.5)

【学位】修士(学術)【専門分野】文化人類学, 文化資源学, 物質文化学【主な研究テーマ】地域民具コレクションに見る人とモノとの関係性【所属学会】民具学会, 日本エコミュージアム研究会【研究目的・研究状況】石川県能登半島とフィリピン・イフガオ州をフィールドに, 地域の民具コレクションについての調査・研究を行ってきた。民具そのものというよりも, 人々がそうした過去から残されたモノを集めて残そうとするその活動自体に注目し, 背景にあるモノと人, 記憶との関係について研究・調査を行っている。

地域においてこれまで収集・保存された民具は, 物だけが残り情報が残されていないために学術資料や地域文化資源としての価値が低く, 資料館等の収蔵庫や廃校舎等に死蔵され, 消失の危機にあるものも少なくない。そうした現状において, 民具が研究や博物館活動だけでなく地域活動や日常生活の営みにも役立つようなパブリックヒストリー・リソースとなるには, どのような情報を記録・蓄積し, いかなる方法で活用・共有していくのが望ましいかを考えていく必要がある。基幹研究プロジェクト「総合資料学の創生と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」の取り組みと連携し, そうしたモノと情報の蓄積・共有の在り方について考察を行っている。

●主要業績

論文

1. 川邊咲子, 香坂玲, 松岡光, 内山愉太(2017)「能登半島の事例にみる農具の再利用とストック～静的な「遺物」から動的な「生きた遺産」へ～」『エコミュージアム研究』日本エコミュージアム研究会 21号: pp40-48(査読あり) 2016年12月
2. 川邊咲子(2018)「『集合的記憶』を支える民具:民具の来歴の記録データが残されない原因についての一考」『月刊考古学ジャーナル』ニューサイエンス社 718号: pp50-53, (査読なし) 2018年10月
学会・外部研究会発表
3. Kawabe, S. 「Unfold the Knots of Lifelines of Things : Implementing documentation of biography of a local museum collection in Ifugao, Philippines」『CIDOC Annual Conference 2017』 session 5 at Georgian National Museum, Georgia (September 2017)

4. 川邊咲子「近代化・グローバル以降の社会における生活財の象徴的機能とレジリエンス的機能：フィリピン・イフガオ州にみられる生活財の収集・保存活動の考察より」『平成29年度みんぱく若手研究者奨励セミナー「グローバル現象を人類学はどのように捉えるか」』セッション① 国立民族学博物館, 大阪 (2017年12月)
5. Kawabe, S. 「Why Do We Need to Collect Everyday Life Heritage? : Case Studies of Local Collections in Japan」『RAI2018 : Art, Materiality and Representation』 P021 at SOAS, University of London, UK (June 2018)

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 5 学会・外部研究会発表
川邊咲子「能登半島における民具の収集・保存の状況とその記録情報について:民具をパブリックヒストリー・リソースとして共有・発信するための一考」『学術野営2019in能登半島—地域の学術資料をむすんでひらく会—』石川県珠洲市 (2019年7月6日)

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
 - ① 歴博
基幹研究プロジェクト「総合資料学の創生と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」(研究代表:西谷大)
- 3 国際交流事業
2019 EAJRS conference第30回日本資料専門家欧州協会年次大会「日本学資料の再」への参加, プース発表(ブルガリア・ソフィア) 2019年9月18-21日
バンドン工科大学芸術デザイン学部と「総合資料学人文情報ユニットワークショップ」の開催(国立歴史民俗博物館) 2019年10月8日
LODLAM Summit 2020への参加(Getty Center, ロサンゼルス, アメリカ合衆国) 2020年2月3-5日
International Terminology Working Groupの研究集会への参加, 発表(Getty Center, ロサンゼルス, アメリカ合衆国) 2020年2月6・7日

三 社会活動等

四 活動報告

瀧上 舞 TAKIGAMI Mai プロジェクト研究員 (2018.11 ~)

【学歴】名古屋大学理学部卒業(2007年3月), 東京大学新領域創成科学研究科先端生命科学専攻修士課程修了(2009年3月), 東京大学新領域創成科学研究科先端生命科学専攻博士課程単位取得退学(2012年3月), 同上修了(2015年3月)

【職歴】日本学術振興会特別研究員(DC1)(2009年4月-2012年3月), 日本学術振興会特別研究員(PD)(2011年4月-2015年3月), 山形大学学術研究員(2015年4月-現在), 山形大学プロジェクト教員(講師)(2018年7月-現在), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部プロジェクト研究員(2018.11月-現在)

【学位】博士(生命科学)(東京大学)(2015年3月取得)

【専門分野】生物考古学, 文化財科学, 同位体生態学, 人類学

【主な研究テーマ】アンデス地域におけるラクダ科動物飼育とトウモロコシ栽培の伝播と利用変遷の研究, 先史日本における古人骨の年代学的研究

【所属学会】文化財科学会, 古代アメリカ学会, 人類学会, Society for American Archaeology

【研究目的・研究状況・メールアドレス(任意)】

人類の多様な環境への適応と社会発展との関連性について探求している。特に, 生物考古学資料を用いた同位体生態学的調査により食物資源の獲得戦略の変遷に注目している。

●主要業績

1. 【論文】 Mai Takigami, Kazuhiro. Uzawa, Yuji Seki, Daniel Morales Chocano & Minoru Yoneda, “Isotopic Evidence for Camelid Husbandry During the Formative Period at the Pacopampa Site, Peru.”, *Environmental Archaeology*, in press, 2019. DOI : 10.1080/14614103.2019.1586091. (査読有)
2. 【論文】 瀧上舞, “アンデス文明における食性変化—ナスカ地域の事例より—”, 古代文化, 公益財団法人古代学協会, 第69巻第1号, pp.73-83, 2017年 (査読有)
3. 【論文】 Mai Takigami, Izumi Shimada, Rafael Segura, Hiroyuki Matsuzaki, Fuyuki Tokanai, Kazuhiro Kato, Hitoshi Mukai, Omori Takayuki and Minoru Yoneda, “Assessing the Chronology and Rewrapping of Funerary Bundles at the pre-Hispanic Religious Center of Pachacamac, Peru.”, *Latin American Antiquity*, vol. 25 (3), pp.322-343, 2014. (査読有)
4. 【著書 (分担・共著)】 瀧上舞・米田稔, 「食料へのアクセスと権力生成」, 関雄二 (編) 『アンデス文明—神殿から読み取る権力の世界』, 臨川書店, pp.291-317, 2017年
5. 【著書 (分担・共著)】 瀧上舞・米田稔, 「ナスカ砂漠に生たる人々と食性の変化」, 青山和夫・米延仁志・坂井正人・高宮広土 (編) 『文明の盛衰と環境変動—マヤ・アステカ・ナスカ・琉球の新しい歴史像—』, 岩波書店, pp.157-171, 2014年

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

- 3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など
 - 藤尾慎一郎・木下尚子・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一「考古学的データによるヤポネシア人の歴史の解明—2018年度の調査—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.119~137, 2020年3月27日
 - 藤尾慎一郎・坂本稔・瀧上舞「大阪府東大阪市山賀遺跡第5次調査出土弥生中期人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.139~146, 2020年3月27日
 - 濱田竜彦・坂本稔・瀧上舞「鳥取県鳥取市青谷上寺地遺跡出土弥生中・後期人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.147~162, 2020年3月27日
 - 藤尾慎一郎・坂本稔・瀧上舞「福岡県那珂川市安德台遺跡出土弥生中期人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.189~198, 2020年3月27日
 - 清家章・坂本稔・瀧上舞「香川県高松市高松茶白山古墳出土古墳前期人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.211~219, 2020年3月27日
 - 木下尚子・坂本稔・瀧上舞「鹿児島県島大池遺跡B地点出土貝塚前期人骨等の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.231~241, 2020年3月27日
 - 木下尚子・坂本稔・瀧上舞「沖縄県伊是名村具志川島遺跡群出土貝塚前期人骨の年代学的調査—岩立遺跡, 岩立遺跡西区—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.265~271, 2020年3月27日
 - 木下尚子・坂本稔・瀧上舞「沖縄県伊江島具志原貝塚出土貝塚後期の貝殻集積の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.273~275, 2020年3月27日
 - 木下尚子・坂本稔・瀧上舞「沖縄県読谷村所在遺跡出土貝塚後期の貝殻集積と人骨等の年代学的調査—浜屋原貝塚B, 大久保原遺跡, 中川原遺跡, 片江原遺跡, 大当原遺跡A地点, 木綿原遺跡—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.277~294, 2020年3月27日
 - 木下尚子・坂本稔・瀧上舞「沖縄県うるま市所在遺跡出土貝塚時代の人骨と貝殻集積の年代学的調査—具志川グスク崖下地区遺跡, 平敷屋トウバル遺跡, 宇堅貝塚, 津堅貝塚—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.301~312, 2020年3月27日
 - 木下尚子・坂本稔・瀧上舞「沖縄県北谷町所在遺跡出土貝塚後期の貝殻集積の年代学的調査—伊礼原遺跡・伊礼原D遺跡・小堀原遺跡—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.313~320, 2020年3月27日
 - 木下尚子・坂本稔・瀧上舞「沖縄県宜野湾市新城下原第二遺跡出土の貝殻集積の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.327~331, 2020年3月27日
 - 木下尚子・坂本稔・瀧上舞「沖縄県浦添市所在遺跡出土貝塚後期の貝殻集積の年代学的調査—嘉門貝塚B・嘉門貝塚A—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集, pp.333~338, 2020年3月27日
- 5 学会・外部研究会発表
 - 瀧上舞「同位体分析を用いたインカ帝国におけるトウモロコシ利用の検証」日本西洋史学会第69回大会西洋史学会, 静岡大学, 2019年5月19日, 口頭発表

Mai Takigami, Minoru Sakamoto, Tatsuhiko Hamada, Shin'ichiro Fujio, "Dietary estimation and 14C-dating of Yayoi human remains in the Aoya-kamijichi site, Japan." Radiocarbon and Archaeology, the University of Georgia (USA), May 20-24, 2019, poster

瀧上舞, 坂本稔, 藤尾慎一郎, 濱田竜彦, 門脇隆志「青谷上寺地遺跡出土人骨の年代推定」日本文化財科学会第36回大会, 東京芸術大学, 2019年6月1日, ポスター発表

瀧上舞・坂本稔・藤尾慎一郎「年代測定の新視点」2019年度沖縄県考古学総会, 2019年6月30日, 口頭発表

Mai Takigami, Kazuhiro Uzawa, Yuji Seki, Daniel Morales Chocano, Minoru Yoneda, "Investigation of geological Sr isotope ratio to confirm the camelid pastoralism at Pacomayma, Peru." III Taller de Arqueología e Isótopos Estables en el Sur de Sudamérica (国際ワークショップ), Pica (Chile), September, 24, 2019, Oral

瀧上舞・鶴澤和宏・関雄二・Daniel Morales Chocano・米田稜「パコバンパ遺跡周辺の地質のストロンチウム同位体比調査—ラクダ科動物飼育地域の再検証—」古代アメリカ学会第24回研究大会, 2019年11月30日, 口頭発表

鶴澤和宏・瀧上舞・関雄二・井口欣也「ペルー北高地・クントゥルワシ遺跡出土オマキザル資料の再分析」古代アメリカ学会第24回研究大会, 2019年11月30日

7 その他

瀧上舞「古人骨の年代測定—鹿児島県大池遺跡出土人骨の事例—」『歴史系総合誌「歴博」日本列島の起源とは?』国立歴史民俗博物館, 第218号, 2020年1月30日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

② 他の機関

総合地球環境学研究所同位体環境学共同事業「先スペイン期のアンデス地域におけるヒトの移動とラクダ科動物の出身地域の推定」(一般共同研究, 研究代表者: 瀧上舞, 2019年度)

③ 機構

大学共同利用機関法人機構間連携研究「日本列島における人間・文化の起源とその発展に関する総合的研究」(研究代表者: 斎藤成也, 2018年度~2021年度)

2 外部資金による研究

科学研究費補助金(新学術)「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」(研究代表者: 藤尾慎一郎, 2018~2022年度) 研究協力者

科学研究費補助金(基盤A)「アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築」(研究代表者: 関雄二, 2016~2019年度) 研究分担者

科学研究費補助金(基盤B)「生物考古学資料にもとづく古代アンデス社会の複雑化過程の解明」(研究代表者: 鶴澤和宏, 2016~2019年度) 研究分担者

科学研究費補助金(若手)「古代アンデスの大型家畜利用の変遷とその社会的背景に関する生物考古学研究」(研究代表者: 瀧上舞, 2019~2022年度)

三 社会活動等

3 マスコミ

日本海新聞「弥生ミステリー楽しむ 鳥取で青谷上寺地人骨調査講演会 最新の年代測定や食性紹介」2020年2月23日

山陰中央新報「鳥取 人骨テーマに講演会 青谷の弥生人想定ほど魚食せず」2020年2月24日

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

倭人の真実2020青谷上寺地遺跡出土人骨最新調査研究講演会, とりぎん文化会館, 鳥取県, 2020年2月22日, トークセッション(坂本稔・瀧上舞・濱田竜彦)

四 活動報告

(1) 研究報告

瀧上舞・坂本稔・藤尾慎一郎「年代測定の新しい方法」新学術領域B01班第三回会議, 沖縄県埋蔵文化財セン

ター, 2019年6月29日

(2) 調査・視察

熊本大学収蔵人骨資料サンプリング調査, 熊本大学, 2019年10月7-8日

青谷上寺地遺跡人骨資料サンプリングのための事前調査, 鳥取市青谷町総合支所2階 青谷調査室, 2020年2月23日

野村 彩 NOMURA Aya プロジェクト研究員 (2015.7 ~)

【学歴】(カナダ) McGill大学文学部卒業, McGill大学大学院博士前期課程単位取得退学, 東北大学大学院博士前期課程修了, 東洋大学大学院博士前期課程修了 【学位】 修士(国際文化) 東北大学大学院, 2005; 修士(国際観光学) 東洋大学大学院, 2015 【専門分野】 Bilingualism, 言語教育, 観光学

●2019年度の研究教育活動

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

メタ資料学研究センターにおいて, 「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」事業に関する国際的な活動に従事。研究広報等の英語化, Getty Vocabulary Programの語彙翻訳等に取り組む。

箱崎 真隆 HAKOZAKI Masataka プロジェクト研究員 (2019.7~)

生年: 1982年

【学歴】 福島大学教育学部生涯教育課程環境化学教育コース (2005年卒業), 福島大学大学院教育学研究科教科教育専攻 (2008年修了), 東北大学大学院生命科学研究科生体システム生命科学専攻 (2012年修了)

【職歴】 国立大学法人名古屋大学年代測定総合研究センター研究員 (2012), 国立大学法人名古屋大学年代測定総合研究センター研究機関研究員 (2014), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部特任助教 (2019), 同科研費支援研究員 (2019.4~6), 同プロジェクト研究員 (2019.7~)

【学位】 博士(生命科学) (東北大学) (2012年取得)

【専門分野】 年輪年代学, 放射性炭素年代学, 文化財科学, 古生態学

【主な研究テーマ】 過去1万年を超える年輪幅および酸素同位体比標準年輪曲線を構築する研究, 北半球および北東アジアにおける放射性炭素年代暦年較正の高精度化を目指す研究, 完新世温帯性針葉樹埋没林の古生態を復元する研究

【所属学会】 日本植生史学会, 日本生態学会, 日本文化財科学会, 日本地球惑星科学連合, 日本第四紀学会, 日本AMS研究協会, 日本樹木年輪研究会

【研究目的・研究状況】 近年, 日本で確立された酸素同位体比年輪年代法と炭素14スパイクマッチング法により, 北東アジアの年輪年代測定の最大の障害となっていた「樹種の壁」が打ち破られた。これにより, 様々な地域・時代の木質文化財, 自然埋没木に誤差0年の年代情報の付与が可能となった。年輪酸素同位体比は気候(主に降水量)復元に, 年輪炭素14濃度は太陽活動復元に応用できる。2つの新しい年輪年代法を駆使して, 北東アジアの歴史事象と気候変動, 太陽活動との関係を明らかにする。

●主要業績

1. 【論文】 Hakozaiki M, Miyake F, Nakamura T, Kimura K, Masuda K, Okuno M, Verification of the annual dating of the 10th century Baitoushan Volcano eruption based on AD 774-775 carbon-14 spike, Radiocarbon, 60 (1), pp.261-268. 2018.
2. 【論文】 Miyake F, Masuda K, Nakamura T, Kimura K, Hakozaiki M, Jull T, Lange T, Cruz R, Panyushkina I, Baisan C, Salzer M, Search for annual carbon-14 excursions in the past, Radiocarbon, 59 (2), pp.315-320, 2017.

3. 【論文】Hakozaki M, Kimura K, Tsuji S, Suzuki M, Tree-ring study of a late Holocene forest buried in the Ubuka Basin, southwestern Japan, IAWA Journal, 33 (3), pp.287-299, 2012.
4. 【論文】箱崎真隆, 埋没林でのケース・スタディーからみた日本の年輪年代学研究的現状と展望, 月刊地球/号外, 63, pp.96-105, 2014.
5. 【論文】箱崎真隆, 酸素同位体比年輪年代法による植生史学・考古学研究の新展開, 季刊考古学, 145, pp.77-82, 2018.

●2019年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

Toru Moriya, Hiroko Miyahara, Motonari Ohyama, Masataka Hakozaki, Mirei Takeyama, Hirohisa Sakurai, Fuyuki Tokanai, A Study of variation of the 11-year solar cycle before the onset of the Spoerer Minimum based on annually measured 14C content in tree rings 『Radiocarbon』 61- 6, pp.1749-1754, 2019年12月, 査読有, イギリス

3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など

箱崎真隆・小林謙一・李貞・中塚武, 酸素同位体比年輪年代法と放射性炭素年代法に基づく多古田低地遺跡出土丸木舟の年代測定, 千葉県匝瑳市多古田低地遺跡一豊和 埋蔵文化財調査業務一, 公益財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第367集: 276-279, 2020年3月, 日本

箱崎真隆・小林謙一, 多古田低地遺跡出土丸木舟の樹種, 千葉県匝瑳市多古田低地遺跡一豊和 埋蔵文化財調査業務一, 公益財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第367集: 280-281.2020年3月, 日本

5 学会・外部研究会発表

Minoru Sakamoto, Masataka Hakozaki, Hiromasa Ozaki, Fuyuki Tokanai, Takeshi Nakatsuka, Annual Radiocarbon Dating of Japanese Tree Rings : Early-Modern and Ancient, Radiocarbon and Archaeology 9 th International Symposium, University of Georgia, 2019年5月20日, アメリカ

Hiroko Miyahara, Fuyuki Tokanai, Toru Moriya, Motonari Ohyama, Masataka Hakozaki, Mirei Takeyama, Hirohisa Sakurai, Variation of carbon-14 in tree rings around the onset of the Spoerer Minimum, JpGU 2019, 幕張メッセ, 2019年5月26日

箱崎真隆「樹木年輪と歴史資料からみた10世紀の十和田カルデラと白頭山の巨大噴火の絶対年代」JpGU 2019, 幕張メッセ, 2019年5月27日

坂本稔・箱崎真隆・光谷拓実・中塚武「日本産樹木年輪の炭素14年代測定—年代研究と日本版校正曲線」JpGU 2019, 幕張メッセ, 2019年5月27日

箱崎真隆・木村勝彦・佐野雅規・李貞・對馬あかね・小林謙一・酒井中・駒形あゆみ・中塚武「酸素同位体比年輪年代法による東京都愛宕下武家屋敷群—鎧小路南地区遺跡出土木材の年代測定と産地推定」日本文化財科学会第36回大会, 東京藝術大学, 2019年6月1日

中尾七重・坂本稔・箱崎真隆「丸岡城天守の年代調査1. 江戸期の望楼型天守」日本文化財科学会第36回大会, 東京藝術大学, 2019年6月1日

箱崎真隆・木村勝彦・中塚武・坂本稔・中尾七重「丸岡城天守の年代調査—2. 酸素同位体比に基づくケヤキ製通し柱の年輪年代決定」日本文化財科学会第36回大会, 東京藝術大学, 2019年6月1日

坂本稔・門叶冬樹・箱崎真隆・中尾七重「丸岡城天守の年代調査—3. 単年輪14C測定による校正曲線」日本文化財科学会第36回大会, 東京藝術大学, 2019年6月1日

箱崎真隆「偽年輪判別のための高解像度画像撮影法の開発」2019年度「樹木年輪」研究会, 東京農工大学, 2019年11月23日

Masaki Sano, Masataka Hakozaki, Zhen Li, Takeshi Nakatsuka, Jeong-Wook Seo, I-Ching Chen, Koh Yasue, Katsuhiko Kimura, Development of a tree-ring $\delta 18O$ network for Japan, Taiwan and Korea as a tool to date wooden materials, 6 th Asian Dendrochronology Conference, Birbal Sahni Institute of Palaeosciences Lucknow, 2019年11月24日, インド

M. Hakozaki, F. Miyake, T. Nakamura, 775 and 994 14C event in the tree-rings of northern Japanese trees, EA-AMS 8, 名古屋大学, 2019年12月3日

箱崎真隆・木村淳一・木村勝彦・佐野雅規・對馬あかね・李貞・中塚武「青森県高屋敷館遺跡のPEG処理済出土木材の酸素同位体比年輪年代測定」第34回日本植生史学会, 豊橋市自然史博物館, 2019年12月8日

M. Hakozaiki, Dendrochronological studies of archaeological woods in Japan and Korea, International Workshop on the Development of Isotopic Dendroclimatology and Dendroarchaeology in East Asia, 名古屋大学, 2020年1月7日

佐野雅規・箱崎真隆・李貞・中塚武・Jeong-Wook Seo・I-Ching Chen・安江恒・木村勝彦「古材の年代測定に向けた日本, 台湾, 韓国における年輪酸素同位体比データベースの構築」第70回日本木材学会大会, 鳥取大学, 2020年3月16日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「日本の原始・古代史像新構築のための研究統合による年代歴史学の新展開—新領域開拓と研究発信—」(研究代表者: 藤尾慎一郎, 2015~2020年度)

③ 機構

人間文化研究機構・ネットワーク型基幹研究プロジェクト・地域研究推進事業「北東アジアにおける地域構造の変容: 越境から考察する共生への道」(研究代表者: 池谷和信, 2016~2021年度)

2 外部資金による研究

科学研究費補助金(新学術)「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」(研究代表者: 藤尾慎一郎, 2018~2022年度) 研究協力者

科学研究費補助金(基盤B)「東アジア新石器文化の実年代体系化による環境変動と生業・社会変化過程の解明」(研究代表者: 小林謙一, 2018~2022年度) 研究分担者

科学研究費補助金(挑戦的研究(萌芽))「高精度年代測定法の開発と適用可能な考古・歴史資料の拡大」(研究代表者: 小林謙一, 2019~2021年度) 研究分担者

科学研究費補助金(基盤A)「単年輪¹⁴C測定による較正曲線の地域効果・微細構造の解明」(研究代表者: 坂本 稔, 2018~2021年度) 研究分担者

科学研究費補助金(若手A)「東北日本における過去3400年間の酸素同位体比標準年輪曲線の確立」(2017年度~2020年度) 研究代表者

科学研究費補助金(基盤S)「年輪酸素同位体比を用いた日本列島における先史暦年代体系の再構築と気候変動影響評価」(研究代表者: 中塚武, 2017年度~2021年度) 研究協力者

科学研究費補助金(基盤B)「韓国・日本・台湾産の古材の年代決定を可能にする年輪酸素同位体比データベースの構築」(研究代表者: 佐野雅規, 2017年度~2019年度) 研究分担者

三 社会活動等

2 講演・カルチャーセンターなど

「新年代法「酸素同位体比年輪年代法」の諸成果と展望」中央大学人文科学研究会主催 公開研究会, 中央大学, 2019年4月11日

3 マスコミ

北陸歴史よもやま話「生態系のタイムカプセル」, 読売新聞 北陸版, 2019年12月14日

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

「古い年代を酸素で調べる新しい方法」令和元年度第1回若狭町歴史環境講座, 若狭三方縄文博物館, 2019年7月21日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

(1) 研究会報告

箱崎真隆「東日本及び韓国等における酸素同位体比年輪年代測定の進捗状況」科研費基盤S「年輪酸素同位体比を用いた日本列島における先史暦年代体系の再構築と気候変動影響評価」研究会, 名古屋大学, 2019年8月2日

箱崎真隆「2つの新しい年輪年代法の登場と歴史学・考古学・地球科学資料の高精度年代測定の現状」歴博共同研究「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」第1回異分野連携ユニッ

ト研究会, フクラシア品川, 2019年10月10日

箱崎真隆「縄文時代の酸素同位体比標準年輪曲線の構築状況と展望」科研費基盤B「東アジア新石器文化の実年代体系化による環境変動と生業・社会変化過程の解明」挑戦的研究(萌芽)「高精度年代測定法の開発と適用可能な考古・歴史資料の拡大」合同研究会, 東京大学総合研究博物館, 2019年10月11日

(2) 調査・視察

遺跡出土木材サンプリング調査, 鹿児島県立埋蔵文化財センター, 2019年5月10日

遺跡出土木材サンプリング調査, 印旛郡市文化財センター, 2019年5月30日

遺跡出土木材視察調査, 鹿児島県立埋蔵文化財センター, 2019年5月10日

建築古材サンプリング調査, 奈良県五條市堀家住宅, 2019年6月15~16日

遺跡出土木材サンプリング調査, 埼玉県埋蔵文化財収蔵施設, 2019年6月28日

自然埋没木サンプリング調査, 若狭三方縄文博物館, 2019年7月22日

建築古材年輪年代調査, 国立歴史民俗博物館収蔵庫, 2019年8月21~23日

遺跡出土木材サンプリング調査, 鹿児島県立埋蔵文化財センター, 2019年9月6日

遺跡出土木材サンプリング調査, 寒河江市教育委員会, 2020年3月10~11日